

**2018年12月14～16日**

**沖縄・辺野古土砂投入**

## 政府、辺野古で土砂投入へ 埋め立て工事が本格化、沖縄反発

2018/12/14 09:27 共同通信社



埋め立て用土砂の最初の投入が予定されている沖縄県名護市辺野古沿岸部の区域（中央手前）＝14日午前7時29分（小型無人機から）

政府は14日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先、名護市辺野古沿岸部で土砂投入を始める。埋め立ては本格化し、辺野古移設に反対する沖縄県が反発を強めるのは必至。来年2月に実施する県民投票や工事の規制強化などで対抗し、完成を食い止める考えだ。日米両政府による1996年の普天間返還合意から22年を経て、普天間移設は新たな局面に入った。

政府は、14日から土砂を投入すると県に伝え、政府関係者は午前中にも開始されるとの見通しを示した。土砂投入の現場は、埋め立て予定海域南側の護岸で囲まれた約6.3ヘクタールの区域。

「予定通り土砂を投入」防衛局から連絡、玉城知事が憤り  
朝日新聞デジタル 2018年12月14日10時57分



土砂投入を前に「強い憤りを禁じ得ない」と話す玉城デニー知事＝2018年12月14日午前9時12分、沖縄県庁、伊藤和行撮影

沖縄県の玉城デニー知事は14日朝、登庁時に記者団の取材に応じ、午前8時半に沖縄防衛局から「予定通り土砂を投入する」と連絡があったと明らかにした。県は職員を現場に派遣し、状況を確認する。

玉城知事は「昨日、菅官房長官、防衛相とお会いして、今日の土砂の投入を取りやめるよう、そして工事の中止を申し入れて、さらに、協議をするよう申し入れたにもかかわらず、このように、あくまでも予定ありきで県民の民意を無視して、進められる工事に対しては、私としては強い憤りを禁じ得ない」と話した。

◇

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画で、政府は14日、辺野古沿岸部へ土砂を投入

するため、土砂を積んだ船を米軍キャンプ・シュワブ北側の護岸に着け、ダンプカーに移す作業を始めた。午前中にも、辺野古の海に土砂投入を始める見通し。

## 政府、週明け以降工事加速の方針 辺野古の土砂投入

2018/12/15 18:32 12/15 18:33 updated 共同通信社



沖縄県名護市辺野古の沿岸部の埋め立て予定区域に投入され積もった土砂＝15日午後（小型無人機から）

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設を巡り、防衛省沖縄防衛局は15日午後にも辺野古沿岸部で作業を続けた。14日に船で運び入れた土砂は使い切ったため、投入はいったん中断した。土砂の到着を待って、投入を再開するとみられる。沖縄県が8月に埋め立て承認を撤回したことで工事が一時停止した影響もあり、週明け以降、作業を加速させる方針だ。

土砂は現在、名護市安和の民間企業の栈橋から搬出している。当初は複数の岸壁がある本部港から搬出を目指したが、本部町が「台風被害で港の一部が壊れ、新たな船を受け入れることは不可能だ」として使用を認めず、断念した。

## 辺野古が唯一の解決策—政府 問答無用の暴挙—野党

2018/12/14 12:18 共同通信社

菅義偉官房長官は14日の記者会見で、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先、名護市辺野古沿岸部への土砂投入に関し「日米同盟の抑止力の維持と普天間飛行場の危険除去を考えたとき、辺野古移設が唯一の解決策だ」と改めて理解を求めた。野党は「問答無用とばかりに暴挙に出た」（立憲民主党の福山哲郎幹事長）と批判した。

菅氏は「目に見える形で沖縄の負担軽減を実現するとの政府の取り組みを説明し、地元の皆さまの理解と協力を得られるよう、粘り強く取り組む」とも語った。

福山氏は「怒りを禁じ得ない。土砂投入をやめ対話を再開するよう強く求めたい」と国会内で記者団に語った。

## 辺野古に土砂投入＝原状回復困難、沖縄県反発—日米合意22年で節目

時事通信 2018年12月14日13時00分

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設に向け、政府は14日午前、名護市辺野古沿岸部の埋め立て海域に土砂の投入を始めた。埋め立てが本格化すれば原状回復は一層困難になる。辺野古移設反対を掲げる玉城デニー知事は「激しい憤りを禁じ得ない」と反発した。普天間移設問題

は日米両政府の返還合意から22年を経て、大きな節目を迎えた。



今回、第1弾として土砂投入が開始されたのは、沖縄本島東海岸の辺野古崎南側の護岸で区切られた約6万3000平方メートルの海域。防衛省沖縄防衛局は14日朝、同日中の土砂投入を県に通知した。名護市西海岸の棧橋から船で運ばれた土砂が護岸に積み下ろされた後、ダンプカーで埋め立て海域まで運ばれ、投入された。



辺野古埋め立て海域への土砂投入に関し、記者団の取材に応じる沖縄県の玉城デニー知事＝14日午前、那覇市の県庁

玉城氏は県庁で記者会見し、「工事を強行すれば県民の怒りはますます燃え上がる」と表明。「違法、強硬なやり方は絶対に認められず、あらゆる手段を講じる」と述べた。埋め立て承認撤回の効力を一時停止した石井啓一国土交通相の判断を覆すため、総務省の国地方係争処理委員会の審査への対応に全力を挙げる構えだ。

一方、菅義偉官房長官は記者会見で「日米同盟の抑止力維持と普天間飛行場の危険除去を併せ考えたとき、辺野古移設が唯一の解決策だ」と重ねて強調。沖縄の負担軽減に努める考えも示し、「地元の理解、協力を得られるよう粘り強く取り組みたい」と語った。

**政府、沖縄・辺野古で土砂投入 埋め立て工事が本格化**  
2018/12/14 12:48 共同通信社



米軍普天間飛行場の移設先、沖縄県名護市辺野古の沿岸部で始まった埋め立て用土砂の投入作業＝14日午前11時2

分

政府は14日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先、名護市辺野古沿岸部で土砂投入を始めた。埋め立ては本格化し、辺野古移設に反対する沖縄県が反発を強めるのは必至。来年2月に実施する県民投票や規制強化などで対抗し、工事を食い止める考えだ。埋め立て開始で、原状回復は困難になる。日米両政府による1996年の普天間返還合意から22年を経て、普天間移設は新たな局面に入る。

玉城デニー知事は土砂投入を受けて県庁で記者会見し「県民を諦めさせようと躍起になっている」と政府を批判。「法治国家や民主主義国家ではあってはならないことだ」とも語った。



沖縄県名護市辺野古の沿岸部で待機する、埋め立て用の土砂を積んだ運搬船＝14日午前7時25分（小型無人機から）



沖縄県名護市辺野古で、沿岸部埋め立てに抗議する女性を取り押さえる機動隊員＝14日午前6時39分

**府、辺野古予定区域に土砂投入...沖縄県は反発**  
読売新聞 2018年12月14日 13時28分



辺野古沿岸部の埋め立て予定区域に投入される土砂（14日午前11時5分、沖縄県名護市で、読売ヘリから）＝中司雅信撮影





政府、辺野古予定区域に土砂投入

政府は14日午前、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設先となる名護市辺野古で、埋め立て予定区域への土砂投入を始めた。日米両政府が1996年に同飛行場の返還で合意して以降、建設予定海域に土砂が投入されたのは初めてで、移設計画は新たな段階を迎えた。移設に反対する県は反発を強めている。

土砂投入は、埋め立て区域南側の護岸で囲まれた区域で行われた。区域北側で建設中の護岸で土砂を作業船からダンプカーに積み替えた後、南側の埋め立て予定地まで陸路で運び、重機で投入した。

投入作業が始まった区域は、埋め立て部分全体の約4%に当たる約6ヘクタール。防衛省は、この区域の埋め立て工事を半年程度で終わらせる方針だ。

(ここまで302文字 / 残り479文字)

### 辺野古土砂投入 沖縄知事、猛反発「法治国家としてあるまじき行為」

毎日新聞 2018年12月14日 21時01分(最終更新 12月14日 22時55分)



辺野古沿岸部の埋め立て海域で、ダンプカーから次々と投入される土砂＝沖縄県名護市で2018年12月14日午後3時35分、野田武撮影



厳しい口調で政府を批判する玉城デニー知事＝那覇市の沖縄県庁で2018年12月14日午前11時56分、遠藤孝康撮影

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への県内移設計画で、防衛省は14日、辺野古沿岸部に土砂を投入し、埋め立て工事を始めた。1972年の沖縄の本土復

帰後、初めてとなる大型米軍基地の建設が本格化した。移設に反対する沖縄県の玉城(たまき)デニー知事は「県の要求を一顧だにすることなく土砂投入を強行したことに激しい憤りを禁じ得ない」と強く反発。日米両政府が96年4月に普天間飛行場の返還に合意して22年余。混迷が続いてきた移設計画は大きな節目を迎えた。

沖縄では2014年以降、2代続けて移設阻止を掲げた知事が誕生し、計画の見直しを求めてきた。玉城知事は県庁で緊急記者会見を開き、「法をねじ曲げ、民意をないがしろにして工事を進めるのは、法治国家、民主主義国家としてあるまじき行為だ」と厳しく批判。「国は一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ねて県民を諦めさせようと躍起だが、工事を強行すればするほど県民の怒りは燃え上がる」と指摘し、移設阻止のために「あらゆる手段を講じる」と強調した。

埋め立て予定海域の一部には軟弱な地盤があり、大規模な地盤改良工事には県への設計変更の申請が必要になるとの指摘もある。玉城知事は承認権や、知事選など多くの選挙で示されてきた民意を盾に、今後も政府に移設計画の断念を迫る考えだ。来年2月24日には辺野古移設の賛否を問う県民投票も予定されている。

米軍キャンプ・シュワブ沿岸部に建設する普天間飛行場の代替施設は長さ1800メートルの滑走路2本をV字形に整備。総面積はシュワブの陸上部分を含めて約205ヘクタールで、うち約160ヘクタールを埋め立てる。東京ドーム16・6杯分に相当する土砂2062万立方メートルを使う。

防衛省は水深の浅いシュワブ南側での工事を先行してきた。全体の埋め立て面積の4分の1にあたる二つの海域(計約39ヘクタール)を護岸で囲い、14日はうち6・3ヘクタールの海域に土砂を投入した。南側の海域の埋め立ては早ければ半年で完了するが、水深の深いシュワブ東側の工事はほぼ未着手だ。

当初の計画では護岸工事の開始(17年4月)から5年で埋め立てを完了し、その後、3年で必要な施設の設置や手続きを終える予定だったが、既に工事は遅れている。普天間飛行場の返還時期は早ければ22年度とされているが、代替施設の建設が前提とされるため返還時期は見通せていない。

辺野古移設を巡っては、翁長雄志(おながたけし)知事(当時)が15年10月に前知事による埋め立て承認を取り消したが、16年12月に取り消しを違法とする県側敗訴の最高裁判決が確定した。県は今年8月、急逝した翁長氏の遺志を継ぎ、軟弱地盤の存在などを理由に承認を撤回。工事は一時止まったが、石井啓一国土交通相が承認撤回の効力を止める執行停止を求めた防衛省の申し立てを認め、11月に工事が再開された。【遠藤孝康】

### 辺野古土砂投入を強行 政府、沖縄県の反対押し切る

毎日新聞 2018年12月14日 11時07分(最終更新 12月14日 14時57分)



沖縄県名護市辺野古沿岸部の埋め立てが始まり、投入される土砂＝2018年12月14日午前11時02分、本社ヘリから

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画で、防衛省は14日、辺野古沿岸部への埋め立て用土砂の投入を始めた。本格的な埋め立て工事の着手で、このまま進めば辺野古の海の原状回復は難しくなる。日米両政府が1996年4月に普天間飛行場の返還に合意して22年余。沖縄では2014年以降、2代続けて移設阻止を掲げる知事が誕生したが、政府が沖縄の強い反対を押し切って土砂投入を強行したことで、移設計画は大きな節目を迎えた。

72年の沖縄の本土復帰後初めて大型米軍基地建設が本格化したことに対し、9月の知事選で移設反対を訴えて就任した玉城（たまき）デニー知事は徹底抗戦する構えだ。土砂投入に先立って、玉城知事は14日午前、県庁で記者団に「あくまでも予定ありきで、県民の民意を無視して進められる工事に強い憤りを禁じ得ない」と語った。

埋め立て予定海域の一部には軟弱な地盤が存在するとの指摘があり、大規模な地盤改良工事には県への設計変更の申請が必要になる可能性もある。玉城知事は承認権や民意を盾に、今後も政府に移設計画の断念を迫る考えだ。来年2月24日には辺野古移設の賛否を問う県民投票も予定されている。

防衛省沖縄防衛局が土砂投入を始めたのは、米軍キャンプ・シュワブ南側の護岸で囲った海域（6.3ヘクタール）。埋め立て区域全体の約4%にあたる。土砂は名護市の民間会社の栈橋から船で運び、護岸に接岸させた。そこから土砂をダンプカーに移し替え、シュワブ内を通過して南側に運び、海への土砂投入を始めた。



名護市辺野古沿岸部＝沖縄県名護市で、本社機「希望」から撮影

シュワブ沿岸部に建設する普天間飛行場（約480ヘクタール）の代替施設は長さ1800メートルの滑走路2本をV字形に整備。総面積は約205ヘクタールで、うち約160ヘ

クタールを埋め立てる。東京ドーム16・6杯分に相当する土砂2062万立方メートルを使う。

防衛省は水深の浅い南側での工事を先行。既に護岸で囲った二つの海域計約39ヘクタールは早ければ半年で埋め立てが完了するが、水深の深い東側の工事はほぼ未着手だ。当初の計画では護岸工事の開始（17年4月）から5年で埋め立てを完了し、その後、3年で必要な施設の設置や手続きを終える予定だが、既に工事は遅れている。普天間飛行場の返還は代替施設の建設が前提で、13年の日米合意で返還時期を「22年度またはその後」とするが、22年度の返還は遅れることが確実だ。

辺野古移設を巡っては、13年12月に当時の仲井真弘多（なかいま・ひろかず）知事が政府の埋め立て申請を承認。14年12月に就任した翁長雄志（おなが・たけし）知事が15年10月に承認を取り消したが、16年12月に承認取り消しを違法とする県側敗訴の最高裁判決が確定した。

今年8月に膝（すい）がんで急逝した翁長氏の遺志を継ぎ、県は8月31日に軟弱地盤の存在などを理由に「承認の要件を充足していない」として埋め立て承認を撤回したが、石井啓一国土交通相が承認撤回の効力を止める執行停止を決め、防衛省が11月1日に工事を再開した。

県は国交相の決定を不服として国の第三者機関「国地方係争処理委員会」に審査を申し出ており、今後、法廷闘争に発展する可能性もある。【遠藤孝康】

## 政府、辺野古に土砂投入 県民投票を意識し年内着手

2018/12/14 17:00 情報元日本経済新聞 電子版

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画を巡り、政府は14日、埋め立て海域への土砂投入に踏みきった。当初計画より4カ月ほど遅れた。2019年2月24日に投開票が決まった辺野古移設の是非を巡る県民投票などを考慮し年内着手にこだわった。移設反対を主張する玉城デニー知事は追加の対抗措置を検討する。

「早期に辺野古移設と普天間返還を実現したい」。菅義偉官房長官は14日の記者会見で、移設…

## 政府、辺野古に土砂投入 沖縄県との対立激化

日経新聞 2018/12/14 9:05 (2018/12/14 12:10 更新)

政府は14日午前、米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設工事で土砂の投入を始めた。日米両政府による1996年の普天間返還の合意以降、移設工事は一つの節目を迎えた。移設に反対する玉城デニー知事は反発しており、政府と県の対立は一層激しくなる。

菅義偉官房長官は14日の閣議後の記者会見で「政府の取り組みを丁寧に説明し、知事理解と協力を得られるよう粘り強く取り組みたい」と述べた。「日米同盟の抑止力の維持と普天間飛行場の危険除去を考えたときに辺野古移設が唯一の解決策だ」と強調した。



キャンプ・シュワブのゲート前で抗議する人たち（14日午前、沖縄県名護市）

玉城氏は14日午前、土砂投入を受けて県庁で記者会見し「激しい憤りを禁じ得ない」と述べた。「国の強硬なやり方は認めることはできず、あらゆる手段を講じていく」と述べた。

県は11月、県による埋め立て承認撤回を執行停止とした国土交通相の決定を不服とし、総務省の第三者機関「国地方係争処理委員会」に審査を申し出ている。玉城氏は会見で「同委員会への審査申し出など、執行停止の効力をとめることに全力をあげる」と強調した。

工事の区域は米軍キャンプ・シュワブ沿岸の約6万平方メートル。2020年7月末までの工期を計画する。政府は当初、今年8月17日に土砂の投入を始める予定だった。同月8日の翁長雄志前知事の死去や、その後の知事選などへの影響を考慮し延期していた。

土砂の投入は埋め立て予定地の原状回復が困難になる工程。移設反対派は14日午前、キャンプ・シュワブ周辺で工事中止を求め抗議活動をした。

政府は今回の工事で使う土砂の一部を同県本部町の港から運ぶ計画だった。台風被害で同町の許可が得られず、名護市の民間施設から搬出した。

県内では19年2月24日に辺野古移設の是非を問う県民投票が予定される。玉城知事は反対の民意を改めて示す機会と位置づける。

辺野古移設は13年に仲井真弘多元知事が政府の埋め立て申請を承認し、17年4月に護岸工事が始まった。14年に就任した翁長氏以降、県知事は移設反対派が就き、政府と対立が続く。

県は国地方係争処理委員会への審査申し出以外にも、裁判所への提訴や移設工事に関係する条例改正などの対抗策を検討しているが、手段が乏しくなっているのが現状だ。

## 政府、辺野古に土砂投入 普天間返還合意から22年で節目

産経新聞 2018.12.14 11:02



米軍普天間飛行場の移設先、沖縄県

名護市辺野古の沿岸部で始まった埋め立て用土砂の投入作業＝14日午前11時2分

政府は14日、米軍普天間飛行場＝沖縄県宜野湾（ぎのわん）市＝の移設先の名護市辺野古沿岸で埋め立てに着手した。日米両政府が平成8年に普天間飛行場の返還で合意してから22年、辺野古移設は大きな節目を迎えた。沖縄県は辺野古移設に反対しており、玉城（たまき）デニー知事は知事権限の行使や辺野古移設の賛否を問う県民投票（来年2月24日投開票）など工事を遅らせるための対抗手段を取る見通しだ。

防衛省は14日午前、県に対し、同日中に辺野古で土砂を投入すると通知した。県は職員を現場周辺に派遣し、玉城氏ら県幹部は会議を開いて対応を協議する。

玉城氏は14日午前、県庁で記者団に「工事の中止を申し入れ、さらに協議するよう申し入れたにもかかわらず、あくまで予定ありきで県民の民意を無視して進められる工事に強い憤りを禁じ得ない」と述べた。

14日に土砂投入が行われるのは、埋め立て予定海域約160ヘクタールのうち約6・3ヘクタールの区域。民間企業が所有する名護市の棧橋から搬出された土砂を作業船から工事車両に積み替え、陸路で現場海域へ運ぶ。

辺野古移設は、住宅密集地に位置する普天間飛行場の危険性を除去するため、比較的人家が少ない辺野古に代替施設を建設する計画。政府は1年に移設先を辺野古と閣議決定し、18年には危険性と騒音を軽減するために2本の滑走路を建設する現行案が固まった。

25年12月に仲井真弘多（なかいま・ひろかず）知事（当時）が埋め立て承認を行ったが、26年11月に初当選した翁長雄志（おなが・たけし）前知事が承認を取り消すなどして対抗した。政府は今年8月に土砂投入を計画していたが、同月に翁長氏の死去、県による埋め立て承認の撤回が続き実施を見送った。10月30日に国土交通相が埋め立て承認撤回の効力を停止し、土砂投入に向けた環境が整っていた。

## 政府「奇策」連発 普天間22年返還困難 辺野古土砂投入

東京新聞 2018年12月15日 06時50分

政府は十四日、米軍普天間（ふてんま）飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の移設先、名護市辺野古（へのこ）沿岸部で土砂投入を始めた。埋め立てが本格化し、原状回復は困難になった。辺野古移設に反対する県は反発。来年二月に実施する県民投票で民意を明確にし、対抗する構えだ。玉城（たまき）デニー知事は辺野古沖合に存在が指摘される軟弱地盤の改良工事を巡り、将来的に知事権限を行使する考えも示した。日米両政府による一九九六年の普天間返還合意から二十二年を経て移設問題は新たな局面に入った。

玉城知事は県庁で記者会見し「激しい憤りを禁じ得ない。一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね、県民を諦め

させようと躍起になっている」と政府を批判。「民意をないがしろにして工事を進めることは、法治国家や民主主義国家ではあってはならないことだ」とも語った。

菅義偉（すがよしひで）官房長官は記者会見で「全力で埋め立てを進めていく」と明言。岩屋毅防衛相は記者団に「抑止力を維持しつつ沖縄の負担を軽減するためには、辺野古という方法しかない」と強調した。二〇二二年度とされる普天間飛行場返還は達成困難との認識も示した。

土砂投入の現場は、埋め立て予定海域南側の護岸で囲まれた約六・三ヘクタールの区域。午前九時ごろ、土砂を積んだ運搬船が栈橋として用いる護岸に接岸し、土砂をダンプカーに積み替え、午前十一時ごろ海に向けて投入した。作業は夕方まで続き、現場周辺には早朝から反対派の市民らが詰めかけ、抗議活動を展開した。

#### ◆怒り増幅

沖縄県名護市辺野古への土砂投入に向けては、政府は奇策とも言うべき手法を連発し、県側の怒りを増幅させてきた。国の機関が「私人」として国に救済を求めたり、公共の港でなく民間企業の栈橋から土砂を搬出したりした。

辺野古沿岸部の埋め立ては、県が八月末に承認を撤回したため工事が中断。沖縄防衛局が行政不服審査法に基づき撤回の効力停止を申し立てると、石井啓一国土交通相はそれを認めた。

不服審査法は、行政機関から不利益処分を受けた私人の救済を図る制度。防衛省は沖縄防衛局を「私人と同じ」と主張したが、私人が米軍基地を建設できるはずがない。玉城デニー知事は政府内の手続きを「自作自演」と批判した。

政府が十一月に工事を再開した後の手続きも、地元の理解を得ようとする姿勢を欠いた。当初、沖縄本島北部の本部（もとぶ）港（本部町）から土砂を搬出する計画だったが、岸壁の使用許可権限を持つ同町が「台風被害で受け入れ不可能」と使用を認めない方針を示した。

すると、政府は自治体の許可が不要な民間セメント会社の栈橋を使い、船に土砂を積み込んだ。玉城氏は「十分な事前説明や届け出もないままで、甚だ遺憾」と作業停止を求めたが、政府は聞き入れなかった。

#### ◆責任転嫁

土砂投入後も政府の高圧的な姿勢は変わらない。岩屋毅防衛相は記者会見で、二〇二二年度とされる普天間飛行場返還の目標が遅れる可能性に触れ「一度承認された埋め立て許可が撤回されるなどの変遷があった」と県に責任を転嫁するような発言をした。（小椋由紀子）

（東京新聞）



沖縄県名護市辺野古の沿岸部に投入され

る埋め立て用の土砂＝14日午後3時36分

#### 辺野古に土砂投入 新基地建設、本格化

東京新聞 2018年12月14日 夕刊



沖縄県名護市辺野古の沿岸部に次々

と投入される埋め立て用土砂＝14日午前11時52分



政府は十四日、米軍普天間（ふてんま）飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の移設先、名護市辺野古（へのこ）沿岸部に土砂投入を始めた。埋め立ては本格化し、辺野古移設に反対する沖縄県が反発を強めるのは必至。来年二月に実施する県民投票や規制強化などで対抗し、工事を食い止める考えだ。埋め立て開始で、原状回復は困難になる。日米両政府による一九九六年の普天間返還合意から二十二年を経て、普天間移設は新たな局面に入る。

玉城（たまき）デニー知事は県庁で記者会見し「激しい憤りを禁じ得ない。一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね、県民を諦めさせようと躍起になっている」と政府を批判。「民意をないがしろにして工事を進めることは、法治国家や民主主義国家ではあってはならないことだ」とも語った。

岩屋毅防衛相は首相官邸で記者団に「普天間飛行場の一日も早い全面返還を成し遂げるために工事を進めていく。抑止力を維持しつつ沖縄の負担を軽減するためには、辺野古という方法しかない」と強調した。二〇二二年度とされる普天間飛行場の返還は、達成が困難だとの認識も示した。

土砂投入の現場は、埋め立て予定海域南側の護岸で囲まれた約六・三ヘクタールの区域。午前九時ごろには、土砂を積んだ運搬船が栈橋として用いる護岸に接岸し、土砂をダンプカーに積み替え、午前十一時ごろ、海に向けて投入した。現場周辺には早朝から反対派の市民らが詰めかけ、抗議活動を繰り返した。

防衛省の計画では、埋め立て予定海域は全体で約百六十六ヘクタール。昨年四月に第一段階として、施設の外枠となる護岸の造成に着手した。当初は埋め立てに要する期間は

計五年としていたが、工事手順の変更などによりずれ込む公算が大きい。

## 民意より22年前の日米合意重視 辺野古土砂投入

東京新聞 2018年12月14日 夕刊

＜解説＞ 安倍政権が沖縄県名護市辺野古の海で、米軍の新基地建設の本格化を意味する土砂投入を始めた。九月の知事選で県民は新基地反対の意思を示し、玉城デニー知事は民意を背に工事中止を訴え、話し合いを求める。埋め立てが進み、原状回復が困難になってからでは遅い。政権は「工事ありき」の姿勢を転換して、まずは沖縄と向き合い、なぜ県内移設なのか、なぜ民意より二十年以上前の日米合意を重視するのかの説明を尽くすべきだ。

新基地建設によって米側から返還される予定の宜野湾市の米軍普天間飛行場は市街地にあり、世界一危険な基地といわれる。政権が強調する通り、その危険性除去は急務ではある。

だが、新基地建設に関しては「辺野古が唯一の解決策」の一点張り。沖縄は戦後七十年を過ぎて、今も在日米軍専用施設の70%を抱える。なぜ沖縄だけが基地の負担を押し付けられるのか。政権は理解を得られるだけの説明をしていない。

共同通信の十、十一月の全国世論調査では、いずれも新基地建設を進める政府の姿勢を「支持しない」との回答が過半数を占め、国民の目も厳しくなっている。

沖縄では来年二月、新基地建設の是非を問う県民投票が行われる。政権の姿勢からは、年内に既成事実を積み重ね、県民投票を無力化させたい思惑が透けて見える。安倍晋三首相は、ことあるごとに「沖縄に寄り添う」と発言しているが、県民の心に響いているとは思えない。（関口克己）

## 辺野古、新局面に土砂投入を強行、沖縄反発

時事通信 2018年12月14日 20時18分



辺野古の埋め立て海域に投入される土砂＝14日午前、沖縄県名護市（時事通信ヘリより）

政府は14日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設に向け、名護市辺野古沿岸部の埋め立て海域への土砂投入に着手した。政府は工事を進め既成事実化を図りたい考えで、玉城デニー知事は「県民の怒りはますます燃え上がる」と強く反発した。作業が本格化すれば、原状回復は一層困難となる。日米両政府が普天間移設で合意してから22年。移設問題は新たな局面を迎えた。

14日に埋め立てが始まったのは、辺野古崎南西部の護

岸で囲まれた約6万3000平方メートルの海域で、ダンブカーが次々と土砂を運び込んだ。



岩屋毅防衛相は14日、東京都内で記者団に「南西地域の安全保障環境を考えたとき、抑止力を維持しつつ沖縄の負担を軽減するためには、辺野古移設という方法しかない」と強調した。

菅義偉官房長官は同日の記者会見で、政府が掲げた2019年2月までの普天間飛行場の運用停止について「実現は難しい状況だ」と認めつつ、「全力で埋め立てを進めたい」と語った。

玉城氏は県庁で会見し、県の埋め立て承認撤回の効力を一時停止した石井啓一国土交通相の決定は「違法だ」と批判。「国が地方の声を無視し、国策を強行するやり方は地方自治を破壊する」とし、「違法に投入された土砂は当然、原状回復されなければならない」と訴えた。玉城氏は15日、辺野古を視察する。

## 辺野古土砂投入 「構造的差別」変わらず

毎日新聞 2018年12月14日 21時08分(最終更新 12月14日 22時44分)



沖縄県名護市辺野古沿岸部の埋め立てが始まり、投入される土砂＝2018年12月14日午後3時3分、本社ヘリから 辺野古移設に「ノー」を突き付けた沖縄県知事選からわずか2カ月半。政府はなりふり構わず移設の実現に突き進み、土砂投入に踏み切った。米軍普天間飛行場の県内移設問題は後戻りできない局面に突入した。

多くの沖縄の人たちが今、憤りや悔しさ、無力感を抱き、辺野古の海が埋められていく光景を見ている。県内での代替施設建設を条件に日米が普天間飛行場の返還に合意して22年半。この間、沖縄側が「苦渋の決断」で受け入れた計画は簡単にほごにされた末、選挙で何度も示した民意も無視され続けてきた。

果たして全国の米軍専用施設の約 70%が集中する沖縄で、新たな基地の建設にもろ手を挙げて賛成した人がどれほどいただろうか。「普天間飛行場が返ってくるならば」と容認したか、「なぜまた沖縄に」と反対したか——。政治的立場に関係なく「これ以上の基地はない方がいい」というのが本音であり、民主党政権が県外移設を模索した後は「移設反対」の明確な意思表示が続いてきたはずだ。

それでも安倍政権は「日米の合意事項」として移設計画の見直しを拒み、米国との約束を果たすためには民意を踏みにじることかもしれない。「唯一の解決策」「沖縄に寄り添う」と繰り返すだけで移設を強行する「民主主義国家」の有りようを、沖縄だけでなく、多くの国民が疑問に感じ始めているのではない。

埋め立ては始まったが、今後の工事はなお難航が予想される。「普天間か辺野古か」といった不幸な選択をいつまで沖縄に背負わせ続けるのか。政府が普天間飛行場の運用停止と移設計画の見直しを米国に求めなければ、沖縄が過重な基地負担を「構造的差別」ととらえる構図は変わらない。【遠藤孝康】

### 「強行すればするほど県民怒り」 玉城デニー知事、辺野古阻止を改めて強調

沖縄タイムス 2018年12月14日 12:39

沖縄防衛局が名護市辺野古の新基地建設で埋め立て土砂を海域の一部に投入したことを受け、玉城デニー知事は14日午前、県庁で会見し、菅義偉官房長官、岩屋毅防衛相に中止を求めたにもかかわらず土砂を投入したことを「県の要求を一顧だにせず強行したことに激しい怒りを禁じ得ない」と強く反発した。

前



記者会見で質問に答える玉城デニー知事（中央）と県幹部ら＝14日、県庁



辺野古埋め立て工事の土砂投入について憤りを示す玉城デニー知事＝14日、沖縄県庁



土砂投入を受け会見する玉城デニー知事＝14日、県庁

県の埋め立て承認撤回を執行停止した国土交通相の決定は違法とし、国が既成事実を積み重ねるための工事と指摘した上で「逆に県民の強い反発を招き、工事を強行すればするほど県民の怒りはますます燃え上がる」と強調。「多くの県民の付託を受けた知事として、ぶれることなく新基地建設に反対する民意に添い思いに応える」と建設阻止の考えを改めて強調した。

沖縄防衛局は14日午前8時半に県に「本日埋め立て工事に着手する」と連絡。県は辺野古の工事現場に職員を派遣し、土砂投入の作業を確認した。

14日午後は、県が国交相の撤回の執行停止は違法として取り消しを申し出た総務省の第三者機関「国地方係争処理委員会」が1回目の審議を開く。

### 辺野古土砂投入：デニー知事のコメント全文「地方自治を破壊する行為」

沖縄タイムス 2018年12月14日 12:36

本日、普天間飛行場代替施設建設事業に係る名護市辺野古の工事現場に職員を派遣したところ、土砂投入作業が行われたことを確認しました。沖縄県が去る8月31日に行った埋立承認取消しに対して沖縄防衛局が、行政不服審査制度を悪用し、自らを「固有の資格」ではなく私人と同様の立場であるとして、審査請求及び執行停止申立てを行ったことは違法であり、これを受けて国土交通大臣が行った執行停止決定もまた、違法で無効であります。



辺野古埋め立て土砂投入後に開かれた玉城デニー知事の記者会見＝14日、県庁



記者会見で記者の質問を聞く玉城デニー知事（右）と富川盛武副知事＝14日、沖縄県庁





辺野古埋め立て土砂投入について記者の質問に答える玉城デニー知事（左）と謝花喜一郎副知事＝14日県庁

県は、このような違法な執行停止決定の取消しを求めて去る11月29日に国地方係争処理委員会に審査を申し出ておりますが、同委員会での審査は済んでおらず、現時点において何ら、本件執行停止決定に係る法的な判断は示されておられません。

また、県は、去る12月12日に、沖縄防衛局に対して行政指導文書を出し、違法無効な本件執行停止決定を根拠として埋立工事を行うことは許されないこと等から、工事を進めることは断固として容認できず、ましてや土砂を投入することは絶対に許されないとして、直ちに工事を中止するよう強く求めたところであります。

私は、昨日、菅官房長官及び岩屋防衛大臣と面談し、行政指導文書の内容を説明するとともに、違法な土砂投入を行うことは決して容認できないことを伝え、改めて土砂投入の中止を強く要求しました。それにもかかわらず、国が、このような県の要求を一顧だにすることなく土砂投入を強行したことに対し、激しい憤りを禁じ得ません。

国は、一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね、県民をあきらめさせようと躍起になっていますが、このような行為は、逆に沖縄県民の強い反発を招き、工事を強行すればするほど県民の怒りはますます燃え上がるということを認識するべきであります。

数々の違法な行為を行い、法をねじ曲げ、民意をないがしろにし、県の頭越しに工事を進めることは、法治国家そして国民に主権があるとする民主主義国家において決してあってはならないことであります。

国が、地方の声を無視し、法をねじ曲げてでも国策を強行するやり方は、地方自治を破壊する行為であり、本県のみならず、他の国民にも降りかかってくるものと危惧しております。

沖縄県民、そして全国民の皆様には、このような国の在り方をしっかりと目に焼き付け、心に留めていただき、法治国家そして民主主義国家としてあるまじき行為を繰り返す国に対し、共に声を上げ、共に行動していただきたいと思っております。現時点ではまだ埋立工事全体の一部がなされているにすぎず、また、工事の権限のない者によって違法に投入された土

砂は、当然に原状回復されなければなりません。

県としては、国地方係争処理委員会への審査申出など、執行停止の効力を止めることに全力をあげているところであり、今回土砂を投入したとしても、今後、軟弱地盤等へ

の対応が必要であり、辺野古新基地の完成は見通せないものであります。

普天間飛行場の5年以内運用停止を含む危険性の除去は喫緊の課題であり、県としては、今後13年以上にも及ぶ固定化は認められません。今後も引き続き、同飛行場の一日も早い閉鎖・返還・県外・国外移設及び運用停止を含む危険性の除去を政府に対し、強く求めてまいります。

私は、多くの県民の負託を受けた知事として、ぶれることなく、辺野古新基地建設に反対するという民意に添い、その思いに応えたいと思っておりますので、県民・国民の皆様からも一層の御支援、御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年12月14日 沖縄県知事 玉城デニー

「辺野古の海、壊すな」 基地前、故翁長氏の妻ら抗議  
東京新聞2018年12月14日 夕刊



沖縄県名護市辺野古で、沿

岸部埋め立てに抗議する人たち＝14日午前6時37分（魚眼レンズ使用）

政府が十四日午前、沖縄県名護市辺野古（へのこ）の新基地建設に向けた沿岸部への土砂投入を開始した。同日朝から現地や東京都内で抗議集会を開いている人たちからは、強い憤りの声が上がった。（神谷円香、宮尾幹成、山本哲正）

名護市の米軍キャンプ・シュワブ演習場前では、早朝から集まった人たちがゲート前に座り込み、辺野古への土砂投入反対を訴えた。沖縄平和運動センターの山城博治議長（66）は「どのような局面が来ようとも揺るぎない決意でいきましょう」と呼び掛けた。

午前十一時、土砂投入が始まった時には演習場のほうを向き、警戒する機動隊の前で「土砂を入れるな」「海を壊すな」と抗議。翁長雄志前知事の妻樹子（みきこ）さん（63）も駆け付け、声を張り上げた。樹子さんは報道陣に「これだけ民意をないがしろにできる国って何でしょう。県民が黙っているわけがない」と語気を強めた。

米軍普天間飛行場のある宜野湾市から午前三時に起きて参加した横田チヨ子さん（90）は、「一生懸命立ち向かっているのに、怒りよりも悲しみのほうが強い。ここに来ている本土の人には、ぜひ沖縄の事実を帰って伝えてとお願いしたい」と語った。

横田さんは沖縄で生まれ、三歳で家族とサイパンに移住。太平洋戦争が激化すると現地で米軍の攻撃を受け、右脚を

負傷した。今も感覚のない部分がある。父らを亡くし戦後、母と帰った沖縄の海は、サイパンにも似て真っ青なきれいな海という。「またつらい戦争に沖縄も巻き込まれるのでは」と悲しい。平和ボケし戦争が忘れられようとしている。沖縄から平和の発信をしたい」

千代田区の首相官邸前では、土砂投入に抗議する座り込みデモが午前九時から始まった。集まった参加者らは「絶対許すな土砂投入」「海を殺すな自然を守れ」とシュプレヒコールを上げた。

首都圏の約二十の市民団体でつくる「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」が主催。出勤前に立ち寄ってマイクを握った杉並区の非政府組織（NGO）職員野川未央さん（36）は「生き物のすみかを奪い、軍事基地をつくる権利が人間にあるのか」と訴えた。足早に職場へ向かう国家公務員らにも「あなたたちの仕事は私たちの声に耳を傾けることだ」と呼び掛けた。相模原市の無職池田俊一さん（69）は「アメリカかいらいの安倍政権。日本人として恥ずかしい」と怒りの声を上げた。

川崎市の衣装製作業、林佐登子さん（44）は、憲法問題などで意見交換している母親グループの仲間と駆け付けた。余り布で徹夜して作ったという「NO BASE H ENOKO（辺野古に基地は要らない）」と書かれた横断幕を掲げ、抗議の意思を示した。

座り込みは午後六時まで続け、六時半からは官邸近くの衆院第二議員会館前で抗議集会を開く。



首相官邸前で抗議する人たち＝

14日午前10時、東京・永田町で

「埋め立てやめろ」「あきらめない」 辺野古で1千人抗議  
朝日新聞デジタル 2018年12月14日 20時13分



米

軍キャンプ・シュワブが見渡せる浜で反対集会が行われ、参加者が拳を突き上げた＝2018年12月14日午後1時2分、沖縄県名護市、小宮路勝撮影

土砂投入が始まったのは14日午前11時ごろ。名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの南側で、護岸からダンブカーが土砂を下ろし、その土砂をブルドーザーが海へ押し出した。工事は午後も続き、埋め立ての土砂が次々と運

び込まれた。

キャンプ・シュワブのゲート前では、早朝から抗議する人たちが集まり、抗議の座り込みをしたり、「埋め立てやめろ」とシュプレヒコールを上げたりした。参加者の一部が基地に出入りする米軍関係車両を取り囲んで抗議し、県警機動隊員に抱えられて排除される場面も。午後からは工事現場が見える浜辺で集会を開き、主催者発表で1千人が参加。「あきらめない」などと声を上げた。カヌーも最大で40隻ほどがこぎ出し、海上から抗議した。

ゲート前には、8月に急逝した故翁長雄志（たけし）前知事の妻樹子（みきこ）さん（63）の姿もあった。「今日、辺野古に行かないと、一生後悔すると思った。翁長もここに一緒に立ってくれていると思う」と言い、嘆いた。「翁長は沖縄の父でありたいと思いつづけた。政府は国民の親ではないのですか」

玉城デニー氏が過去最多得票で当選し、辺野古反対の民意が示された知事選からわずか2カ月半。県民は一様に複雑な表情をみせた。

普天間飛行場の北側に隣接する自治会の会長を務める宜野湾市の新城嘉隆（しんじょう・よしたか）さん（51）は「沖縄が何を言ってもムダ。もう沖縄は日本ではない感じがする」とつぶやいた。近くの保育園では昨年12月、米軍ヘリの部品が見つかり、小学校には米軍ヘリの窓が落下した。「『辺野古が唯一』と名護に押しつけるだけでなく、政府は（県外移設の）選択肢を見つけ出してほしい」

一方、那覇市のデパートで買い物をしていた浦添市の玉城（たまき）いづみさん（37）は「もう仕方ないって思ってしまう。本土のどこも、基地を受け入れる所がないんだから」とあきらめ顔だ。今年9月の知事選では少し期待して「辺野古移設反対」の玉城デニー氏に投票したが、「やっぱり覆らないですね。自分たちが選んだ知事の公約が実現されないのは残念です」と話した。

名護市の主婦（23）も「ここまで進んでいるから。これ以上長引かせてもしょうがないのかな」。1歳の息子がおり、事故が増えることへの不安はあるが、「基地問題より、仕事の求人を増やしてほしい」。

沖縄防衛局が名護市辺野古沿岸に土砂を投入 午前11時 国、民意を無視して強行

琉球新報 2018年12月14日 11:06

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設で、沖縄防衛局は14日午前11時、辺野古崎付近の護岸で囲んだ埋め立て予定区域への土砂の投入を開始した。

玉城デニー知事は埋め立て事業の手続きに違法性があるとして12日に防衛局に行政指導していたが、国は県の工事中止の求めには応じず、事前に通知していた14日の土砂投入を強行した。

2017年4月に海上での護岸建設に着手して以降、埋

め立て用の土砂が投入されるのは初めてで、新基地建設は新たな建設段階に入る。



だが、9月の県知事選で辺野古新基地建設反対を掲げた玉城氏が過去最多得票で当選した選挙結果を顧みない政府与党の姿勢や、民間港を使って埋め立て土砂の搬出を急ぐ強引な手法に、世論の反発が強まっている。



米軍キャンプ・シュワブ沿岸の埋め立て区域に投入される土砂＝14日午前11時すぎ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ沿岸（小型無人機で撮影）

玉城知事は、今後想定される大浦湾側の地盤改良に伴う設計変更の承認権限も行使しながら新基地建設阻止に取り組む構えを崩しておらず、埋め立て作業が国の計画通り進むかは依然として見通せない。

14日は午前8時過ぎから現場での作業が始まり、午前9時に土砂を積んだ台船がキャンプ・シュワブ沿岸のK9護岸に接岸した。土砂をダンプカーに積み替えて辺野古崎付近まで運び、ダンプの荷台から下ろされた土砂をブルドーザーが海に押し入れた。



台船上でダンプに積み替えされる土砂＝14日午前10時45分、名護市辺野古の大浦湾

玉城知事は14日朝、県庁登庁時に「予定ありきで県民の民意を無視して進められる工事に強い憤りを禁じ得ない」と記者団に語り、対応の協議に入った。【琉球新報電子版】

辺野古に土砂投入、県民猛反発 埋め立て重大局面に  
沖縄タイムス 2018年12月14日 11:01

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、政府は14日午前11時、護岸で囲った埋め立て区域に土砂を初めて投入した。玉城デニー知事が13日に岩屋毅防衛相に工事を中止するよう求め、沖縄防衛局に埋め立て承認の条件となる事前協議がないことなどを理由に工事中止を文書で指導する中、政府が埋め立てを強行した格好だ。



土砂投入で沖縄タイムスが発行した号外



次々と土砂を投入するダンプカー＝14日午前11時46分、名護市辺野古（小型無人機で撮影）



土砂投入作業が始まった辺野古崎側「N3」護岸付近。土砂を降ろすダンプカー＝14日、午前11時10分（下地広也撮影）



最初の土砂投入予定海域



沖縄県名護市辺野古のキャン

プ・シュワブ沿岸部 (12月14日午前)



沖縄県名護市辺野古のキャン

プ・シュワブ沿岸部 (12月14日午前)



沖縄県名護市辺野古のキャンプ・シュワブ

沿岸部 (12月14日午前)



米軍キャンプ・シュワブ沿岸の

K9 護岸で始まった台船の土砂をダンプに積む作業。ダンプは基地内を通過して土砂投入の現場に向かう見込み=12月14日午前、沖縄県名護市辺野古



辺野古沿岸部への土砂投入に

反対する市民ら=14日午前、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前

土砂投入で沖縄タイムスが発行した号外

1995年の米兵による暴行事件をきっかけに、96年に日米両政府が米軍普天間飛行場返還を合意し、名護市辺野古への移設を条件とした新基地建設問題は、返還合意から22年間で最大の重要局面を迎えた。

土砂が投入されたのは、「N3」「N5」「K4」の護岸で囲われた海域。名護市安和の琉球セメントの栈橋から搬出された土砂を積んだ台船が14日午前9時、「K9」護岸に

接岸。ダンプトラックで陸揚げし次々と土砂を投入した。

米軍キャンプ・シュワブ前や現場海域近くには早朝から反対する市民らが集まり、抗議の声を上げている。

政府は承認取り消しを巡る訴訟で県が敗訴したことなどから工事の適法性を強調するが、辺野古問題を最大の争点にした9月の知事選で玉城デニー知事が当選するなど「辺野古反対」を繰り返して示してきた民意に向き合わない姿勢への反発は、県内だけでなく国内外で高まるのは必至だ。民意無視に県内外から猛反発

2014年7月の事業着手から4年6カ月、沖縄防衛局が14日に初めて埋め立て土砂を投入したのは、辺野古側の「N3」「N5」「K4」の3護岸で囲われた海域だ。船で搬入した土砂をダンプトラックで運び、海に投げ入れた。

面積約6・3ヘクタールで、埋め立て区域全体160ヘクタールの約4%。必要な土砂の量は131万6500立方メートル、10トンダンプの22万台分で、埋め立て全体2100万立方メートルのうち約6%となる。

防衛局の当初計画では海底地盤の調査や実施設計、護岸建設を終え、着手から約2年で大浦湾側から埋め立て工事に入る予定だった。しかし、辺野古移設に反対する多くの民意を受け、翁長雄志前知事が埋め立て承認の取り消しや撤回に踏み切ったことや、翁長氏の死去による知事選への影響を避けるための工事中断などで約2年半遅れている。

また大浦湾側でマヨネーズ状の軟弱地盤が確認され、辺野古側の浅い海域から埋め立て工事を始めた。

県は12日に工事を中止するよう防衛局に文書で指導。防衛局が国民の利益を救済する行政不服審査法で埋め立て承認撤回の効力停止を求め、国交相が認めたことは違法であるほか、埋め立て承認の条件とした留意事項にいくつも違反しているなどと指摘している。

また、埋め立てに用いる岩ズリが「埋め立て用材として承認を受けたものではない」という理由で「土砂投入は絶対に許されない」と強く主張したが、無視される形となった。

## 辺野古 埋め立て予定地周辺で抗議行動

NHK12月14日 10時03分



工事用の車両が出入りする、埋め立て予定地近くのアメリカ軍基地、キャンプシュワブのゲート前では、午前7時半ごろから土砂の投入に反対する人およそ100人が抗議集会を始めました。参加者たちは、ゲート前に座り込み、「違法工事を中止せよ」、「米軍基地はいらない」などと書かれたプラカードを掲げていました。

海上でも抗議行動始まる

辺野古沖では、午前8時15分ごろ、土砂の投入に反対する人たちが、およそ10艘のカヌーに乗って次々と護岸に向けてこぎだす様子が確認されました。

また、護岸近くの立ち入り禁止区域を示す海上のフロートに抗議の船が乗り上げ、海上保安庁のゴムボートが制止しているのも確認できました。

さらに午前9時前、土砂の投入に反対する人たちが乗った5艘ほどのカヌーが、立ち入り禁止区域を示す海上のフロートを乗り越え、警備に当たっている海上保安官に制止される様子が確認できました。

ゲート前ではおよそ150人が行進

ふだん、移設工事用の車両が出入りする、埋め立て予定地近くのアメリカ軍基地、キャンプシュワブのゲート前では午前9時半ごろから、土砂の投入に反対するおよそ150人が、「工事をやめろ」とか「新基地反対」などと声をあげながら行進しました。

また反対する人たちが、基地から出るアメリカ軍の車両に立ちふさがろうとして一時、騒然となりました。

山城議長「私たちは反対続ける」

沖縄平和運動センターの山城博治議長は「民意は『ノー』だと言いつつ、玉城知事は話し合いを求めているのに、政府は沖縄の声を聞かない。ここに沖縄の悲しさがあり、県民は、心がぎれる思いのはずだ。政府の強行を許してしまうと思うとつらいがきょう、もし埋め立てても、私たちは反対し続ける」と話していました。

「県民の声 全く無視」

辺野古で抗議活動をしていた宜野湾市の70代の女性は「埋め立て工事を止めて沖縄の美しい海を守りたい。ただそれだけです」と話していました。

2年前に東京から沖縄に移住したという50代の男性は、「県民の声を全く無視して埋め立て工事を強行する政府のやり方には憤りを感じます」と話していました。

## 辺野古 埋め立て予定地に土砂投入はじまる

NHK12月14日 18時16分



アメリカ軍普天間基地の移設計画で、政府は14日、名護市辺野古の埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始しました。移設計画は浮上してから20年以上をへて、新たな段階に入りました。沖縄県の玉城知事は「県民の怒りはますます燃え上がる」と述べ、強く反発する一方、菅官房長官は普天間基地の危険性を除去するためだとして理解を求めました。さらに岩屋防衛大臣は、普天間基地の2022年度の返還は難しいという認識を示しました。

アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画で、政府は、台風で一部損壊していた護岸の修復などが終わったことを受けて、14日午前8時半ごろ、沖縄県に、埋め立て予定地の海に土砂を投入すると伝えました。

そして、午前10時45分ごろから、埋め立て予定地近くのキャンプシュワブの北側の護岸に接岸した船から、土砂がダンプカーに積み替えられ、午前11時前から、約2キロ南に離れた埋め立て予定地の海への土砂の投入が始まりました。

キャンプシュワブのゲート前では、土砂の投入に反対する人約100人が抗議集会を開いたほか、埋め立て予定地の海では、5艘ほどのカヌーが、立ち入り禁止区域を示す海上のフロートを乗り越え、警備にあたっている海上保安官に制止される様子が確認できました。

沖縄県の玉城知事は、県庁で記者会見を開き、「国は一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね、県民を諦めさせようと躍起になっているが、このような行為は逆に沖縄県民の反発を招き、県民の怒りはますます燃え上がる」と述べ、強く反発しました。

そのうえで、「私は多くの県民の負託を受けた知事として、ぶれることなく、辺野古新基地建設に反対する民意に添い、その思いにこたえたい」と述べました。

これに対し、菅官房長官は、閣議のあとの記者会見で、「現職の知事としても、普天間飛行場の危険性除去をどう進めていくかは極めて重要な問題だと思うし、普天間飛行場の固定化は絶対に避けなければならないはずだ」と述べました。

そのうえで、「引き続き普天間飛行場の危険除去と辺野古移設に関する政府の考え方や、目に見える形の負担軽減を実現するという政府の取り組みを説明し、地元の理解、協力を得られるよう、粘り強く取り組んでいきたい」と述べました。

また、岩屋防衛大臣は、記者団に対し「さきほど作業を開始したと報告を受けた。厳しい安全保障環境を考えたときに、抑止力を維持しながら沖縄の負担を軽減するには、辺野古移設しかない。沖縄の皆さんに理解をいただけるよう丁寧に説明を尽くしたい。22年越しの問題を今度こそ解決し、普天間基地の全面返還を着実に成し遂げていきたい」と述べました。

さらに岩屋大臣は、閣議のあと記者団に対し、普天間基地を「2022年度またはその後」に返還するとしてアメリカとの合意について、「早ければ2022年度の返還という方針に向かって努力してきたが、一度承認された埋め立てが撤回されるなどの変遷があり、目標の達成が難しいところに来ているのは事実だ」と述べました。

政府は、午後4時半ごろに、14日の土砂投入を作業を終えましたが、15日以降も、日曜日を除いて作業を進めていくことにしています。

日米両政府が普天間基地の返還で合意し、浮上してから20年以上になる移設計画は新たな段階に入りましたが、沖縄県は強く反発していて、政府との対立がさらに激しくなるのは避けられない情勢です。

玉城知事「県民の怒り ますます燃え上がる」

沖縄県の玉城知事は、正午前から県庁で緊急に記者会見を開き、「国は一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね県民を諦めさせようと躍起になっているが、このような行為は逆に沖縄県民の反発を招き、県民の怒りはますます燃え上がる」と述べました。

そのうえで、「沖縄県民、全国民の皆さんには、民主主義国家としてあるまじき行為を繰り返す国に対し、共に声をあげ、共に行動していただきたい。私は多くの県民の負託を受けた知事として、ぶれることなく、辺野古新基地建設に反対する民意に添い、その思いにこたえたい」と話しました。

官房長官「危険除去と負担軽減推進」



菅官房長官は閣議のあとの記者会見で、「現職の知事としても、普天間飛行場の危険性除去をどう進めていくかは極めて重要な問題だと思うし、普天間飛行場の固定化は絶対に避けなければならないはずだ」と述べました。

そのうえで、菅官房長官は、「引き続き普天間飛行場の危険除去と辺野古移設に関する政府の考え方や、目に見える形の負担軽減を実現するという政府の取り組みを説明し、地元理解、協力を得られるよう、粘り強く取り組んでいきたい」と述べました。

岩屋防衛相「22年越しの問題 今度こそ解決」



また、岩屋防衛大臣は、記者団に対し、「さきほど作業を開始したと報告を受けた。厳しい安全保障環境を考えた時に、抑止力を維持しながら沖縄の負担を軽減するには、辺野古移設しかない。沖縄の皆さんに理解をいただけるよう丁寧に説明を尽くしたい。22年越しの問題を今度こそ解決し、普天間基地の全面返還を着実に成し遂げていきたいと決意している」と述べました。

さらに岩屋大臣は、閣議のあと記者団に対し普天間基地を「2022年度またはその後」に返還するとしてアメリカとの合意について、「早ければ2022年度の返還という方針に向かって努力してきたが、一度承認された埋め立てが撤回されるなどの変遷があり、目標の達成が難しいところに来て

いるのは事実だ」と述べました。

日米両政府が普天間基地の返還で合意し、浮上してから20年以上になる移設計画は新たな段階に入りましたが、沖縄県は強く反発していて、政府との対立がさらに激しくなるのは避けられない情勢です。

名護市長「県と防衛局の見解相違 動向注視したい」

沖縄県名護市の渡具知市長は正午前、記者団に対し、「沖縄防衛局は県知事の承認を得たうえで工事を行っている」と認識しているが、県と防衛局の間で見解の相違があることを承知していて、どのように解決するか動向を注視したい」と述べました。

宜野湾市長「1日も早い普天間の閉鎖・返還求める」

普天間基地を抱える沖縄県宜野湾市の松川市長は記者団に対し、「埋め立て工事の状況を注視していきたい。宜野湾市としては引き続き、普天間基地の1日も早い閉鎖・返還を求めていく」と話していました。

辺野古県民投票の会代表「悔しい」



アメリカ軍基地、キャンプシュワブのゲート前では、「辺野古県民投票の会」の元山仁士郎代表が「土砂が投入される光景を目に焼き付けるために現場に来ました。本当に悔しいです」と話していました。

米は公式の反応は出さず

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設工事で、埋め立て予定地への土砂の投入が始まったことについて、アメリカ政府はこれまでのところ公式の反応は出ていません。

ただ、アメリカ政府はこれまで「普天間基地の代替施設の建設が基地の継続使用を避けるための唯一の解決策だ」として、日本政府と緊密に連携し、移設計画を進めていく立場を繰り返し示しています。

一方、沖縄県が埋め立て承認を撤回するなどして政府と県の対立が深まっていることについては、「日本政府と沖縄県の間の問題だ」として、移設工事の状況を注視しているものとみられます。

土砂投入した周辺の海で抗議

土砂の投入が行われている辺野古の埋め立て予定地の近くの海上では、カヌーに乗った人たちが立ち入り禁止区域を示すフロートのまわりに集まり、「海を殺すな」などと書かれたプラカードを掲げて抗議しています。

翁長前知事の妻「負けずに戦う」

抗議活動が行われている基地のゲート前に駆けつけた翁長前知事の妻、樹子さんは「政府のやり方は民意を完全に無視している。土砂が投入されても、沖縄県民は決して負け

ずに戦い続けます」と話していました。  
首相官邸前でも抗議の声



総理大臣官邸前では、普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する人たちが朝から集まり、土砂が投入された午前11時ごろにはおよそ100人になりました。

集まった人たちは「新基地建設反対」とか「辺野古の海を土砂で埋めるな」などと、繰り返し抗議の声をあげていました。

横浜市の67歳の女性は「沖縄県知事選でも辺野古への移設に反対の民意が示されたのに土砂を投入するのはかなり強引だと思います。まだ終わりではないので本土からも反対の声をあげ続けていきます」と話していました。

また、東京・葛飾区の64歳の女性は「きれいな辺野古の海が埋め立てられるのはとても残念です。政府には国民の声をもっと聞いてほしいです」と話していました。

沖縄県 今後の対応は

沖縄県は、あらゆる手段で工事を中止させたい考えです。その1つが、来年2月に実施される、辺野古の埋め立てに「賛成」か「反対」かを問う県民投票です。

沖縄県の条例には、投票で多数を占めたほうが有権者の4分の1に達した場合、知事は内閣総理大臣とアメリカ大統領に結果を通知すると定められています。

県は、「反対」を沖縄の民意として、政府や世論に訴えていきたい考えです。

ただ、県民投票をめぐるのは、普天間基地がある宜野湾市など一部の自治体の議会で反対の意見書が可決されるなど、すべての市町村で実施されるかは不透明な情勢で、県は協力の取り付けを急いでいます。

また、国と地方の争いを調停する総務省の「国地方係争処理委員会」で国の違法性を訴えていく方針です。

委員会は、来年2月までに判断を示しますが、国と県の立場の違いは明らかで、いずれかが裁判を起し、争いは司法の場に移る見通しです。

なぜこのタイミングか

政府が沖縄県の強い反発を押し切って土砂の投入に踏み切ったのは、普天間基地が小学校などを含む住宅地に囲まれ、かねてから危険性が指摘されていることから、移設は一刻の猶予もないと判断したからです。

さらに、名護市辺野古への移設は、平成8年に浮上し、平成18年に日米間で合意されたものの、当時の民主党政権で県外移設を模索し平成22年に改めて合意したものだけに、現実的な解決策は名護市辺野古への移設しかないとみているからです。

岩屋防衛大臣も「22年越しに、今度こそ解決する」と述べ、不退転の決意を示しました。

ただ、政府・与党内には、来年に統一地方選挙と参議院選挙を控えていることから、世論への影響を最小限に抑えるため、年内の投入にこだわったのではないかとの見方も出ています。

「どうしてこじれたのか」防衛省元幹部

アメリカ軍普天間基地の移設計画が大きな節目を迎える中で、22年前に基地の返還が決まった時のことを知る当時の防衛庁の幹部が取材に応じ、政府と沖縄の対話の重要性が高まっているという考えを示しました。

元防衛事務次官の秋山昌廣さんは、平成8年に普天間基地の返還に日米両政府が合意した際、外務・防衛の幹部らでつくる特別行動委員会の共同議長として、移設先の検討に当たりました。

それから22年をへて、名護市辺野古沖への土砂の投入が始まったことについて、秋山さんは「埋め立てが始まるともう戻れないということになるかもしれないので、そういう意味では非常に大きなステップだ。一方で、沖縄の人たちが危機感を持つのはよくわかる。どうしてこんなにこじれてしまったのかという思いはある」と述べました。

秋山さんによりますと、普天間基地の返還に日米両政府が合意した背景には、沖縄の基地問題で日米同盟が揺らぐことがあってはならないという危機感があり、そのためにも基地負担を軽減して、沖縄の人たちの理解や協力を得ることが欠かせないと考えたといいいます。

沖縄から反発の声が高まっている現状について、秋山さんは「アメリカ軍基地に対する反対運動がどんどん強まっており、普天間基地の返還という意味決定の動機がかき消されている感じがする。当初、全体としてはそのような雰囲気ではなかったと思うので、なぜこのような全面对決の状況になってしまったのか、非常に残念だ」と述べ、懸念を示しました。

そのうえで、今後については、「代替施設をつくるプロセス、またはつくり方を含めて、まだ政府と沖縄が話せることはあるのではないかと思う。普天間基地の返還に合意したそもその目的をもう1度確認したほうがいいのではないか」と述べ、政府と沖縄の対話の重要性がより高まっているという考えを示しました。

### 【辺野古埋め立てドキュメント】

琉球新報 2018年12月14日 10:33

07:50 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ K9 護岸に作業員あらわる。【琉球新報電子版】

08:10 米軍キャンプ・シュワブ沿岸にある台船に積まれた土砂にブルーシートがかかっている

08:20 K9 護岸の浜辺側に重機があり、作業員と警備は計11人。【琉球新報電子版】

08:21 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの護岸でアームを伸ばしたクレーンを確認。

08:25 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ K9 護岸に海上保安官4人が現れる。【琉球新報電子版】

08:26 カヌーチームのメンバー、辺野古の浜から抗議のため海上へ。【琉球新報電子版】



K9 護岸付近のフロートの外側に到着したカヌー=14日午前、名護市辺野古沿岸

08:26 米軍キャンプ・シュワブ K9 護岸付近のフロートの外側にカヌー9艇が到着。

08:35 土砂を積んだ台船に作業員が乗り込む。

08:50 カヌーメンバーがフロート内には入り、海保に確保される。台船が K9 護岸に移動している。

08:56 ダンプも護岸前に並んで待機。

08:50 米軍キャンプ・シュワブのゲート前で、新基地建設に反対する市民ら「座り込み」など合唱。

09:01 台船が接岸。

09:02 K9 護岸の浜側に多数の大型トラックと重機1機が待機。

09:06 玉城知事知事が県庁に登庁。土砂投入開始の伝達に「強い憤り感じ得ない」と報道陣に憤りを語る。

09:08 台船で作業員がシートはずし始める。

09:22 土砂をおおっていたブルーシートがだんだんとはがされ、土砂が露出している。

09:25 米軍キャンプ・シュワブゲート前でシュプレヒコール。「土砂投入許さないぞー」「県民の力で止めるぞー」「全国の力で守るぞー」「海を守るぞー」

09:28 工専用ゲートからメインゲートまで行進。

09:45 台船上の土砂に被さったブルーシートを撤去した。

09:53 K9 のユンボが動き出す。台背に乗るとみられる。

09:56 ユンボが台船に乗る。

10:05 米軍キャンプ・シュワブの搬入ゲート前で新基地建設に反対する市民らが集会を再開させる。

10:11 ショベルカーが動く。土砂はまだ到着せず。【琉球新報電子版】

10:39 海上で抗議している市民ら「ダンプが台船にある。違法工事、止めろ」。

10:43 岩屋防衛相が閣議後会見で「辺野古への移設作業で、準備が整ったことから、本日8時ごろから埋め立て作業に着手した」と表明。

10:45 ユンボがダンプに土砂を積み始める。

10:46 海上で抗議している市民ら「土砂載せたダンプ、動く」。

10:54 ブルドーザーが米軍キャンプ・シュワブの内陸部を移動。

10:57 名護市の辺野古崎にダンプが入る。

10:58 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブのメインゲート前で新基地建設に反対する市民らがシュプレヒコール。「埋め立てやめろ」「土砂投入やめろ」「絶対に許さないぞ」「台船帰れ」。

11:00 護岸に土砂が投入される。

11:00 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブのメインゲート前で新基地建設に反対する市民らがシュプレヒコール。「新基地は作らせないぞ」「このような無法は許されない」。

11:06 名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブのメインゲート前で新基地建設に反対する市民らがシュプレヒコール。「翁長さんとともにシュプレヒコール」「県民の財産壊すな」「命の海を壊すな」「海を返せ」「県民に返せ」「軍事基地にはさせないぞ」。

11:09 翁長樹子さん「黙っていられずに来た。この国の在り方が問われている」。

11:35 土砂が護岸から埋め立て海域に到達。

11:46 知事会見始まる。

12:01 埋め立て海域の護岸近くでウミガメの姿確認。

12:05 辺野古崎、作業員ら引き上げる。休憩とみられる。

【琉球新報電子版】

「胸が張り裂けそう」ゲート前で早朝から市民ら抗議行動 名護市辺野古の新基地建設

琉球新報 2018年12月14日 09:10



午前11時の土砂投入時刻と同時にキャンプ・シュワブ第一ゲート前で座り込み、抗議する市民ら=14日、名護市辺野古（滝島豊美撮影）

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を巡る新基地建設で14日、政府が大浦湾に土砂投入を始めるのを前に、工事に反対する人たちは午前4時半から米軍キャンプ・シュワブゲート前で抗議の声を上げた。



抗議の声をあげる人たち=12月14日午前6時40分、米軍キャンプシュワブゲート前



「作業員を止めよう」として、シュワブ内に入ろうとする作業員の車を止めた。



抗議する人たちを移動させた県警機動隊=12月14日午前5時55分、米軍キャンプシュワブゲート前

国道329号は渋滞が発生し、県警機動隊が反対する人たちを移動させて作業員の車は基地内に入った。



国道359号では渋滞が発生した=12月14日、午前5時20分、米軍キャンプシュワブゲート前

工事に反対する山城博治さんは「ねじれるような胸が張り裂けるような思いでやってる。折れる心を奮い立たせよう」と拳をあげた。【琉球新報電子版】

「強い憤りを禁じ得ない」 玉城知事、土砂投入に怒り名護市辺野古の新基地建設 「官房長官、防衛相に投入やめるよう申し入れたにもかかわらず...」

琉球新報 2018年12月14日 09:44



土砂投入通知日を迎え、険しい表情で記者団の質問に答える玉城デニー知事=14日午前9時ごろ、県庁

沖縄防衛局が名護市辺野古の新基地建設を進めるため、埋め立て予定海域への土砂投入を14日に開始することに関して、玉城デニー知事は同日午前、県庁で記者団に「強い憤りを禁じ得ない」と述べた。

玉城知事は「昨日、菅（義偉）官房長官と（岩屋毅）防衛相と会い、土砂投入をやめるよう申し入れた」と指摘。その上で「（それ）にもかかわらず、予定ありきで県民の民意を無視して進められる工事に強い憤りを禁じ得ない」と語気を強めた。

玉城知事は幹部会議を開き、対応を協議する。

知事自身が辺野古入りすることも検討する。【琉球新報電子版】

デニー知事「強い憤り」 沖縄防衛局、県に辺野古埋め立て着手を連絡

沖縄タイムス 2018年12月14日 09:35

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、沖縄防衛局は14日午前8時半、県土木部の海岸防災課に「本日、埋め立て工事に着手する」と連絡した。玉城デニー知事は午前9時ごろ県庁に登庁し「官房長官、防衛相に工事中止と協議を申し入れたにもかかわらず、予定ありきで県民の民意を無視して進める工事に強い憤りを禁じ得ない」と強く反発した。



接岸した台船=14日（沖縄ドローンプロジェクト提供）



登庁時に土砂投入についてコメントする玉城知事=14日、県庁次

辺野古では午前9時1分に土砂を積んだ台船が大浦湾側の「K9」護岸に接岸した。ダンプトラックで土砂を陸揚げし、午前中に辺野古側の埋め立て区域に土砂を投入する見通し。

海上では新基地建設に反対する市民がカヌーで抗議し、制限区域を示すフロートを乗り越え、海上保安官に取り押さえられた。キャンプ・シュワブゲート前でも午前7時半から市民が座り込みを始め抗議の声を上げ続けている。

「工事容認できぬ」「辺野古が唯一だ」新基地巡り平行線の県と国 主張まとめ

沖縄タイムス 2018年12月14日 08:00

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、県は「違法な工事を進めることは断固として容認できない」と工事中止を求めている。一方、政府は「辺野古が唯一の解決策」とし、14日に埋め立て土砂を投入する予定だ。辺野古を巡る県と国の主な主張をまとめた。

辺野古新基地建設を巡る 県と国の主な主張	
県	国
軟弱地盤や活断層の存在が判明。「国土利用上適正かつ合理的」という要件を満たしていない	軟弱地盤については調査中。結果が出た段階でしか判断できない。辺野古断層を活断層とたしていない
サンゴ類や海扇類、ジュゴンなどの環境保全対策を十分講じていない	環境保全回書の記載を踏まえて措置や対策を取っている
沖縄防衛局は一応私人が立ち得ない立場「固有の資格」で埋め立て承認を受けており、行政不服審査法による承認撤回の執行停止申し立ては違法	私人と同じ基準で承認を受けたため、行政不服審査法で申し立ては可能。同法が除外する「固有の資格」は持っていない

## 辺野古新基地建設を巡る県と国の主な主張 危険性の有無

県は大浦湾側の護岸設計予定地が軟弱地盤で、護岸の倒壊などの危険性があると指摘。「設計の概要に従って工事が進められれば、護岸の安全性は認められない」と批判している。

一方、沖縄防衛局は地盤を調べるボーリング調査は現在実施中で、結果が出た段階でしか判断できないと説明。結果が出た後は、県と協議せずに工事をする考えはなく「安全性を損なう工事が行われる危険性はない」と反論した。

また、県は専門家から活断層の存在が指摘され『『災害防止に十分配慮していること』の要件を満たしていない』と主張するが、防衛局は文部科学省が事務局を務める地震調査研究推進本部などの資料で辺野古活断層の記載はないとした。

### 環境保全範囲

県はサンゴ類や海藻草類、ジュゴンなどの環境保全対策を十分講じていないと訴えている。これに対し、防衛局は環境保全図書の記載に沿った措置や対策が取られていれば『『環境保全に十分配慮していること』という要件を欠くことはない』とした。

防衛局は台船を大浦湾側の「K9」護岸に接岸し、土砂を陸上に搬入する予定だ。県は変更承認を得ずに同護岸を棧橋として利用することは留意事項に違反するとし「使用は認められない」と指摘する。

一方、防衛局は「工事工程や計画は現時点の設定で、実施の際には変更されることがあり得る」と記載されており、環境負荷も環境保全図書の想定された範囲内だとしている。行審法の適用

防衛局は私人が公有水面を埋め立てる際に「免許」を受けると同じ基準で「承認」を受けたことなどを理由に、行政不服審査法（行審法）に基づき、県の埋め立て承認撤回の効力を止める執行停止を国交相に申し立て、認められた。

一方、県は行審法で審査請求が認められているのは私人を救済するため、「固有の資格」を持つ国や国の機関には適用されないと指摘。防衛局が行審法によって撤回の効力停止を求め、国交相が認めたことは違法、無効だと指摘した。

仮に防衛局が私人と同様としても、審査請求すべき行政庁は撤回した副知事の最上級庁に当たる県知事で、請求先を誤っているとして違法、無効とした。

## 土砂投入強行、知事「県民の怒り、ますます燃え上がる」 朝日新聞デジタル 2018年12月14日12時51分



記者会見で辺野古への土砂投入を批判する

玉城デニー知事＝2018年12月14日午前11時52分、沖縄県庁、伊藤和行撮影

沖縄県名護市辺野古沿岸部への土砂投入が始まったことを受け、玉城デニー知事が14日、県庁での会見でコメントを述べた。概要は以下の通り。



県の要求を一顧だにすることなく、土砂投入を強行したことに対し、激しい憤りを禁じ得ない。このような行為は県民の強い反発を招き、工事を強行すればするほど、県民の怒りはますます燃え上がるということを認識すべきだ。

数々の違法な行為を行い、法をねじ曲げ、民意をないがしろにし、県の頭越しに工事を進めることは、法治国家そして民主主義国家において決してあってはならない。

国が、地方の声を無視し、法をねじ曲げてでも国策を強行するやり方は、地方自治を破壊する行為であり、本県のみならず、他の国民にも降りかかってくるものと危惧している。

沖縄県民、そして全国の皆様には、このような国のあり方をしっかりと目に焼き付け、心にとどめていただき、法治国家そして民主主義国家としてあるまじき行為を繰り返す国に対し、共に声を上げ、共に行動していただきたい。

現時点ではまだ埋め立て工事全…

残り：194文字／全文：637文字

## 【報ステ】知事選“民意”は…辺野古へ土砂投入開始 ANN2018/12/14 23:30

沖縄県名護市辺野古のアメリカ軍新基地建設に向け、政府は14日午前、辺野古の海への土砂投入を始めた。県知事選で「辺野古反対」の民意が示されてから2カ月余りで工事に踏み切った政府に対し、建設予定地では抗議の声が上がりと、小競り合いも起きた。計画では、東京ドーム17杯分の土砂が投入されることになるが、埋め立てる海底の一部には、軟弱地盤の存在も指摘されている。再三、工事の中止を求めてきた玉城知事は「今回、土砂を投入したとしても、今後、軟弱地盤等への対応が必要であり、新基地完成は見通せない。工事を強行すればするほど、県民の怒りはますます燃え上がるということを認識するべきだ」と語った。沖縄では来年2月24日、辺野古への基地移設の是非を問う県民投票が行われる。

## 「県民の民意を無視」沖縄・辺野古の海に土砂投入 ANN2018/12/14 11:45

アメリカ軍普天間基地の辺野古への移設問題で日本政府は14日午前、沖縄県名護市辺野古の海に土砂の投入を始めました。

(沼尻和樹アナウンサー報告)

辺野古崎の南、工事現場が見渡せる場所です。午前11時から現在までに次々と茶色い土砂が投入され、辺野古の海

はその姿を変えられようとしています。土砂が投入された現場は埋め立て海域の南側、護岸で囲まれた約 6.3 ヘクタールの区域です。沖縄防衛局は午前 8 時半に県に作業開始を連絡しました。現場では土砂が台船から工事車両に積み替えられ、次々に海に投入されました。

玉城知事:「予定ありきで県民の民意を無視して進められる工事には、強い憤りを禁じ得ない」

朝に玉城知事はこのように述べ、政府の強行に怒りをあらわにしました。一方、土砂が運び込まれる辺野古のゲート前では早朝から市民らが抗議集会を開くなど、反対の声が上がりました。

反対する市民:「どんな展開になっても政府の暴挙、無謀ななかでの工事強行、沖縄を潰すことについて断固反対して声を上げたい」

14 日に埋め立てが始まった区域は最終的な埋め立て海域全体の約 4%にあたり、この区域だけでも 10 トンダンプで約 22 万台の土砂が投入されるということです。

### 辺野古土砂投入 現地に広がる怒り・悲しみ

NNN2018 年 12 月 14 日 23:58

沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設先とされる名護市辺野古で、政府は 14 日、海の埋め立てを始めた。那覇市から現地の様子を佐藤記者が伝える。

全文を読む

沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設先とされる名護市辺野古で、政府は 14 日、海の埋め立てを始めた。那覇市から現地の様子を佐藤記者が伝える。

◇

政府としては、早期の土砂投入で、多くが埋め立てに反対する県民世論のあきらめを狙ったものとみられるが、私が何人か話を聞いた限りでは、「悲しさ」や「無力感」を口にする人がいる一方、怒りや憤りの言葉が多い印象を受けた。やはり、沖縄県の玉城知事が「対話による解決」を求めてきたにもかかわらず、いわば「問答無用」で埋め立てへ突き進んだ政府の姿勢が、県民の間に反発と不信感を広げているのだと思う。

しかし、今後も沖縄県の側には、確実に工事を止める手だけがあるわけではなく、手詰まり感は否めない。

一方、来年 2 月には、埋め立ての賛否を問う県民投票があり、そこで埋め立て反対の民意が示された場合、知事があるため埋め立て承認を撤回することも考えられる。そうなると、国と沖縄県との間で、法的な争いがさらに続くため、中長期的には、工事が順調に進むかは依然不透明となっている。

「工事の進ちょく逐一のコメントは控える」 名護市の渡具知武豊市長 辺野古の新基地建設、土砂投入を受けて  
琉球新報 2018 年 12 月 14 日 12:39



記者団の質問に答える渡具知武豊市長＝14 日午前 11 時 45 分ごろ、名護市役所

名護市辺野古への新基地建設で、沖縄防衛局が 14 日午前、埋め立て予定海域に土砂を投入したことを受け、名護市の渡具知武豊市長は「工事の進捗について逐一コメントすることは差し控えたい」と記者団に答えた。

その上で「事業者である沖縄防衛局は県知事の承認を得た上で事業を行っている」と認識している。県と事業者の間で見解の相違が生じていることを承知しておりどのように解決が図られるのか注視していきたいとした。【琉球新報電子版】

### 宜野湾・松川市長「注視していく」 辺野古土砂投入

沖縄タイムス 2018 年 12 月 14 日 12:55

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、政府が辺野古沿岸部に埋め立て土砂を投入したことを受けて、米軍普天間飛行場を抱える宜野湾市の松川正則市長は 14 日正午、記者団に「今後の状況も含めて注視していきたい」とコメントした。辺野古の新基地建設については「市議会でも県民投票条例の反対の意見書が可決された。市民から多くの声が寄せられ、宜野湾市民の皆さんの葛藤する思いが非常に強いと受け止めている」と述べた。



「状況を注視していきたい」と話す宜野湾市の松川正則市長＝14 日正午、宜野湾市役所

政府に対して、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と同飛行場の負担軽減推進会議の作業部会の早期開催を改めて求めた。

### 沖縄の市民、闘志新た 辺野古ルポ「諦めない。止めない」と

東京新聞 2018 年 12 月 15 日 朝刊



海上での抗議活動が続く中、埋め立て用の土砂投入が始まった辺野古沿岸部

政府は十四日、沖縄県名護市辺野古（へのこ）の新基地建設に向け、沿岸部への土砂投入を始めた。米軍キャンプ・シュワブ演習場に隣接した砂浜では、市民たちが集まり、怒りの声を上げた。その様子に、警備員が境界のフェンス越しに目を光らせる。夏のような日差しが照り付ける中、集まった人たちは美（ちゅ）ら海に向かって「諦めない」と誓った。（神谷円香）

宜野湾（ぎのわん）市の吉岡千絵さん（40）はこの日、午前八時すぎにカヌーで砂浜を出発し、土砂投入が行われる区域へ向かった。海上保安庁に警告されるのは、いつものこと。投入の様子は見えなかったが、土砂を運んできたと思われるダンプカーを見て「どんどんなし崩しになっていく。止めないと」と決意した。

琉球大への進学を機に熊本県から沖縄に移り、二〇〇四年からは仕事の合間を縫い、基地移設に反対する活動を始めた。当初関わった人たちの中には、亡くなった人もいる。県外からも人が集まるようになった。移設を巡る地元の移り変わりを見てきた。



土砂投入に対し、米軍キャンプ・シュ

ワブ演習場前で市民とともに抗議の声を上げる翁長樹子さん（右）＝いずれも14日、沖縄県名護市で

市民の力で食い止めた部分もあるが、工事は進み、海に土砂が入れられる段階にまで来てしまった。「今日の土砂投入は、もう後戻りできないと印象づけようとする、政府のパフォーマンス。これからどうやって移設を止められるかを考えることが大切」と冷静に受け止めた。

翁長雄志（おながたけし）前知事の妻樹（みき）子さん（63）も抗議の声を上げた。「翁長の名前が玉城（たまき）デニー知事の邪魔になる」と表に出るのをやめようと思ったが、「黙っていられない、あまりにも情けなくて」と、辺野古入りを前夜に決めた。「翁長の女房ではない、一県民として来た。諦めるなんてとんでもない。県民は負けない」と国への闘志を新たにした。

糸満市の住職岡田弘隆さん（72）は「原発は地元同意がなければ稼働できないのに、基地は民意が反対してもできるのはおかしい」と憤った。「米トランプ政権は、世界のリーダーだったオバマ前大統領のような役割を放棄している。沖縄の基地は米国自身の負担になり、あと十年で米軍は沖縄から退くのでは」と推測した。

砂浜とは対照的に、辺野古の住宅街では、この日も静かな時間が過ぎた。住民の女性は「本当は基地はなくしてほしいですよ。でも、本当の気持ちだけでは生活できないか

ら」とつぶやいた。以前はキャンプ・シュワブ演習場前も散歩で通っていたが、移設に反対する人がテントを設け、座り込むようになると「反対派と思われるから、もう通れない」と複雑な思いを明かした。

## 移設阻止「全力」アピール＝辺野古訪問、県民投票を意識 －沖縄知事

時事通信 2018年12月15日 16時53分



米軍キャンプ・シュワブ周辺で行われた集会で、辺野古沿岸部の土砂投入に反対し、氣勢を上げる玉城デニー沖縄県知事（左から3人目）ら＝15日午前、同県名護市

沖縄県の玉城デニー知事は15日、米軍普天間飛行場（同県宜野湾市）移設先の名護市辺野古で開かれた市民団体の抗議集会に出席した。政府が14日に踏み切った沿岸部での土砂投入を「暴挙だ」と批判した上で、「全力で戦う。対話の気持ちは継続するが、対抗すべきときは対抗する」と表明。移設阻止へ知事権限を駆使する決意を強調した。

玉城氏の辺野古訪問は、来年2月24日実施の県民投票などを見据え、世論を喚起する狙いとみられる。米軍キャンプ・シュワブのゲート前で行われた集会には数百人が集まり、氣勢を上げた。



米軍キャンプ・シュワブのゲート前で行われた集会で、参加者と握手する玉城デニー沖縄県知事（右）＝15日午前、同県名護市

玉城氏は続いて、埋め立て海域を望む漁港に移り、移設工事を視察。記者団に「胸をかきむしられる気持ちにさせられるが、たじろぐことなく政府に原状回復させる」と語った。

ただ、政府は15日も土砂の投入を続行。辺野古移設は着々と既成事実化されつつある。玉城氏自身も集会で「勝つことは難しいかもしれないが、絶対に諦めない」と発言するなど、難しい局面を迎えている。

一方、安倍晋三首相はこの日、神奈川県茅ヶ崎市でゴルフ。記者団に投入着手について受け止めに尋ねられたが、苦笑いを浮かべながら軽く片手を上げただけだった。

## 土砂投入強行 濁る海 屈辱再び 「阻止 諦めない」 市民1000人 抗議の叫び



土砂投入強行に対し、キャンプ・シュワブ第 1 ゲート前で抗議活動をする市民ら＝14 日午前、名護市辺野古（滝島豊美撮影）

土砂投入が始まった 14 日、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前には夜明け前から新基地建設に反対する 100 人以上が集まり、午後に辺野古の浜で開かれた集会には千人（主催者発表）に膨らんだ。土砂投入への怒り、悔しさ、悲しみの感情が交錯したが、集まった県民らは「まだ基地建設を止められる。諦めないで闘おう」と誓い合った。

暗闇に包まれた午前 4 時半ごろ、シュワブのメインゲート前に市民ら十数人が集まった。工事を阻止しようと作業員の車を止め、国道 329 号では一時渋滞が発生した。午前 5 時半ごろに到着した機動隊が人々を排除し、作業員の車は基地内に入った。

この日は基地内への資材搬入はなく、市民らは搬入用ゲートに座り込み抗議した。「政府は民意を無視するな」。憤りの声が次々に上がった。

第 2 ゲートではカービン銃を持った米兵数人が、米軍車両を阻止しようと立ちはだかった市民の集団から数メートル先の基地内で警戒していた。市民らは「明らかに威嚇だ」「銃剣とブルドーザーで海を奪うつもりか」と抗議した。

うるま市の男性（63）は「いつもの小さな拳銃と異なり、あんなに大きな銃を抱え、近くに来たのを初めて見た。脅しのような」と顔を曇らせた。

土砂投入直後の午前 11 時すぎ、沖縄平和運動センターの山城博治議長が音頭を取り「（前知事の）翁長さんと共に」とメインゲート前で声を張り上げた。悔し涙を浮かべた山城議長は「沖縄の思いが踏みにじられ、県民全体が泣いている。まさに不条理そのものだ」と奥歯をかみしめた。

午後の辺野古の浜の集会には千人が参加した。

オール沖縄会議の稲嶺進共同代表＝前名護市長＝はマイクを握り「屈辱の日がまた一つ加わってしまった。投入はパフォーマンスだ。これ以上工事を進めさせる訳にはいかない」と訴えた。

この日は首相官邸前でも朝から夜にかけて、市民らによる抗議の座り込みが行われた。

## 辺野古に土砂投入 沖縄は対抗措置検討で対立激化避けられず

NHK2018 年 12 月 15 日 5 時 12 分



アメリカ軍普天間基地の移設に向けて、政府は 14 日、名護市辺野古の埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始し、今後、工事を本格化させるのに対し、反発を強める沖縄県は対抗措置を検討する方針で、対立が激しくなるのは避けられない情勢です。

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に向けて、政府は 14 日、埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始しました。

岩屋防衛大臣は、普天間基地を早ければ 2022 年度に返還するとした目標の達成は難しいという認識を示していて、政府はできるだけ早く返還を実現するため、今後、埋め立て工事を本格化させる方針です。

一方、沖縄県の玉城知事は 15 日に辺野古を訪れ、移設計画に反対する人たちに工事の停止に向けた協力を呼びかけることにしています。

沖縄県は今後、国と地方自治体の争いを処理する国地方係争処理委員会で、埋め立て承認を撤回した正当性を主張することにしています。

そのうえで、県土保全条例の改正や国を訴える裁判など、工事を停止させるための対抗措置を検討することにしています。

日米両政府が普天間基地の返還に合意してから 22 年たつ中、名護市辺野古への移設は土砂投入の開始で新たな段階に入りましたが、政府と沖縄県の対立が激しくなるのは避けられない情勢です。

米国務省「移設が唯一の解決策」

政府が名護市辺野古の埋め立て予定地の海に土砂の投入を始めたことについて、アメリカ国務省の当局者は、普天間基地の継続使用を避けるため、移設が唯一の解決策だという見解を示し、日本政府と連携して移設計画を進める考えを強調しました。

アメリカ国務省の広報担当者は 14 日、NHKの取材に対し、「普天間基地の代替施設の建設は、運用面や政治、財政、戦略面の懸念に対応する唯一の解決策だ。移設によって海兵隊の即応態勢を維持しながら、普天間基地の継続使用を避けることができる」と述べ、アメリカ政府はこれまでどおり、日本政府と連携して移設計画を進める考えを強調しました。

一方、政府と沖縄県の対立が深まっていることについてコメントを求めましたが、国務省の広報担当者は回答しませんでした。

## 政府への猛反発は必至 辺野古土砂投入 デニー知事、15日抗議集会へ

沖縄タイムス 2018年12月15日 05:00

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、政府は14日、護岸で囲った埋め立て区域に土砂を初めて投入した。玉城デニー知事が13日に官房長官、防衛相に工事中止を求め、沖縄防衛局に埋め立て承認の条件となる事前協議がないことなどを理由に工事中止を文書で指導する中、政府が埋め立てを強行した格好だ。玉城デニー知事は14日に会見し「激しい怒りを禁じ得ない」と強く反発。15日午前にキャンプ・シュワブゲート前で開かれる集会に参加し、県民とともに抗議の声を上げる。



屈してはならない。土砂投入を前に、ほほ笑みながら腕を組んで抗議する女性＝14日午前、名護市辺野古



土砂投入作業が始まった辺野古崎側「N3」護岸付近＝14日、午前11時10分（下地広也撮影）

1995年の米兵による暴行事件をきっかけに96年に日米両政府が米軍普天間飛行場返還を合意してから22年で最大の重要局面を迎えた。政府は承認取り消しを巡る訴訟で県が敗訴したことなどを理由に工事の適法性を強調するが、辺野古問題を最大の争点にした9月の知事選で玉城知事が当選するなど「辺野古反対」を繰り返して示してきた民意に向き合わない姿勢への反発は、県内だけでなく国内外で高まるのは必至だ。

土砂が投入されたのは3護岸で囲われた埋め立て海域。14日午前9時すぎに土砂を積んだ台船が「K9」護岸に接岸。土砂をダンプトラックで陸揚げし、午前11時に「N3」護岸から次々と土砂を投入した。

県は今年8月に埋め立て承認時の留意事項違反、軟弱地盤の危険性、環境保全措置に不備があるとして元知事の埋め立て承認を撤回。一方、国土交通相は沖縄防衛局の撤回の執行停止の申し立てを認め、11月1日に工事が再開した。

県は執行停止は国交相の「違法な国の関与」として総務省所管の第三者機関「国地方係争処理委員会」に審査を申し出。県土保全条例で国の事業を規制の対象とする改正を検討するなど、知事権限による建設阻止の手法を模索している。

しんぶん赤旗 2018年12月15日(土)

## 命の海 埋めるな 安倍政権に審判下そう 官邸前 抗議の連続座り込み



(写真) 民意無視の安倍政権は許さ

ないと座り込んで抗議する参加者＝14日、首相官邸前

安倍政権が、民意を無視して沖縄・辺野古へ土砂投入を強行した14日、全国各地で抗議のスタンディングなどが取り組みられました。首相官邸前でも、市民が怒りの座り込みを続け、参加者は「この悔しさを忘れず、選挙で安倍政権に審判を」と口々に語りました。

東京都台東区に住む男性(69)は「とにかく怒りしかない。居てもたってもいられずに来た」と語り、「止める辺野古 土砂投入」のプラカードを手に座り込みました。「安倍政権は、沖縄に対してだけでなく、国会でも民意無視の暴挙を繰り返している。野党にも頑張ってもらい、こんな政治を変えるために対抗しないといけない」と力を込めました。

同世田谷区から参加した男性(68)は、「辺野古は、軟弱地盤や活断層の問題が見つかり、まだ解決していない。それなのに土砂を投入するのはどういうことだ」と語気を強めます。「来年の選挙ではぜったいに与党を敗北させるしかない。そのためにできることは何でもやります」と話しました。

官邸前の座り込みは、「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」が呼びかけたもので、12日から3日間、連続しておこなわれました。

しんぶん赤旗 2018年12月15日(土)

## 辺野古 政府が土砂投入強行 県民の怒りさらに“あきらめられない”声広がる



(写真) 土砂投入強行に

抗議の声を上げる人たち＝14日、沖縄県名護市辺野古

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐり、政府は14日、辺野古埋め立て土砂の投入を強行しました。開始したのは辺野古崎南側のN3、N5護岸などで囲まれた一

角。2015年10月に始まった辺野古「本体工事」は重大な局面に入り、新基地阻止のたたかいは新たな段階に入りました。

埋め立て用土砂を積んだ作業台船は同日午前9時すぎに大浦湾側のK9護岸に接岸。大型ダンプが次々と台船に進入し、土砂を積んで辺野古崎に向かいました。ダンプはN3護岸に進入し、午前11時すぎから土砂の投入を開始しました。現場ではそのたびに、「ザザー」という音が鳴り響きました。

土砂投入作業は午後4時すぎまで継続。台船にはまだ土砂が残っており、15日以降、搬出の継続を狙っているとみられます。さらに、大浦湾には土砂を積んだ運搬船が2隻停泊しています。



(写真) 土砂の投入作業が強行さ

れた「N3」護岸付近＝14日、沖縄県名護市の辺野古崎側  
菅義偉官房長官は同日の記者会見で、「辺野古が（普天間基地問題の）唯一の解決策」だと述べ、あらためて新基地建設を強行する考えを示しました。

しかし、現場では土砂投入に抗議する怒りの声が相次ぎ、政府が狙っている「あきらめ感」が広がるどころか、さらなる怒りの炎が燃え広がりました。

海上では数十隻の抗議船やカヌーなどが「海を殺すな」「沖縄の未来は沖縄が決める」などと書かれたプラカードをかかげたり、臨時制限区域を示すフロート（浮具）に「新基地建設反対」の横断幕をはりつけ、抗議の意思を示しました。

11時に土砂投入が始まると、抗議船船長の仲本興真さんは「政府は違法工事をやめろ。海上保安庁は、沖縄の宝の海を破壊する違法工事に手を貸すな」と訴えました。

米軍キャンプ・シュワブのゲート前には明け方から人々が集まり、安倍政権の暴挙に怒りの声を上げました。

沖縄県の玉城デニー知事はキャンプ・シュワブゲート前に集まった人々に「国は工事を進めて既成事実を積み重ね、県民をあきらめさせようとしているが、逆に県民の強い反発を招き、工事を強行すればするほど県民の怒りは燃え広がることを認識すべきだ」とメッセージを送りました。

午後からは辺野古の浜で県民集会が開かれ、約1000人が参加。「違法工事はやめろ」「土砂投入をやめろ」と氣勢を上げました。

政府の当初の計画では14年から埋め立て土砂の投入を開始し、18年にはほぼ完了する計画でしたが、大幅に遅れています。

## 沖縄知事「打つ手立ては必ずある」 土砂投入一夜明け

毎日新聞 2018年12月15日 19時17分(最終更新 12月15日 19時51分)

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画を巡り、沖縄県の玉城（たまき）デニー知事は15日、抗議行動が続く辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前を訪れた。政府が14日に埋め立て予定海域への土砂投入を始めてから一夜明けたが、玉城知事は「我々が打つ手立ては必ずある。全力で闘っていく。勝つことは諦めないことだ」と移設阻止の考えを改めて強調した。

玉城知事が辺野古を訪れるのは10月の就任後初めて。国土交通相によって埋め立て承認撤回の効力を停止され、移設工事を止める有力な手段を見いだせていない玉城知事にとって、土砂投入翌日に辺野古に駆け付けることで不退転の姿勢を県内外にアピールし、最大の後ろ盾である「民意」をつなぎ留める狙いがある。

玉城知事は14日の自身のツイッターに「対話は継続する。されど対抗しなければならないことにはきっぱり対抗する。言いなりにはならない」と決意を記した。この日のあいさつでも「決してひるんだり、恐れたり、くじけたりしない。勝つことは難しいかもしれない。しかし、我々は絶対に諦めない。みんなで気持ちを一つにして頑張っていく」と現場で抗議の声を上げる人たちを鼓舞した。

土砂投入が開始された海域（6.3ヘクタール）は埋め立て面積全体の4%にとどまることから、玉城知事は14日の記者会見でも「埋め立ては工事全体の一部だ」と強調。埋め立て予定海域の一部には軟弱地盤の問題を抱えており、大規模な地盤改良には県に設計変更の申請が必要になる可能性があることから、「政府がこのまま工事を進めても、新基地建設はいずれ壁にぶつかる」との見方もある。

玉城知事はこの日、辺野古の漁港から双眼鏡で埋め立て工事現場を視察。記者団に対し、「現場に来るとこの異様に胸をかきむしられそうになる。土砂投入は違法な行為だ。県として取り得る対抗手段をしっかり講じていく」と語った。【遠藤孝康、佐野格】

## 玉城知事「戦い止まらぬ」 辺野古、米軍ゲート前で集会

朝日新聞デジタル伊藤和行 2018年12月15日 11時43分



米軍キャンプ・シュワブのゲート前で、基地反対のため集まった人たちに話す玉城デニー沖縄県知事＝2018年12月15日午前11時2分、



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設計画で、名護市辺野古の沿岸部に土砂が投入され始めてから一夜明けた15日、米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議集会が開かれた。玉城デニー知事も訪れ、「我々の打つ手立ては必ずある。我々の闘いは止まりません。本当の民主主義を求めていこう」と訴えた。

14日に土砂が投入され、埋め立てが始まったシュワブ南側の沿岸部では、この日も朝からダンプカーが行き交い、海に土砂を投入する作業が続けられた。海上にはカヌーに乗って抗議する人たちの姿もあった。

ゲート前での集会には数百人が参加。「埋め立ては許さない」「海を守るぞ」とシュプレヒコールを上げた。午前11時ごろ、普段着姿の玉城氏が県職員らと現れると、大きな歓声が上がり拍手が起こった。

玉城氏は「ここに来ると、皆さ…

### 玉城・沖縄知事「我々の闘いは止まりません」

読売新聞 2018年12月15日 13時19分



「我々の闘いは止まらない」と訴える玉城知事（15日午前11時6分、沖縄県名護市辺野古で）＝矢野恵祐撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先・沖縄県名護市辺野古沿岸部で土砂の投入が始まったことを受け、玉城デニー知事は15日午前、近くの米軍キャンプ・シュワブゲート前を訪れ、抗議活動が続ける反対派数百人を前に「(埋め立てを止める)手だては必ずある。我々の闘いは止まりません」と訴えた。

14日に始まった土砂投入は15日午前も行われ、反対派はゲート前に座り込んで「違法な埋め立ては今すぐやめろ」などと声を張り上げた。午前11時頃に到着した玉城知事は「耐え難い。対話は大切だが、対抗すべき時には対抗する」と強調。さらに、「本当の民主主義、正しい道確かめ合いながら頑張っていこう」と呼びかけると、反対派から大きな歓声が上がった。

### 「辺野古土砂投入、闘いは止まらない」玉城知事、演説全文

毎日新聞 2018年12月15日 22時03分(最終更新 12月15日 22時28分)



辺野古沿岸部の埋め立て海域への土砂投入から一夜明け、米軍キャンプ・シュワブのゲート前であいさつする玉城デニー知事＝沖縄県名護市で 2018年12月15日午前11時5分、野田武撮影

玉城デニー沖縄県知事が就任後初めて、政府による米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設工事が進められている米軍キャンプ・シュワブのゲート前で続く抗議活動の現場を訪れた際の激励の演説の全文は、以下の通り。

2018年12月15日午前11時

はいさい、ぐすーよ、ちゅーうがなびら（こんにちは、皆さん、ごきげんいかがですか）。ここに立つと勇気がもらえるような気がします。

本当に昨日、土砂が投入されるという、本当に耐え難い日を迎えねばならなくなった。私たち沖縄県も取れるべき手段はしっかり頑張っていこうと、職員一丸となって日々取り組んでいます。昨日も情報を収集しながら現場にいる職員からの状況報告をみんなで共有しながら、我々が打つ手立ては必ずあるということを県庁内でも確認しながら、現場にいる皆さんの闘いを、必死に一生懸命受け止めて見



守っておりました。我々の闘いは止まりません。

私のツイッターにもフェイスブックにも、「現場に行けない。だけど皆さんと気持ちは一つだということをできれば伝えてほしい」というメッセージをたくさんいただいています。ですから、私たちのこの気持ち、国がやっている暴挙に対して、本当の民主主義を求めるといふ私たちの正しい道なり、正しい思いは全国の皆さんとも共感しています。ぜひ、そのことも今日、確かめて頑張っていきましょう。

昨日は亡くなられた翁長雄志（前）知事の奥さまが「いてもたってもいられず来ました」ということで言葉を発していたと思います。「デニーさんが頑張っているから、私が行ったら迷惑になるんじゃないか」という気持ちも持っていらっしやっただと思います。

しかし、私たちはみんなつながっている。誰であっても、子どもであっても、おじいちゃん、おばあちゃんであっても。駄目なものは駄目だ、許せないものは許せない。そのために行動しよう、声を上げよう、みんなに伝えよう。その気持ちはみんな同じです。ですから、今日も皆さんとこうやって気持ちをしっかりと確かめ合いながら、我々ができることは必ず全力で闘っていく、取り組んでいきます。

対話は大切です。ツイッターにも書きましたが、対話の気持ちはこれからも継続していく。しかし、対抗すべき時には対抗する。私たちは決してひるんだり、恐れたり、くじけたりしない。勝つことは難しいかもしれない。しかし、我々は絶対にあきらめない。勝つことはあきらめないことです。みんなでその気持ちを一つにして頑張っていきましょう。

うちなーのぐすーよ、負けて一ないびらんどー（沖縄の皆さん、負けてはいけません）。まじゅん、ちばていかなやーさい（一緒に頑張っていきましょうね）。

よろしくお願ひします。ありがとうございました。

## 「闘いは止まらない」玉城知事、辺野古訪問 土砂投入一夜明け

毎日新聞 2018年12月15日 12時08分(最終更新 12月15日 13時49分)

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画で、政府による埋め立て予定海域への土砂投入開始から一夜明けた15日午前、沖縄県の玉城（たまき）デニー知事が抗議活動が続いている辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前を訪れた。玉城知事は数百人を前に「勝つことはあきらめないことだ。我々の闘いは止まらない」と訴え、今後も移設阻止に向けて全力を尽くすことを約束した。

シュワブ南側の護岸で囲われた海域には15日も土砂が次々と投入された。政府は辺野古沿岸部の約160ヘクタールを埋め立て、長さ1800メートルの滑走路2本を備えた普天間飛行場の代替施設を建設する計画だ。

玉城知事が辺野古を訪れるのは10月の知事就任後初めて。「ここに立つと勇気をもたらえる」と話し、「昨日は耐え難い日を迎えなければならなかった。打つ手立ては必ずある。国の暴挙に対して民主主義を求める訴えは、全国で共感を得ている」と強調した。

さらに「対話は大事だが、対抗すべきところは対抗する。ひるんだりはしない」と決意を示し、「うちなーのぐすーよ、負けて一ないびらんどー（沖縄の皆さん、負けてはいけませんよ）」と呼び掛けた。【遠藤孝康、佐野格】

## デニー知事「絶対に諦めない」 ゲート前で辺野古反対を叫ぶ

沖縄タイムス 2018年12月15日 12:11

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、玉城デニー知事は15日午前、新基地建設に反対し市民が座り込む米軍キャンプ・シュワブのゲート前を訪れた。政府が14日に初めて埋め立て土砂を投入したことを「暴挙」と批判し「対話は大切だ。しかし対抗すべき時は対抗する。ひるんだり恐れたりくじけたりしない。勝つことは難しいが、諦めない」と新基地建設阻止に向けた連帯を呼び掛けた。



市民らの集会で土砂投入に抗議の声を上げる玉城デニー知事（左）＝15日午前、名護市の米軍キャンプ・シュワブゲート前

市民によると、ゲート前には600人が座り込み「デニーさん頑張れ」「一緒に工事を止めよう」など知事と市民が互いを励まし合った。

玉城知事はゲート前でのあいさつ後、辺野古の浜から海上で建設工事が進む様子を視察し、職員から説明を受けた。視察後は竜宮神をまつる拝所に手を合わせる場面もあった。

## 沖縄知事が辺野古視察 政府は土砂投入続行

日経新聞 2018/12/15 11:30

沖縄県の玉城デニー知事は15日、米軍普天間基地（宜野湾市）の移設先、名護市辺野古の土砂投入現場を視察し「県として取り得る対抗手段はしっかり講じていく」と強調した。記者団に語った。視察に先立ち、現場で抗議活動を続ける反対派の市民らの集会に参加し「対話はこれからも継続するが、対抗すべき時は対抗する。勝つことは難しいかもしれないが、絶対に諦めない」とあいさつした。政府は15日午前、辺野古沿岸部で土砂投入を続行した。



15日午前、沖縄県名護市辺野古で開かれた、埋め立て用の土砂投入に抗議する集会に参加した玉城デニー知事(中央)=共同

玉城氏は視察後、記者団に「現場に来ると、この異様さに胸をかきむしられるような気持ちにさせられる」と不快感を表明した。岩屋毅防衛相が、早ければ2022年度とされる普天間基地の返還は困難との認識を示したことには「いつになったら普天間は返るのか。民主主義国家として、とても認められることではない」と反発した。

県は、埋め立てに使う土砂の採取の規制強化や県民投票のほか、海底に存在が指摘される軟弱地盤の改良工事を巡る知事権限の行使など、対抗策を検討する。

反対派の市民らは移設先となっている辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議集会を開催。100人以上が集まり「違法工事を中止せよ」と訴えた。玉城氏は14日、辺野古で開かれた反対派の集会に「グスーヨー、マキティーナイビンランドー(皆さん、負けてはいけません)」とのメッセージを寄せていた。

政府は14日、埋め立て予定海域南側の護岸で囲まれた約6.3ヘクタールの区域への土砂投入を始め、埋め立てを本格化させた。

防衛省の計画では、埋め立て予定海域は全体で約160ヘクタール。昨年4月に施設の外枠となる護岸の造成に着手し、5年で埋め立てを終えるとしていた。だが、工事手順の変更などによってずれ込む公算が大きい。

[共同]

### 移設阻止「諦めない」 沖縄知事が辺野古デモに参加 産経新聞 2018.12.15 11:53



沖縄県名護市辺野古で開かれた、埋め立て用の土砂投入に抗議する集会に参加した玉城デニー知事(中央)=15日午前

沖縄県の玉城(たまき)デニー知事は15日午前、同県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前で行われているデモに参加した。政府が14日に米軍普天間飛行

場(宜野湾(ぎのわん)市)を移設するため辺野古の埋め立て工事に着手したことに抗議する目的だ。

玉城氏は15日、名護市辺野古での抗議集会であいさつし「対話はこれからも継続するが、対抗すべき時は対抗する。勝つことは難しいかもしれないが、絶対に諦めない」と述べた。14日夜には自身のSNSで「辺野古ゲート前に行き、多くの県民とともに違法な土砂投入に抗議します!」と明らかにしていた。玉城氏は9月の知事選で辺野古移設反対を訴えて当選しており、土砂投入着手後も自身の求心力を維持したい思惑があるとみられる。

ゲート前には14日早朝から辺野古移設反対派が集まり、沖縄平和運動センターの山城博治議長らが「デニー知事が来るぞ」などと氣勢を上げた。

### 「絶対に諦めない 対抗手段講じる」沖縄県 玉城知事 NHK2018年12月15日 16時45分



沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設に向けて埋め立て予定地への土砂の投入が始まった名護市辺野古を沖縄県の玉城知事が訪れ、工事を進める政府に対抗手段を講じていく考えを示しました。



沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に向けて、政府は14日から、埋め立て予定地へ土砂の投入を始め、2日目の15日も続けられました。移設計画に反対する沖縄県の玉城知事は現地を訪れ、埋め立て予定地近くのアメリカ軍基地、キャンプシュワブのゲート前で抗議活動を行っている人たちを激励しました。

この中で玉城知事は、「決してひるんだり、恐れたり、くじけたりしない。勝つことは難しいかもしれないが絶対に諦めない」と述べ、政府に対抗していく姿勢を示しました。このあと、工事の様子が見える近くの漁港を訪れ、県の職員の説明を受けながら土砂が投入された場所などを確認していました。

玉城知事は記者団に対し、「現場に来ると胸をかきむしられるような気持ちにさせられる。土砂が入る前の状況に回復させるために県として取り得ることができる対抗手段を講じていきたい」と述べました。

しんぶん赤旗 2018年12月15日(土)

## 辺野古土砂投入強行 「県民の怒り燃え上がる」 デニー知事が会見

沖縄県の玉城デニー知事は14日、同県名護市辺野古の米軍新基地建設の埋め立て土砂投入が同日強行されたのを受け、県庁でコメントを発表しました。この中で「工事を強行すればするほど県民の怒りはますます燃え上がる」と強調。全国民に向けて「民主主義国家としてあるまじき行為を繰り返す国に対し、共に声を上げ、共に行動していただきたい」と呼びかけました。

デニー知事はコメントで「激しい憤り」を表明。「国は一刻も早く工事を進めて既成事実を積み重ね、県民をあきらめさせようと躍起」になっていると指摘し、それは逆に県民の反発を招くと語りました。

安倍政権が違法行為と法のねじ曲げを重ねて新基地建設の工事を進めることについて、「法治国家、そして国民に主権があるとする民主主義国家において決してあってはならない」と批判。「国策を強行するやり方は、地方自治を破壊する行為であり、本県のみならず他の国民にも降りかかってくるものと危惧」しているとしています。

現時点では埋め立て工事の一部が行われているだけで、今後は軟弱地盤などの対応も必要なため、「新基地の完成は見通せない」と強調。違法に投入された土砂は、当然原状回復されなければならないと主張しています。

デニー氏はコメント発表後、記者団から今後の対応を問われ、引き続き政府に対話による解決策を求めると発言。「違法・強硬なやり方は絶対に認めることができない。あらゆる手段を講じていく」と表明しました。

### 「工事やめろ」美ら海に土砂投入 県民ら抗議

毎日新聞 2018年12月14日 12時26分(最終更新 12月14日 15時47分)

日米両政府による米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の返還合意から22年余。安倍政権は14日、多くの県民が守りたいと闘い続けてきた名護市辺野古の美（ちゅ）ら海を埋め立てる土砂投入に踏み出した。なぜ沖縄の声を聞こうとしないのか。なぜ沖縄の民意に向き合おうとしないのか。埋め立て予定海域近くの米軍キャンプ・シュワブのゲート前には、抗議に集まった人たちの怒りの叫びや悲憤の音が渦巻いた。【佐野格、比嘉洋】

国道沿いのキャンプ・シュワブのゲート前には、夜明け前から抗議の座り込みの参加者が続々と詰めかけた。約1.3キロ離れた埋め立て海域の作業の様子は確認できなくても、政府に対して怒りの意思を示すためだ。「工事をやめろ」。海上でもカヌーや船から憤りの声を上げた。

「政府の横暴は許さないぞ」「埋め立てを止めろ」。午前9時25分ごろ、約500人が海の方角を向いて一斉にシュプレヒコールを上げ、デモ行進を始めた。

「私にできることは限られている。安倍政権が民意を無

視することも分かっている。でも、ここで声を上げずにいられるか」。沖縄本島南部の八重瀬町の農業、金城節子さん（69）は拳を握りしめた。「普天間飛行場から辺野古に移したところで沖縄が米軍の事故や事件に巻き込まれる状況は変わらない」

長年にわたって抗議活動を率いてきた沖縄平和運動センターの山城博治議長（66）はマイクで懸命に声を張り上げた。「激しい憤りを感じる。ふざけるな。ウチナーンチュ（沖縄の人）の誇りと燃え上がるような正義の情熱を高々と掲げ、ゲート前で闘い抜こうじゃないか。みんな頑張ろう、政府に負けるな」

那覇市の農業、大城清善さん（69）は「県民は屈しない」と書かれたプラカードを持つ手に力を込めた。「2、3隻の船に積み込まれた土砂を海に投入しても埋め立ての1%にも満たない。政府は既成事実化を図って全国にアピールしようとしているが、とんでもない」と憤った。

午前10時、デモ行進の隊列は伸び続けた。3年ぶりに辺野古の抗議活動に参加した那覇市の元エンジニア、金城秀幸さん（74）が言った。「安全保障は沖縄だけの問題ではないはずだ。政府は埋め立てによって県民のあきらめを誘おうとしているが、本土に届くまで反対の声を上げ続けていく」

「打つべき手必ずある」 玉城知事、土砂投入の現場を視察 座りこむ人々と共に闘う決意を確認  
琉球新報 2018年12月15日 14:07



米軍キャンプ・シュワブゲート前で土砂投入強行に対して演説する玉城デニー知事＝15日11時3分、名護市辺野古（田中芳撮影）

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設で政府が14日に辺野古沿岸部への土砂投入を始めたのを受け、玉城デニー知事は15日午前、新基地建設が強行される現場を視察した。

工事に反対する市民らが集まる米軍キャンプ・シュワブゲート前で「対話する気持ちは継続する。しかし、対抗すべき時には対抗していく」とあいさつし、新基地建設阻止の方針を改めて表明した。

市民ら約500人がゲート前に駆け付け、玉城知事を迎えた。玉城知事は土砂投入が始まった14日を「耐えがたい日を迎えねばならなかった。しかし我々が打つべき手は必ずあると確認した」と振り返り「我々の闘いは止まらな

い」と力を込めた。

ゲート前を訪れた後、辺野古漁港の岸壁から15日も続けられる土砂投入の作業を確認し、漁港内にある拌所で手を合わせた。記者団の取材に「平和な未来をつくろうとしている県民に力を与えてください」と祈ったことを明かした。

土砂投入の様子を見て「胸がかきむしられる思いだ。必ず原状回復させ、民主主義国家としてあるべき姿を求めていく」と語った。【琉球新報電子版】

## 土砂投入強行 「共に行動を」玉城知事、呼び掛け 「地方自治の破壊」と国批判

琉球新報 2018年12月15日 12:14

「数々の違法行為を行い、法をねじ曲げ、民意をないがしろに沖縄県民の頭越しに工事を進めることは地方自治を破壊する行為だ」「工事を強行すればするほど県民の怒りはますます燃え上がる」。

14日正午前、土砂投入を受けた臨時の記者会見で、玉城デニー知事は冷静ながらも厳しい口調で国をただした。

9月の県知事選で辺野古新基地建設反対を訴え、当選し、米国や東京で工事中止と対話による解決を求めてきた。並行して工事の進め方や手続きの違法性も指摘してきた。それにもかかわらず、強行された土砂投入。玉城知事は「法治国家、民主主義国家としてあるまじき行為だ」と国を強く批判した。「沖縄県民、全国民の皆さまには、このような国の在り方をしっかりと目に焼き付け、心にとどめていただきたい。共に声を上げ行動しよう」と呼び掛けた。

10分余りの短い会見。記者らから「このような結果になり今後提訴するのか」などと問われた。事前に準備したコメント文に時折目を落としながら記者を正視した玉城知事は「国のやり方は絶対に認めることはできない。あらゆる手段を講じていく」と述べるにとどめた。

午後にも知事室には慌ただしく担当課の職員らが入り出した。今後の対応について、就業時間を過ぎても調整は続き、知事は午後7時前に退庁した。

## 土砂投入強行 民意封じ 重機次々

琉球新報 2018年12月15日 12:08

透明度が高く「辺野古ブルー」と呼ばれる名護市辺野古の海。14日午前11時、新基地建設に向けた土砂投入が始まった。護岸で囲まれた海にダンプ車が荷台を傾け、ブルドーザーが茶色の土を敷きならし、護岸内の海水が茶色く濁った。米軍統治の1950年代、銃剣とブルドーザーによって県民の土地を奪われ、米軍基地が造られた。その光景が辺野古の海で繰り返されているようだった。

午前7時半ごろ、沖縄防衛局や海上保安庁の警戒船が出港。後を追うように海上で抗議する市民らもカヌーや船を出した。午前8時前、土砂を陸揚げするK9護岸に作業員

らが現れた。

「ガンッ」。土砂を積み、大浦湾内に停泊していた台船が9時ごろ、鈍い音を立ててK9護岸に接岸した。積み替えた土砂を載せるダンプ車12台が護岸に並んだ。カヌーや抗議船にいる市民は「違法工事をやめろ」などと抗議した。ショベルカーで積み替えられた後、最初のダンプ車が辺野古崎付近の「埋め立て区域2-1」に到着した。

海上の市民が「海を殺すな」と叫び、作業員がダンプ車誘導のベルを吹き鳴らす。抗議を制止する海保や沖縄防衛局の通告が拡声器を通して響き渡る中、11時に最初の土砂を投入した。

シュワブや湾の上空には時折、米軍輸送機や米軍ヘリが飛行していた。土砂が投入された区域近くにはウミガメも泳いでいた。

抗議船船長の西川正夫さん(66)は、13日に玉城デニー知事が政府に土砂投入の中止を要請したことに触れ「土砂を投入され悔しい。政府は沖縄の話を聞かず強行し最低だ。県民は諦めない」と前を見詰めた。

## 土砂投入強行 名護、宜野湾 思い複雑 「白紙撤回を」「辺野古しか」

琉球新報 2018年12月15日 11:58

【名護・宜野湾】20年以上にわたって新基地建設問題に翻弄(ほんろう)されてきた名護市辺野古。同区の西川征夫さん(74)は「残念だ。政府のパフォーマンスでしかない」と語る。西川さんは基地建設予定地に軟弱地盤や活断層が存在していることなどに触れ、「基地建設の白紙撤回はまだできる」と強調した。

漁師の男性(52)は「地元の漁師への説明は何もない。漁師を無視していて、今の政府のやり方は気に入らない」と切り捨てる。「せめて汀間や辺野古に回ってきて漁師に説明すべきではないか」と政府の姿勢を批判した。一方、元市議の島袋権勇さん(70)は「辺野古区のスタンスとしては、町中にある普天間飛行場の危険除去が前提になっている」と強調した。

米軍普天間飛行場を抱える宜野湾市。現在は同飛行場内にある市宜野湾で生まれ育った宮城章さん(80)は「政府のやり方はあまりにも横暴だ」と憤る。「運用停止の期限も守ろうとせず、辺野古に基地が造られても移転して土地が返ってくるか疑問だ」とフェンスを見詰めた。

市宜野湾に住む女性(64)は「本当は基地自体なくなってほしいけど」と前置きした上で、「今の状況では辺野古以外に考えられない。夜間訓練や事故の恐怖が常にある。元氣なうちに基地がなくなるのを見たい」と話した。

息子と市内の公園を訪れた女性(23)＝市宜野湾＝は「事故が起きたら怖い。基地は早くなくなってほしい」と話し、息子の肩を抱いた。

## 県民、一貫して反対 普天間返還・移設問題 22年間、形変え迷走

琉球新報 2018年12月15日 11:42

1996年4月、当時の橋本龍太郎首相とモンデール駐日米大使による米軍普天間飛行場の返還合意から22年が経過するが、返還のめどは付いていない。政府は普天間返還の条件として名護市辺野古に代替施設を建設する「県内移設」に固執し、沖縄県民の一貫した反対の中で移設計画は幾度も形を変え迷走してきた。

95年の少女乱暴事件を契機に県民の反基地感情はピークに達し、日米両政府は市街地のど真ん中に位置する普天間飛行場の返還を負担軽減の目玉として打ち出した。だが、県内移設が返還条件となったことに県民世論は反発し、当時の大田昌秀知事は本島東海岸への海上ヘリポート案を拒否した。98年の知事選で大田氏を破った稲嶺恵一知事は政府との関係改善を進める中で、15年の使用期限を付けた軍民共用空港の条件で県内移設を容認。辺野古沖合2・2キロに2千メートルの滑走路を備えた施設の建設が決まった。

だが、この海上基地も市民の抗議行動などに遭って行き詰まったため政府は断念し、米軍キャンプ・シュワブ沿岸部を埋め立てる計画に見直す。稲嶺氏の受け入れ条件を尊重するとしていた99年の閣議決定を廃止し、2006年の在日米軍再編に関する閣議決定でV字滑走路の沿岸案が正式な政府の方針となった。沖合案や使用期限の条件がほごにされたことにより、稲嶺氏は辺野古移設に反対する立場に転じた。

09年の民主党への政権交代に伴い鳩山由紀夫首相(当時)が「最低でも県外」を掲げたことでも、普天間飛行場の県外・国外移設を求める県内世論が保革を超え一気に高まった。06年の知事選で「V字案は認めない」とし初当選した仲井真弘多氏は、10年知事選で「県外移設」を掲げ再選。だが仲井真氏は安倍政権下の13年末に「(公有水面埋立法の)基準に適合していると判断した」と沖縄防衛局の埋め立て願書を承認、公約から一転して辺野古移設を容認した。

翌14年の知事選で、辺野古新基地建設阻止を公約にした翁長雄志氏が仲井真氏らを破って初当選。国は仲井真県政時の公有水面埋め立て承認を根拠に建設工事を進めたが、翁長県政は埋め立て承認の取り消し、撤回という知事権限の行使で埋め立てに対抗した。翁長氏の死去に伴う今年9月の県知事選では新基地建設阻止を継承する玉城デニー氏が過去最多得票で当選し、県内移設に反対の民意が改めて示された。

### 〈解説〉辺野古 土砂投入 国、県に返還責任転嫁

琉球新報 2018年12月15日 11:26

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設で、早ければ2022年度とされる普天間飛行場の返還実現を困難とした岩屋毅防衛相の発言からは、沖縄県に責任を転嫁する形で普天間

飛行場の危険性除去を急ぐ必要性を強調し、土砂投入の強行を正当化して悪印象を薄める思惑が透ける。工事を新たな段階に進めることで既成事実化し、県民に対して諦めを誘う効果を狙っているとみられる。

しかし、県民にとっては「辺野古移設か、普天間固定化か」という二者択一論によって県内での「基地たらい回し」を迫るようにも映る。玉城デニー知事が言うように県民の反発を一層招く可能性は否めない。

岩屋氏は県による埋め立て承認撤回を挙げて危険性除去が進んでいないと指摘した。政府は、普天間飛行場の「5年以内の運用停止」の実現は難しいとの認識を示す際、県の承認撤回に言及してきた。新基地建設反対を掲げる県に責任をかぶせる点で今回の岩屋氏の発言は同じ論法だ。そこには、政府が二者択一の考え方を全国に定着させたい思惑さえうかがえる。これに対し、県は辺野古移設にこだわるのが普天間飛行場の危険性除去を遅らせているとの立場で、運用停止と県外移設を要求している。

防衛局がこれまでに搬出した土砂は最大でも約4800トンと推計され辺野古側必要量の約0・17%にすぎない。今回着手した区域は全区域で最も小さく、埋め立て完了までには一定の期間を要する。埋め立て作業は、大浦湾側に指摘される軟弱地盤の問題など高いハードルもある。県にとっては今後、行政指導など法廷闘争をにらむ取り組みとともに、全国世論へ向け、政府の二者択一論を突き崩す「沖縄の論法」の発信も課題といえそうだ。(明真南斗)

### 普天間22年度返還「困難」 岩屋防衛相、手続き遅れ理由に

琉球新報 2018年12月15日 11:09

【東京】名護市辺野古の新基地建設を巡り、岩屋毅防衛相は14日の閣議後会見で、早ければ2022年度とされる米軍普天間飛行場の返還について実現は困難との認識を示した。沖縄県の埋め立て承認撤回などで手続きに遅れが生じたとして「目標の達成はなかなか難しい」と説明した。辺野古移設に対する県民の強い反発がある中で、普天間の危険性除去が進まない要因を辺野古移設に反対する県の姿勢にあるとした。

日米は13年4月、米軍普天間飛行場の返還期日について「22年度またはその後」と合意している。

玉城デニー知事は13日の岩屋氏との会談で工事中断を求めた際、辺野古移設がこれまで進んでこなかったのは県民の反対の民意があったからだとして強調した。だが政府は「辺野古が唯一の解決策」だとして14日の土砂投入に踏み切った。

防衛省による当初計画では工期は5年となっている。一方で県は今年11月、新たに確認された軟弱地盤の改良工事などを含め、工期にあと13年を要するとの試算をまとめている。

また菅義偉官房長官は 14 日の会見で、仲井真県政時代に約束した 19 年 2 月までの普天間飛行場の運用停止について「実現するのは難しい状況になっている」と述べた。

## 辺野古 土砂投入 政府 埋め立て強行 玉城知事批判「激しい憤り」

琉球新報 2018 年 12 月 15 日 10:44



次々とトラックから投入される土砂＝14 日午後 3 時 33 分ごろ、名護市の米軍キャンプ・シュワブ沿岸（小型無人機で撮影）

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設に向け、沖縄防衛局は 14 日午前 11 時、米軍キャンプ・シュワブがある辺野古崎南側の埋め立て予定区域に土砂を投入した。玉城デニー知事は埋め立て事業の手続きに違法性があるとして 12 日に防衛局に行政指導していたが、国は沖縄県の工事中止の求めには応じず、事前に通知していた 14 日の土砂投入を強行した。記者会見した玉城知事は「工事を強行するほど県民の怒りはますます燃え上がることを認識すべきだ」と国を強く批判した。

2017 年 4 月に政府が海上での護岸建設に着手して以降、本格的な埋め立て作業は初めてとなり、新基地建設は新たな段階に入る。



一方で玉城知事は、今後想定される大浦湾側の地盤改良に伴う設計変更の承認権限も行使しながら新基地建設阻止に取り組む構えを崩しておらず、埋め立て作業が国の計画通り進むかは依然見通せない。

国が土砂の投入を始めたのは辺野古崎南側の「K4」「N5」「N3」の護岸に囲まれる浅瀬の海域。面積は約 6・3 ヘクタールと埋め立て予定区域では最も小さく、新基地建設全体の埋め立て面積約 160 ヘクタールのうちの 4%に当たる。

沖縄防衛局は 14 日午前 8 時半、県に土砂投入を行うことを伝えた。現場では午後 8 時すぎから準備作業が始まり、午前 9 時に土砂を積んだ台船が辺野古崎北側の K9 護岸に接岸した。台船上で土砂をダンプカーに積み替えて埋め立て予定区域まで運び、ダンプカーの荷台から降ろした土砂

をブルドーザーで海岸に押し込んだ。土砂の陸揚げや海域への投入作業は午後 4 時すぎまで続けられた。

国が土砂投入に着手したことを受け、玉城知事は午前 11 時 45 分から県庁で会見を開いた。玉城知事は、県が 11 月 29 日に国地方係争処理委員会に申し立てた審査の判断が示されていない上、12 月 12 日に防衛局に行政指導し、13 日には上京して菅義偉官房長官と岩屋毅防衛相に工事中止を直接訴えたことに言及。「県の要求を一顧だにせず土砂投入を強行し、激しい憤りを禁じ得ない」と語気を強めた。15 日にはキャンプ・シュワブのゲート前を訪れる予定。

## 国、「対話」を放棄 辺野古土砂投入 県、民意実現求める 政府関係者「大きな一歩」と強調

琉球新報 2018 年 12 月 15 日 05:00



会見で辺野古海域への土砂投入について「激しい憤りを禁じ得ない」などと述べ、政府を批判する玉城デニー知事（中央）＝14 日午前、県庁

政府は 14 日、名護市のキャンプ・シュワブ沿岸部への埋め立て土砂投入を強行し、辺野古新基地建設は新たな局面を迎えた。「対話」により沖縄の民意の実現を求める玉城県政に背を向け、政府は米軍普天間飛行場の危険性除去を「錦の御旗」として辺野古の埋め立てを推し進めていく構えだ。一方、岩屋毅防衛相が 2022 年度の返還目標の実現は「難しい」と述べるなど、移設計画は期間や予算について大幅な狂いを余儀なくされている。

米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古新基地建設に向け、政府は予告通り 14 日、辺野古側海域への埋め立て用土砂の投入に踏み切った。「現時点では埋め立て工事全体の一部にすぎず原状回復すべきだ」（玉城デニー知事）という立場の県と政府の攻防は次の段階に移行する。

玉城県政で国地方係争処理委員会への審査申し立てや沖縄防衛局への行政指導など、県は対抗手段を次々と打ち、土砂投入直前のタイミングとなる 13 日には玉城知事が上京して、菅義偉官房長官らに工事中止を訴えた。

それでも政府は「辺野古が唯一」との姿勢を崩さず、既成事実化の第一歩として土砂を投じた。

土砂投入直後の 14 日午前 11 時半ごろ、羽田空港で記者団の取材に応じた岩屋毅防衛相はいつになく神妙な面持ちだった。「抑止力を維持しつつ、沖縄の負担を軽減するためにも辺野古移設という方法しかない」。これまでと同じ見解を繰り返したただけだが、言葉に力を込め決意をにじませた。

埋め立てが始まった区域は約 6・3 ヘクタールの浅い海

域だ。全体面積約160ヘクタールのうち4%にすぎないが、政府関係者は「かつてない大きな一歩だ」と強調する。埋め立て工期は2020年7月までとなっているが、防衛省関係者によると実際には「数カ月程度」という。

1996年の普天間飛行場の返還合意から22年。菅義偉官房長官は同日午後の会見で「全力でこの埋め立てを進める」と語った。

一方、急きょ会見を開いた玉城知事は、辺野古新基地の完成まで13年以上要するという県試算を基に「今回土砂を投入しても完成は見通せない」と述べ、長期戦となることを示唆した。辺野古で土砂投入に抗議する市民らは、玉城知事が現場入りしてマイクを握り、抗議活動を鼓舞することを期待したが、姿を現さなかった。

玉城知事は公務のない15日に現場入りすることとし、14日は県庁にとどまって県幹部との会合を重ねた。知事らが県庁で対抗策を練る間、県職員が早朝から現場に張り付き、土砂投入の作業を確認した。

県が埋め立て承認時の留意事項に違反していると指摘している陸揚げの様子を前に、職員は繰り返しカメラのシャッターを切った。今後、新基地建設の問題点を示す「証拠」（県幹部）を収集していたとみられる。職員の一人は「なんで堂々と（陸揚げに護岸を）使っているんだろう。約束を守らない」とため息をついた。

県幹部の一人は「性急に行動して（政府から）しっぺ返しを食らってもいけない。慎重にしなければならない」と語りつつ、「簡単に負けない」と誓った。（當山幸都、明真南斗、山口哲人）

## 辺野古まだ止められる...打つ手探る沖縄県 土砂投入は埋め立て全体の4%

沖縄タイムス 2018年12月15日 10:03

米軍普天間飛行場の返還合意から22年目にして、政府が移設先とする名護市辺野古の海域に初めて埋め立て土砂が投入された。全国メディアの報道は数日前から過熱し、投入の瞬間は全国へ生中継された。これこそが政府が狙う既成事実の積み上げだが、玉城デニー知事も「埋め立ては全体の一部だ」と強調するように、阻止にはまだ間に合う状態にある。（政経部・銘苅一哲）



海への土砂投入が始まった名護市辺野古の新基地建設現場（朝日新聞社機から田嶋正雄撮影）



最初の土砂投入実施区域（2018年12月15日沖縄タイムスより）

土砂が投入された3護岸に囲まれた区域は、埋め立て面積全体の4%にとどまる。仮に隣接する辺野古側が埋め立てられたとしても、大浦湾側は軟弱地盤の問題を抱えており、基地建設に必要な地盤改良は県知事に計画変更を申請しなければならない。

知事が辺野古に反対する限り、新基地計画は必ず壁にぶつかることになる。

政府が埋め立てを既成事実化し県内世論の諦めムードの醸成を狙うのは、4年後の知事選で県政を奪還し建設計画をスムーズに進めたい考えが背景にあるのは明白だ。

だが、民意を背にした知事の意見に耳を傾けず、自ら米政府と協議して決めた普天間返還の最短期限である2022年度の返還を土砂を投入した途端に困難視するのはあまりにも理不尽だ。政府が強硬姿勢を取り続ける限り県民の理解は得られず、目標とする県政交代の可能性は低くなるばかりだ。

一方で、玉城県政は軟弱地盤以外に工事を主体的に止める手法を見いだせていないのも事実だ。国内外の世論に政府の理不尽さを訴えることも重要な課題となるが、土砂投入を受けた14日の会見は約10分間、マスコミ3社の質問で打ち切られた。

建設阻止の手法を検討中でその内容を明らかにできない事情を抱えていたとしても、情報の発信力や世論形成への取り組みに課題を残している。

海への土砂投入が始まった名護市辺野古の新基地建設現場＝14日午前11時39分（朝日新聞社機から田嶋正雄撮影）

## この問題もう終わらせて... 辺野古住民「嫌なのは県民同士の対立」

沖縄タイムス 2018年12月15日 10:30

土砂投入で「前に進めるしかない」

沖縄県名護市辺野古出身で今年9月に北谷町に移った軍雇用員の嘉陽宗司さん（35）は、地元への基地建設について「本当にできるのかな」と現実感はなかった。土砂投入を受け、「前に進めるしかない」と感じた。



海への土砂投入が始まった名護市辺野古の新基地建設現場  
＝14日午前

米軍キャンプ・シュワブは身近な存在。基地を危ないと思ったことはなく、移設を賛否で言うなら「賛成の方が強い」。でも、県民の民意が反対で、実現できるとしたら、建設しない方がいいとも思う。

北谷町に転居して、普天間飛行場は身近になり、普天間飛行場の地元の人たちのために、移設を進めた方が良くという思いも強くなった。前に進めるしかないのであれば、早く建設して問題を終わらせてほしい。「県民同士の対立が嫌」との思いを抱く。

辺野古区の漁業者の男性（62）は「国のやることだから絶対に止められない」と漏らした。当初は建設に反対する気もあったが、平均2千万円の漁業補償は大きい。今は基地建設の現場海域で警戒船に乗る。「早く工事が終わり、本来の漁師の仕事に戻りたい」

「基地は諦めてくれ」

「辺野古・大浦湾に新基地つくらせない二見以北住民の会」副会長で汀間区長の新名善治さん（64）は「今まで、誠心誠意の話し合いがあるだろうと待っていたが、土砂を入れたとなれば、徹底的に闘う」と語った。

海は「命の次に大切」。なぜ辺野古に造るのか国側の説明を聞きたかったが、実現しないままだ。「強引に進めるということは、納得させられるような理由がないということ」とみる。「基地は諦めてくれ」と訴えていくつもりだ。

### 抗議の市民「工事中止あきらめない」 辺野古、土砂投入一夜明け

毎日新聞 2018年12月15日 11時25分(最終更新 12月15日 11時30分)



辺野古沿岸部の埋め立て海域への土砂投入開始から一夜明け、米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議の声を上げる人たち＝沖縄県名護市で2018年12月15日午前8時23分、野田武撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の県内移設工事で

土砂投入が始まった名護市辺野古沿岸部では前日に続き15日も朝から作業が進められ、近くの米軍キャンプ・シュワブのゲート前には県内外から抗議の市民が数百人集まった。「埋め立て工事中止をあきらめない」「美（ちゅ）ら海」を守る闘いの継続を誓い合った。

「悔しいが土砂を投入された。新しいステージに入ってしまった」。早朝から始まった座り込みの抗議活動。マイクを握った沖縄平和運動センターの山城博治議長は悔しさをぶつけるように声を張り上げた。「先は長いですが絶対に止めましょう」

我らのものだ沖縄は――。ゲート前の市民は本土復帰運動のころから歌い継がれている「沖縄を返せ」を体を揺らして歌い、埋め立て海域に向かって一斉に工事阻止のシュプレヒコールを上げた。近くを走る車からは、励ましのクラクションが鳴らされた。沖縄本島南部の八重瀬町から参加した主婦の沖本富貴子さん（68）は「私たちはずっとがんばってきた。諦めないし、ここで引き下がることはできない。なぜ国民の膨大な税金を使って米国の基地を造るのか」と訴えた。

沖縄出身の友人を通じて移設問題に関心を持ち、名古屋市から駆けつけた元医療事務員の依田幸男さん（75）は「全国で反対の世論が盛り上がり、基地は完成させられないという自信がある。これからも沖縄の人と一緒に闘いたい」と拳を握りしめた。【佐野格、比嘉洋】

### 自民沖縄県連、衆院補選「移設容認を前面に」 公明に不快感も

毎日新聞 2018年12月15日 20時29分(最終更新 12月15日 22時54分)



米軍キャンプ・シュワブのゲート前に駆けつけた沖縄県の玉城デニー知事＝沖縄県名護市で2018年12月15日午前11時3分、和田大典撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画で、現場海域への土砂投入開始から一夜明けた15日、自民党沖縄県連が衆院沖縄3区補選（来年4月21日投開票予定）の候補者選びを本格化させた。県連内では土砂投入を踏まえ「移設容認を前面に押し出すべきだ」との声が一気に強まり、移設に反対する政党や団体などでつくる「オール沖縄」との対決ムードが高まる。ただ、移設反対の公明党県本部からは不快感も漏れ、与党内調整は難航しそうだ。

補選は9月の知事選に立候補した玉城デニー知事の衆院



議員失職に伴うもので、移設先の名護市も選挙区に含まれる。自民県連は15日、沖縄市で候補者選考委員会を開き、27日までに決定すると申し合わせた。県連の公募には7人が名乗りを上げたが、菅義偉官房長官に近い島尻安伊子元沖縄北方担当相(53)の擁立を軸に検討を進める。仲田弘毅県議は選考委後、「基地を抱える地域の課題を解決できる候補者を選ぶ」と述べた。

自民県連は知事選で佐喜真淳前宜野湾市長を擁立したが、県民の反発や公明党県本部に配慮して、移設問題を事実上封印。代わりに経済振興を強く訴えたが、玉城氏に大敗した。県連所属の自民党国会議員は「いろいろな人から『辺野古から逃げている』と言われた」と振り返る。

県連内では「辺野古隠し」への不満が強まっており、照屋守之県連会長は9日、「(基地問題に)正面から向き合っ

て県民に説明していくが必要だ」と表明。別の県連幹部も「工事は進んでいく。辺野古から逃げる時ではない」と語る。

だが、こうした自民の動きを公明党県本部幹部は「県民の反発に火に油を注ぐ」と警告する。自公両党は来年2月の県民投票はともに静観の構えだが、補選への対応では足並みが乱れる可能性が出ている。

「オール沖縄」は14日、名護市辺野古の砂浜で集会を開くなど反発を強めている。補選で敗れば、移設阻止を掲げる玉城氏の打撃になるのは必至。共産党の赤嶺政賢衆院議員は「補選は来夏の参院選の前哨戦。議席を失えば知事選の成果も無に帰す」と強調。社民党の照屋寛徳衆院議員は「早期に戦う態勢を確立しないと勝てない」と述べ、補選の候補者選びを急ぐ考えを示した。【竹内望】

### 玉城知事「対抗手段講じる」 土砂投入の辺野古 視察 東京新聞 2018年12月15日 夕刊



沖縄県名護市辺野古の沿岸部で続行された、埋め立て用土砂の投入作業＝15日午前8時37分(ドローンから)

沖縄県の玉城(たまき)デニー知事は十五日、米軍普天間(ふてんま)飛行場(宜野湾(ぎのわん)市)の移設先、名護市辺野古(へのこ)の土砂投入現場を視察し「県として取り得る対抗手段はしっかり講じていく」と強調した。記者団に語った。視察に先立ち、現場で抗議活動が続ける反対派の市民らの集会に参加し「対話はこれからも継続するが、対抗すべき時は対抗する。勝つことは難しいかもしれないが、絶対に諦めない」とあいさつした。政府は十五日午前、辺野古沿岸部で土砂投入を続行した。

玉城氏は視察後、記者団に「現場に来ると、この異様さに胸をかきむしられるような気持ちにさせられる」と不快感を表明した。岩屋毅防衛相が、早ければ二〇二二年度とされる普天間飛行場の返還は困難との認識を示したことには「いつになったら普天間は返るのか。民主主義国家として、とても認められることではない」と反発した。

県は、埋め立てに使う土砂の採取の規制強化や県民投票のほか、海底に存在が指摘される軟弱地盤の改良工事を巡る知事権限の行使など、対抗策を検討する。

岩屋氏は移設に関し「日米同盟のためではない。日本国民のためだ」と述べ、推進する考えを改めて示した。同日、視察先の北海道千歳市で記者団に語った。

反対派の市民らは移設先となっている辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議集会を開催。百人以上が集まり「違法工事を中止せよ」と訴えた。玉城氏は十四日、辺野古で開かれた反対派の集会に「グスーヨー、マキティーナイビンランドー(皆さん、負けてはいけません)」とのメッセージを寄せていた。

### 防衛局15日も土砂投入 「怒りを持って反発する」 市民らカヌー25艇で抗議

琉球新報 2018年12月15日 10:44



14日からダンプで運んだ土砂を投入している埋め立て予定区域＝15日午前9時19分、名護市辺野古

【辺野古問題取材班】米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設で、沖縄防衛局は15日午前、14日に続いて埋め立て予定区域に土砂を投入した。午前11時には玉城デニー知事がゲート前を訪れる予定だ。

米軍キャンプ・シュワブの沿岸にあるK9護岸に接岸した台船から複数のダンプが次々と土砂を運び、埋め立て予定区域に投入した。1台のダンプが土砂を投入してから、次のダンプが土砂を投入するまでの時間は1、2分。新基地建設に反対する市民は抗議船2隻、カヌー25艇で抗議している。抗議のためフロート(浮具)を乗り越えたカヌーメンバーを海上保安庁が拘束する場面もあった。

抗議船の船長を務めた牧志浩さんは「民意を無視して政府は土砂投入した。政府は新基地建設に反対する県民を諦めさせるつもりだろうが、逆だ。民主主義をないがしろにする政府の姿勢に県民は怒りを持って反発する」と憤った。

一方、シュワブゲート前では午前10時時点で市民約160人が座り込んでいる。【琉球新報電子版】

## 「また立ち上がる」 翁長前知事妻・樹子さん ゲート前抗議へ

琉球新報 2018年12月15日 05:30



土砂投入を「民意をないがしろにしている。国の在り方そのものが問われている」と批判する翁長雄志前知事の妻、樹子さん＝14日午前11時17分ごろ、名護市辺野古のキャンプシュワブ第1ゲート前

「これだけ民意をないがしろにできてしまう国は一体何なのか。この国の在り方が問われている」。8月に死去した翁長雄志前知事の妻・樹子さん（63）は14日、名護市辺野古のキャンプ・シュワブゲート前を訪れ、土砂投入を強行した政府に憤りをあらわにした。

玉城デニー知事が基地建設阻止に向け動く中で、辺野古へ足を運ぶことにはためらいがあったという。「デニーさんが頑張っている時に、翁長の名前が重なるのは申し訳ない」と直前まで来るつもりはなかった。しかし、未来の子どものために抗議への参加を呼び掛けた新聞の投書を読み、迷った末に「こんな日に行かなければ、一生後悔する」と駆け付けた。

一人の県民として、政府への強い怒りと同時に、当事者意識の薄い本土への疑問を持つ。「翁長が県民の父であろうとしたように、政府は全国民の親でなくてはならない。こんなにも軽んじられる状況は一体何なのか」と怒り、「沖縄でだけ民意を軽んじることが許されるのはおかしいと思わないか」と報道陣に逆に質問する場面もあった。

「翁長はそばにいてくれていると思う。『(基地建設を)止める最後の最後は現場だ』と言っていた。県民の心をへし折ることはできない。チルダイ（虚脱）してもまた立ち上がる強さを、県民は持っている」ときっぱりと言い切った。

## 「翁長も一緒に」 妻・樹子さん、辺野古土砂投入に怒り

沖縄タイムス 2018年12月15日 05:00

14日午前11時ごろ、故翁長雄志前沖縄県知事の妻樹子さん（63）が米軍基地キャンプ・シュワブ（名護市）のゲート前に姿を表し、新基地建設反対集会に参加した。時に目に涙を浮かべ「これだけ民意をないがしろにできる国って何なんだろう」と怒りの言葉を口にした。



厳しい表情で「土砂投入」についてコメントする翁長樹子さん＝14日午前、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前

樹子さんは「沖縄県民は踏みつぶされていると思っているかもしれないが、負けるわけにはいかない。翁長も県民と一緒に立っている」と翁長知事の遺志とともに闘う決意を新たにされた。

土砂投入について「自然を人間がコントロールできると思ったら大間違い。今、土砂が投入されたとしても、必ず元の海に戻すことができる」と話した。沖縄の民意を無視する形で新基地建設が進むことに「これから先、どこでもこのようなことが起きてしまう」と警鐘を鳴らした。

## 沖縄知事、土砂投入の辺野古視察 「絶対に諦めない」と決意

2018/12/15 12:46 共同通信社



沖縄県名護市辺野古で開かれた、埋め立て用の土砂投入に抗議する集会で氣勢を上げる玉城デニー知事（右端）＝15日午前

沖縄県の玉城デニー知事は15日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の移設先、名護市辺野古の土砂投入現場を視察し「県として取り得る対抗手段はしっかり講じていく」と強調した。記者団に語った。視察に先立ち、現場で抗議活動を続ける反対派の市民らの集会に参加し「対話はこれからも継続するが、対抗すべき時は対抗する。勝つことは難しいかもしれないが、絶対に諦めない」とあいさつした。政府は15日午前、辺野古沿岸部で土砂投入を続行した。

玉城氏は視察後、記者団に「現場に来ると、この異様さに胸をかきむしられるような気持ちにさせられる」と不快感を表明した。

## 玉城知事「胸をかきむしられる」 辺野古の土砂投入視察

朝日新聞デジタル伊藤和行 2018年12月15日 16時19分



埋め立ての工事現場を視察する

玉城デニー知事＝2018年12月15日午前11時31分、沖縄県名護市辺野古、伊藤和行撮影



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設計画をめぐり、玉城デニー知事が15日、海への土砂投入が始まった名護市辺野古を視察した。双眼鏡で土砂投入の現場を見た玉城氏は、記者団に「胸をかきむしられる。違法工事であり、対抗措置をしっかりと講じていく」と述べた。

辺野古の米軍キャンプ・シュワブの南側では14日に続き、この日も土砂投入作業が行われた。玉城氏は辺野古漁港から、クレーン車などが並ぶ工事現場を見た。「異様だ。今の状況を回復させ、民主主義のあるべき姿を求めて取り組みたい」と語った。

岩屋毅防衛相が14日、普天間飛行場の2022年度の返還を「難しい」と述べたことについて「いつになったら返るのか。強い憤りを感じる」と批判した。

視察前には、シュワブのゲート前であった抗議集会に参加した。玉城氏が前日「共に抗議します！」と自身のSNSで参加を表明しており、約600人（主催者発表）が集まった。本部町から子ども2人と参加した平良（たいら）麻衣子さん（38）は「どうすれば解決するかわからないが、自分たちの意思を示していくことが大事と思う」と話した。（伊藤和行）

「絶対に諦めない 対抗手段講じる」沖縄県 玉城知事  
NHK2018年12月15日 16時45分



沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設に向けて埋め立て予定地への土砂の投入が始まった名護市辺野古を沖縄県の玉城知事が訪れ、工事を進める政府に対抗手段を講じていく考えを示しました。



沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に向けて、政府は14日から、埋め立て予定地へ土砂の投入を始め、2日目の15日も続けられました。移設計画に反対する沖縄県の玉城知事は現地を訪れ、埋め立て予定地近くのアメリカ軍基地、キャンプシュワブのゲート前で抗議活動を行っている人々を激励しました。

この中で玉城知事は、「決してひるんだり、恐れたり、くじけたりしない。勝つことは難しいかもしれないが絶対に諦めない」と述べ、政府に対抗していく姿勢を示しました。このあと、工事の様子が見える近くの漁港を訪れ、県の職員の説明を受けながら土砂が投入された場所などを確認していました。

玉城知事は記者団に対し、「現場に来ると胸をかきむしられるような気持ちにさせられる。土砂が入る前の状況に回復させるために県として取り得ることができる対抗手段を講じていきたい」と述べました。

### 「諦めない」若者も抗議の声 土砂投入一夜明け

毎日新聞 2018年12月15日 19時44分(最終更新 12月15日 20時40分)



辺野古沿岸部の埋め立て海域への土砂投入開始から一夜明け、米軍キャンプ・シュワブのゲート前に集まり抗議する人々＝沖縄県名護市で2018年12月15日午前8時21分、野田武撮影



辺野古沿岸部の埋め立て海域への土砂投入開始から一夜明

け、米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議する人たち＝沖縄県名護市で2018年12月15日午前8時26分、野田武撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画を巡り、政府による土砂投入開始から一夜明けた15日も、辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前には大勢の人たちが集まり、「諦めない」と抗議の声を上げた。移設阻止を掲げる玉城（たまき）デニー知事も駆けつけたこの日は土曜日だったため、平日は参加しにくい若者たちの姿も多く見られた。

「許せないものは許せない。そのために行動しよう、声を上げよう、みんなに伝えよう」。午前11時、ゲート前でマイクを握った玉城知事は、スーツ姿で臨んだ14日の緊急記者会見と打って変わってカジュアルなパーカ姿で登場。服装については「特に意味はない」と記者団に語ったが、若者や子連れの家族も多くいた輪に違和感なく入った。

玉城知事が辺野古を訪れるという情報はツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス）で流れた。大学生の落合絢（ひろ）さん（23）は、玉城知事に「一緒に頑張ることを伝えたい」との思いで中城（なかぐすく）村から参加。香川県出身で、沖縄に住み始めて高齢者らの話を聞く中で沖縄戦の傷の深さをより強く実感した。「政府は民主主義をどう考えているのか。沖縄に基地を押しつけるのはおかしい」

同級生らと辺野古を訪れた南風原（はえばる）町の大学生、仲程（なかほど）未希さん（19）は「移設に賛成、反対の両方の意見があっいい。でも『基地は沖縄にあるのが当たり前だからどっちでもいい』という無関心は問題だ。埋め立ての問題を肌で感じたいから、行ける時は辺野古に来たい」と話した。

14日に続き、この日も辺野古沿岸部では土砂投入の作業が進められた。抗議活動を長年率いる沖縄平和運動センターの山城博治議長（66）は「土砂投入で心が折れそうになったが、若い人たちに励まされた。我々も運動を若い世代につなぐ努力を始める時がきている」と語った。【佐野格、比嘉洋】

### 「諦めず対抗手段」 知事 投入続く辺野古視察

琉球新報 2018年12月16日 05:00



記者団の取材に答える玉城デニー知事＝15日、名護市辺野古の辺野古漁港

【辺野古問題取材班】米軍普天間飛行場の移設に伴う名

護市辺野古の新基地建設に向け、沖縄防衛局は15日、前日に続き、米軍キャンプ・シュワブがある辺野古崎の埋め立て予定区域に土砂を投入した。14日に船で運び入れた土砂は使い切ったため、投入はいったん中断した。玉城デニー知事は辺野古の土砂投入現場を視察し「県として取り得る対抗手段はしっかり講じていく」と記者団に語った。シュワブゲート前での抗議集会にも参加し「国の暴挙に対し、本当の民主主義を求めていく。対話は継続するが、対抗すべき時は対抗する。絶対に諦めない」と強調した。

シュワブに接続するK9護岸では、複数のダンプが台船に積まれた土砂を運び出し、埋め立て予定区域に次々投入した。最初に積まれた土砂が台船からなくなると、台船は護岸を離れ、近くに停泊中の運搬船1隻に積まれた土砂を積み込んだ。土砂がなくなったため、この日の作業を中止。政府は土砂の到着を待って投入を再開するとみられ、週明け以降、作業を加速させる方針だ。



午前中で運搬船2隻分の土砂が投入された米軍キャンプ・シュワブ沿岸部＝15日午後、名護市辺野古（小型無人機で撮影）

この日、投入された土砂は、名護市安和の琉球セメントの栈橋から搬出されたもの。沖縄防衛局は赤土等流出防止条例に基づいた必要な手続を経ないまま、この土砂を搬出し、県から指導を受けている。

玉城知事は抗議集会で集まった市民らを前に「耐え難い日を迎えねばならなかった。しかし、われわれが打つべき手は必ずある。できることは必ず全力で取り組んでいく。われわれの闘いは止まらない」と訴えた。

集会後、玉城知事は辺野古漁港の岸壁から土砂投入の作業を確認した。記者団の取材に「現場に来ると、この異様に胸をかきむしられるような気持ちにさせられる」と不快感を示した。岩屋毅防衛相が、早ければ2022年度とされる普天間飛行場の返還は困難との認識を示したことについては「いつになったら普天間は返るのか。民主主義国家として、とても認められることではない」と反発した。

この日、シュワブゲートから資材搬入はなかった。知事一問一答

名護市辺野古の新基地建設現場を視察した玉城デニー知事と記者団のやりとりは次の通り。

―現場を視察してどう感じるか。拝所（うがんじゅ）で何を願ったのか。

「胸をかきむしられる。われわれはたじろぐことも退く

こともない。原状回復させるまで、政府に対して民主主義国家としてあるべき姿を求める。県民と共に取り組んでいく気持ちを新たに。『平和な未来をつくろうとする県民に力を与えてください』と祈った

—あいつで『対話する気持ちは継続するが、対抗すべき時には対抗していく』という発言があったが、決めた方針はあるのか。

『辺野古が唯一』というデッドロックに乗り上げた計画ではなく、専門家も交えて対話で解決したいと言いつづけている。土砂投入は違法な行為だ。われわれは法に則して一連の取るべき手だてを講じている。県として取り得る対抗手段はしっかり講じていく

—岩屋毅防衛相が早ければ2022年度とされる普天間飛行場返還について困難だと発言したが、土砂投入当日のこの発言をどう考えるか。

「始める前は都合のいいことを言い、始まったら塗りつぶすのが政府の手法だ。辺野古区の住民に個別補償ができるかもしれないと言って後になってできないと翻したのと同じだ。政府は国民をだまし続けている。普天間飛行場の危険性除去が第一のはずだ。政府は『辺野古が唯一』という言い訳を立て違法なことをしている。政府の失態をさらした発言だ。憤りを感じる」

## 「民主主義の破壊だ」 海域に次々と... 辺野古2日連続で土砂投入

沖縄タイムス 2018年12月16日 05:00

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、沖縄防衛局は15日午前、14日に続き護岸で囲った埋め立て区域に土砂を投入する作業を進めた。新基地建設に反対する市民らは工事現場周辺でカヌー25艇と抗議船2隻を出し、「民意を無視して強引に進めるのは民主主義の破壊だ」と工事の中止を訴えた。



「K9」護岸に接岸した台船から土砂を積んだダンプカーが、投入区域に到着し次々と埋め立て用の土砂を投入。市民らはカヌーで駆け付け抗議した＝15日午前9時14分、名護市辺野古

土砂は米軍キャンプ・シュワブ沿岸の「K9」護岸に接岸している台船から、ダンプトラックが陸揚げした。ダンプは基地内を通り「N3」など3護岸で囲われた海域に次々と土砂を投げ入れた。投入作業は午前で終了した。14日現在で台船にあった土砂は全て投入したと見られる。

午後には「K9」護岸付近で、台船が新たに土砂を積ん

だ運搬船1隻に接続され、約2時間にわたり土砂を台船に載せ替える作業を実施した。

市民らは、棧橋敷地内に置かれていた土砂を使ったとして「県赤土等流出防止条例に違反している」と批判した。

## 辺野古移設 専門家は「正当性欠く」工事再開、政府のなぜ

毎日新聞 2018年11月4日 18時06分(最終更新 11月4日 18時17分)



衆院予算委員会で答弁する安倍晋三首相＝国会内で2日、川田雅浩撮影

防衛省が米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設工事を再開した。沖縄防衛局長が石井啓一国土交通相に申し立てた沖縄県の埋め立て承認撤回処分の執行停止が認められたためだ。それでも「国民の権利救済」を目的とした行政不服審査法を使い、政府機関同士の審査で沖縄県の決定を覆す不自然さは否めない。国交相による執行停止は2015年以来だが、専門家は「今回は3年前よりもさらに正当性に欠ける」と語る。なぜなのだろうか。

【佐藤丈一／統合デジタル取材センター】  
残り 2382 文字 (全文 2611 文字)

## 「沖縄はゴミ箱ですか」知事選で投じた有権者のむなしさ 朝日新聞デジタル伊藤宏樹 成沢解語 2018年12月15日 08時10分



「辺野古に土砂を入れるなんて、自分の体を刺されるような感じ」と話す平良亜紗美さん＝那覇市、伊藤宏樹撮影



「建男が生きていたら何と云うだろう」。岸本元市長が時折飲んだというブランデーを手に話す島袋茂照さん＝2018年12月12日、沖縄県名護市、



元名護市長の比嘉鉄也さん＝沖縄県名護市

沖縄の負担軽減のために始まった米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設計画。20年以上の迷走の末にたどり着いたのは、名護市辺野古の海の埋め立て強行だった。

14日午前11時半すぎ、沖縄県北谷（ちゃたん）町の平良（たいら）亜紗美さん（32）はスマートフォンのニュースで、辺野古沿岸に土砂が投入されたと知った。

なりふり構わず辺野古移設を進める政権に恐ろしさを感じた。9月の知事選では一票を投じた「辺野古反対」の玉城デニー氏が大勝した。それなのに……。むなしさがこみ上げた。

「日本の発展や防衛のため、沖縄はずっと『ゴミ箱』なんじゃないか」

辺野古がある東海岸から離れた名護市の市街地で、高校卒業まで育った。辺野古に基地があることや、そこが普天間の移設候補であることは知らなかった。

2004年、宜野湾市の沖縄国際大に進学。その夏、名護に帰省中に、大学構内に米軍ヘリが墜落した。テレビで黒い煙の上がる現場の映像を見て、「これが自分の学校か」と信じられなかった。

事故を機に、大学で基地問題を研究する先生に出会った。大学の近くにある米国人と沖縄の人の間に生まれた子「アメリカン」のための学校でボランティアもした。日本語が十分に使えない、見た目でいじめられる――。米軍が70年以上も駐留し、社会とかかわり合ってきた沖縄の複雑な現実を目の当たりにした。

県民の4人に1人が亡くなった沖縄戦。日本が主権を回復する一方で、米軍統治下に切り離された戦後の沖縄。「沖縄はいつも日本に利用され、都合の悪いものは押しつけられてきた」。その延長に、基地問題があり、いまの辺野古の問題があると思う。

新卒で勤めた旅行会社を辞めて独立し、6年目。県の事業で海外に派遣される高校生のための研修プログラムを作成したり、沖縄を訪れる修学旅行生に添乗したりする仕事に携わる。

修学旅行のバスで、ふるさとの名護市を通ることも多い。今月上旬も、バスの中から反対運動の人たちを見た奈良県の高校の引率教員に「沖縄の人は米軍基地に賛成ですか、反対ですか」と聞かれた。

ひとくくりに語るこのできない沖縄の入り組んだ事情を、県外の人に伝えるのは容易ではない。「140万県民の

総意はうまく言えませんが、私は反対です」と答えた。

工事は今後も進むだろう。でも、関心を失ってしまえば、沖縄の声は小さくなるし、本土にも届かなくなる気がする。だから、自分自身の考えは、しっかり持ち続けていきたい。

「我がこととして考えてくれる人が広がるよう、地道に伝えていきたい」。いつか変化が起きると信じている。

集落の現状「悲しい」 辺野古出身の島袋茂照さん

「辺野古に基地被害が孫の代まで残る。この苦しみがいつまで続くのか」。名護市辺野古出身で今も暮らす医療法人理事長の島袋茂照さん（72）は嘆いた。

1998年から2期8年名護市長を務めた故・岸本建男（たてお）さんの選挙を、陣営の事務局長として支えた。99年、岸本さんは移設を容認するにあたり、「15年の使用期限」「軍民共用」など厳しい7条件を付けた。

だが、生活環境への影響が少ない辺野古の沖合2キロに造るはずだった案は、日米交渉の中で沿岸を埋め立てる計画に変わり、協議は行き詰まった。

当時、島袋さんの職場を、時々岸本さんが訪ねてきた。湯のみに酒を注いで一気に飲み干しては、悩みを吐き出した。「市民と政府の板挟みでつらそうだった。建男の表情が忘れられない」。岸本さんは06年2月に引退。3月、肝細胞がんで、62歳で亡くなった。

その2カ月後、政府は、「軍民共用」などの条件に触れた99年の閣議決定を廃止した。このころから、島袋さんは「移設反対」の思いを強くした。

一方で、辺野古では次第に、表立って「反対」を口にする人は少なくなった。補償を求めることや、工事関連の仕事を請け負うことなど、「カネ」の話題が増えた。市議会議長を務めた弟とも意見が割れ、今も兄弟で基地の話はしない。

島袋さんは昨年3月、4年間務めた地区の役員を辞めた。ふるさとの集落に、腹を割って話し合える空気はなくなったと思ったからだ。「あきらめるつもりはないが、あらがう方法もない。それが悲しい」（伊藤宏樹）

「危ない普天間、どうするんですか」元名護市長・比嘉鉄也さん

名護市の比嘉鉄也さん（91）は、政府が土砂投入に踏み切ったことを「長かった」と受け止めた。「22年、行ったり来たり。歴代の内閣がしっかりやっていたら、もう終わっていたんじゃないか」

米軍普天間飛行場の移設先に辺野古が浮上したときの名護市長。賛否を問う97年の市民投票では反対が過半数を占めたが、逆に移設の受け入れを表明し、辞任した。「投票結果に従って『反対』したら、この問題は長引く」。熟慮の上の決断だったと振り返る。

「反対」の世論はなお根強く、計画をめぐって市民間の対立は続く。期待した地域振興もふるわず、沖縄の人口が増え続ける中、沖縄本島北部の人口は20年以上経っても

ほぼ横ばいだ。

でも、今も自らの判断は間違っていないと考えている。「『辺野古には基地を造らせない』という人もいる。じゃあ、危ない普天間の基地は、どうするんですか」(成沢解語)

### 土砂投入、抗議続く＝写真家石川文洋さんの姿もー沖縄 時事通信 2018年12月14日18時14分



抗議活動が続く名護市辺野古を訪れた、報道カメラマンの石川文洋さん＝14日午後、沖縄県名護市

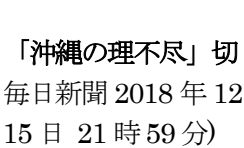
米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設で、埋め立て海域への土砂投入を受けた反対派の抗議活動は14日午後も続いた。辺野古の浜では市民らが集会を開催。参加者の中には、ベトナム戦争などを取材してきた報道カメラマン石川文洋さん（80）の姿もあった。

集会には、主催者発表で約千人が参加。稲嶺進前名護市長は「きょう沖縄に『屈辱の日』が一つ加わった。まだ後戻りできない状況ではない」と呼び掛け。「民主主義国家としてあるまじき行為を繰り返す国に対し、共に声を上げ行動してほしい」との玉城デニー知事のメッセージが代読されると、会場からは大きな拍手が湧いた。

石川さんは那覇市出身で、これまで米軍キャンプ・シュワブのゲート前の抗議活動取材し、写真展などで発表してきた。今回も反対派の座り込みや、土砂投入の瞬間にカメラを向けたという。石川さんは「(市民が) あきらめないのは心強い。あきらめたら終わりですからね」と話した。

ベトナム戦争では嘉手納基地が出撃拠点となるなど、後方基地としての沖縄の負担は苛烈を極めた。「沖縄の民意は歴史からきている。ベトナム戦争を見ているだけに、新しい基地で犠牲者を生んではいけない」。石川さんはこう力を込めた。

「沖縄の理不尽」切り取る 報道写真家・石川文洋さん  
毎日新聞 2018年12月15日21時58分(最終更新 12月15日21時59分)



海で抗議活動を繰り返すカヌー隊にカメラを向ける石川文洋さん＝沖縄県名護市辺野古で2018年12月14日午後2時3分、比嘉洋撮影

沖縄の民意を顧みずに辺野古の海に土砂を投入した安倍政権に対し、市民の怒りが渦巻いた埋め立て作業現場近くの米軍キャンプ・シュワブのゲート前には、那覇市出身でベトナム戦争の従軍取材で知られる報道写真家の石川文洋さん（80）＝長野県＝も姿を見せた。レンズを向けたのは「基地のない島」を願う沖縄の思いが打ち砕かれる理不尽さだ。

7月から徒歩で日本列島を北から南へ縦断している石川さんは、体調を崩した兄を見舞うため、旅の途中で沖縄入り。土砂投入の情報をつかむとすぐに辺野古に駆けつけた。ゲート前の国道に1キロ以上続く工事車両の列や埋め立て海域を囲み終わった護岸は1年ほど前に訪れた時はなく、工事の進展を肌で感じた。13、14日、ゲート前の座り込みや海上のカヌー隊による抗議活動、荷台を傾けて茶色の土砂を投入するダンプカーなど約2000枚を撮影した。

1960～70年代、米軍統治下の沖縄から派遣された米軍がベトナムで攻撃し、多くの犠牲者を生んだ姿をカメラで切り取ってきた。73年前の沖縄戦で県民の4人に1人が命を落とした故郷の島が被害者と加害者の両面を併せ持った歴史に胸を痛め続けてきた。それだけに「多くの県民は基地が平和につながるとは思っていない。辺野古で起きていることは基地機能の強化だ」と語気を強める。

14日、土砂投入が始まった埋め立て海域に臨む浜辺に集まった同じウチナーンチュ（沖縄の人）たちが「闘い続ける」と誓い合う姿をカメラに収めた。「基地がない島を夢見て闘い続ける沖縄を、生きている限り自分の目で見て伝えていく」【比嘉洋】

辺野古・大浦湾 5806種の生物確認のうち262種が絶滅危惧種  
毎日新聞 2018年12月14日12時32分(最終更新 12月14日23時06分)

ハマクマノミとミツボシクロズメダイが100匹以上も群れる「クマノミ城」＝沖縄県名護市沖で2012年4月27日、三村政司撮影

政府が米軍普天間飛行場の移設のために約160ヘクタールを埋め立てようとしている名護市辺野古・大浦湾の海には、多種多様なサンゴや国の天然記念物のジュゴンなどの絶滅危惧種を含む多様な生物が生息している。土砂の投入によって豊かな自然環境が失われ、生態系に大きな影響を



毎日新聞 2018年12月15日21時58分(最終更新 12月15日21時59分)

及ぼすことが懸念される。

沖縄本島東海岸にある辺野古沿岸部は、これまで周囲で大規模な開発もなく、手つかずの自然が残る。現場海域での防衛省の調査では、5806種の生物が確認され、うち262種が絶滅危惧種だった。新種の発見も相次いでいる。県によると、生物の種類は世界自然遺産に登録された屋久島(鹿児島県、約4600種)や小笠原諸島(東京都、約4400種)よりも多い。

既に護岸で囲われた米軍キャンプ・シュワブ南側の海域は水深の浅いリーフ(サンゴ礁)で、沖縄本島周辺で最大規模の海草藻場が広がる。ジュゴンやウミガメの貴重な餌場となるほか、海草の間や砂地に多くの生物が暮らしている。シュワブ東側の大浦湾にはハマサンゴやアオサンゴなどの群集が複数ある。

防衛省は埋め立て予定海域内にある希少なサンゴを他の地域に移植する計画だが、海域外のサンゴの生息にも潮流の変化などが影響を及ぼす可能性がある。海域での調査を続ける日本自然保護協会の安部真理子さん(52)は「護岸工事だけでも生物には十分な脅威だが、回収が困難な土砂の投入は自然環境に不可逆的な影響をもたらす。埋め立てが進めば地形が一変し、生態系が損なわれ、辺野古の海は多様性を失う」と警鐘を鳴らす。【遠藤孝康、宮城裕也】

「ヤマトに踏みにじられた記憶」のモニュメント 新基地  
朝日新聞デジタル 2018年12月15日 00時52分



江上能義・琉球大名譽教授



大久保奈弥・東京経済大准教授



鎌尾彰司・日大准教授

「壊される海、民主主義崩壊と重なる」江上能義・琉球大名譽教授(政治学)

沖縄は太平洋戦争で、本土決戦準備の時間稼ぎのために大きな犠牲を払い、戦後も70年以上、重い基地負担を背負わされてきた。「普天間飛行場を返してもらおうために、なぜ新たな基地を差し出さなければならぬのか」。沖縄側が発しているのは、極めて穏当な、当たり前の問いにすぎない。

しかし安倍政権は、台風で壊れた港湾の代わりに民間の栈橋を使って土砂を搬出するなど強行策を次々と繰り出し、なりふり構わず土砂投入にこぎつけた。一地域の民意が丸ごと切り捨てられるというのは、民主主義国家として異常だ。こんな形で「新基地」を完成させたとしても、沖縄の人にとって「ヤマト(本土)にまた踏みにじられた記憶」を象徴するモニュメントになるだけだろう。

日本の安全保障のために、米海兵隊の沖縄駐留が必要という意見は確かにある。辺野古への移設計画は国際的な約束であり、見直しは難しいのかもしれない。

しかし、たとえそうだとしても、少数意見を尊重し、議論をあきらめずに解決策を探るのが本来の民主主義だ。辺野古の海が壊されていく光景は、この国の民主主義が崩壊していく姿とまさに重なって見える。

◇

えがみ・たかよし 専門は比較政治学と開発行政学。77年から25年間、琉球大で教授などを務めた。03～17年は早大大学院教授。

■『『無策』の埋め立て、暴挙に…  
残り：972文字／全文：1561文字

「土砂じゃなく愛で埋めて」 強行の海に揺れる風船

沖縄タイムス 2018年12月15日 10:46

初めての土砂投入作業が終わり、夕暮れの米軍キャンプ・シュワブ沖(沖縄県名護市)。工事車両は小型トラック数台が動いているだけで抗議船やカヌーはいない。静かな海上に、色とりどりの風船がたなびいていた。武力やいがみ合いではなく、友好の象徴として若者たちが用意した監視船や工事作業員へのアピールだ。「求めているのは平和と対話。土砂じゃなく、愛で海を埋められたら」と願う。



対話の象徴として持参したカラフルな風船を船上からたなびかせる若者たち=14日、名護市辺野古・米軍キャンプ・シュワブ沖

集まったのは、知事選で玉城デニー知事を支援した若者たち。土砂投入が迫った数日前、選挙を通してつながった若者のLINEグループで、誰からともなく「現場行く?」と確認し合った。

大学院生の西永怜央菜さん(23)は「自然が積み上げた歴史が壊れるかと思うと無力感がある。土砂が投入された海を自分の目で見ること、人に伝えられることがあるのでは」と足を運んだ。



東新川藤佳さん(31)は「政府がこれほど工事を急ぐことが理解できない」と嘆く。「サンゴは台風などで傷ついても再生する。サンゴのように、傷ついても光を目指して強く成長したい」と語った。

## 工期・経費なお不透明＝「13年、2.6兆円」と県試算 －普天間移設

時事通信 2018年12月14日 18時27分



土砂投入が始まった辺野古の埋め立て海域(手前)。奥は米軍キャンプ・シュワブ＝14日午前、沖縄県名護市(時事通信ヘリより)

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設をめぐる、政府は埋め立ての土砂投入を本格化させ、早期の普天間閉鎖につなげたい考えだ。ただ、工期や経費は不透明なまま。県側は移設完了に13年、2兆5500億円かかると試算、「非現実的」として断念するよう求めている。

現行計画は米海兵隊キャンプ・シュワブ周辺海域を埋め立て、V字形に滑走路を2本設置する内容。土砂の投入量は東京ドーム約17個分に相当する2062万立方メートルに上る。

日米両政府は2013年4月、埋め立て工事に5年、器材・施設調整に1年半などの行程表をまとめ、普天間返還を「22年度またはその後」とすることで合意。費用については、日本政府は埋め立てのほか滑走路整備や環境影響評価を含め「3500億円以上」と説明してきた。

県はこれに対し、埋め立て海域で軟弱地盤の存在が判明したことを挙げ、(1)地盤改良に5年(2)埋め立てに5年(3)滑走路など施設整備に3年―がかかると主張。玉城デニー知事は先月下旬に安倍晋三首相と会った際、「辺野古が唯一という固定観念から脱却すべきだ」と訴えた。

国はこれまで928億円を支出し、護岸6本を完成させ、1本を造成中。だが、14年に県に提出した資金計画書では78億円で、既に12倍近くに膨れ上がった計算だ。県はこの点を捉え、地盤改良や県外からの土砂搬入費などを合わせれば全体で2兆5500億円程度になると分析している。

岩屋毅防衛相は14日、22年度返還の目標について「なかなか難しいところに来ている」と述べ、事実上断念を表明した。防衛省は地質調査がまだ終わっていないことを理

由に軟弱地盤の存在を認めていないが、曖昧な計画は徐々にほころびが出ている。

## 既成事実化 急ぐ国 辺野古きょう土砂投入 政府、対話の姿勢演出 長期戦見据える知事「後戻りできないと思わない」

琉球新報 2018年12月14日 09:40



岩屋毅防衛相(左)に辺野古埋め立て中止を求める玉城デニー知事＝13日午後2時27分、防衛省

米軍普天間飛行場の移設に伴う新基地建設に向け、政府は14日、辺野古の海へ埋め立て用土砂を投入する方針だ。予定日に先立ち県は玉城デニー知事による直談判や担当課による行政指導など対応策を打ち出した。玉城知事が工事を止めた上で対話するよう求める中で、土砂投入を強行する政府の姿勢が際立つこととなった。早期の投入で埋め立てが本格化していることを印象付けたい政府に対し、県は土砂投入後を見据えた新基地建設の阻止に取り組む。

名護市辺野古の新基地建設を巡り埋め立て土砂の投入を翌日に控えた13日、玉城知事は改めて菅義偉官房長官らに作業中止を訴えた。菅氏らは前日の県による工事中止を求める行政指導を意に介さず、土砂投入方針は変わらないことを伝えた。対話の姿勢を演出しつつ、強気の姿勢で既成事実化を進める政府に対し、県は土砂投入により「後戻りできない状況になるとは決して思っていない」(玉城知事)と、建設阻止へ長期戦を見据える。

### ■“誠意”を強調

政府は9月の知事選で当選した玉城デニー知事の求めに応じる形で、辺野古移設について議論する場を設けてきた。安倍晋三首相が玉城知事と2度会談したのをはじめ、菅官房長官や岩屋毅防衛相ら閣僚も複数回会談を重ね、対話の姿勢を演出してきた。政府筋は「短期間で政府首脳とこれほど会談できる知事はいない」と語り、“誠意”を尽くしてきたと強調する。

ただ、この間政府の「辺野古が唯一の解決策」とする立場が揺らぐことはなく、対話の姿勢は結論ありきに終始した。13日に菅官房長官や岩屋防衛相が会談に応じた背景について政府関係者は「会談の申し出を拒否するより、対話の窓を開きながら移設を進める方が得策だ」と解説する。

岩屋氏は13日の玉城知事との3度目の会談後、記者団に「丁寧なプロセスを踏ませていただいた」と土砂投入に着手する正当性を強調した。

土砂投入を翌日に控えた13日、辺野古の海上で作業の様子はほとんど確認されず、静けさが漂った。関係者は「準

備はもう整っている」と語った。

#### ■風潮に疑念

13日、県から派遣された職員が辺野古の海を見つめる姿があった。玉城知事が岩屋防衛相や菅官房長官と会談を終えると、県庁では土砂投入後に備え、職員が14日の会議の日程調整や知事の会見準備に追われた。

県幹部の一人は「(土砂投入を)するのだろう。政府が簡単に方針を変えることはない」と受け止める。「それでも対話を重視すると言っている以上、粘り強く訴えていくし、県としても言うべき事は言わなければならない」と述べた。

県には、14日の土砂投入により「原状回復が困難になる」などに見なされる風潮に対する疑念が強くある。「後戻りできない状況になるとは決して思っていない」という玉城知事の言葉通り、県は“投入後”を見据え、新基地建設を阻止する方法を模索する。

別の県幹部は「実際に護岸への台船接岸や土砂投入が確認されたら、違反事項として証拠を押さえ、さらに対応する」と語る。幹部らは朝から県庁で会議を開き、さらなる行政指導など対抗策を検討する。

(當山幸都、明真南斗)

#### 辺野古移設「官製デマ」 政府に深まる玉城県政への不信 産経新聞 2018.12.14 12:53



沖縄県名護市辺野古

の沿岸部に次々と投入される埋め立て用土砂＝14日午前11時49分

政府が米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾=ぎのわん=市)の移設先である名護市辺野古で土砂投入に着手したことで、移設に反対する沖縄県との対立は一層深まるとみられる。政府は普天間飛行場の危険性除去のためには辺野古移設が必要とする考えに理解を求め、玉城(たまき)デニー知事も政府との対話を重視する姿勢は崩していない。ただ、玉城氏は政府と激しく対立した翁長雄志(おなが・たけし)前知事時代の執行部をそのまま引き継いでおり、政府は県による情報操作に神経をとがらせている。

県は辺野古移設に反対する根拠として、最近になって「完成までの費用は最大2兆5500億円かかる」(玉城氏)と繰り返している。計画の約2400億円から10倍以上にふくれあがることになり、財政負担を考えても辺野古移設は現実的ではないというわけだ。

県はこれまで、2本の滑走路や強襲揚陸艦が接岸可能な施設は普天間飛行場にはない機能として「新基地建設による負担増」に反対してきた。だが、2本の滑走路は騒音軽

減を求めた名護市の要望を受け、計画を変更した。接岸施設に関しても、防衛省幹部は「滑走路に隣接しており、強襲揚陸艦の母港としては成り立たない」と説明する。

こうした中で急浮上した「2兆5500億円」は、辺野古移設反対の立場を補強するために県が行った試算だ。11月に行われた杉田和博官房副長官と謝花(じゃはな)喜一郎副知事の集中協議でも示された。

県によると、辺野古で建設予定の護岸22カ所のうち着手済みの護岸は7カ所。計画では7カ所分で約78億円だが、すでに約928億円を支出しているため総事業費は約12倍になると算出した。とはいえ、928億円には警備費なども含まれており、防衛省幹部は「どう考えてもそんな数字にはならない」と首をひねる。

県の担当者は「928億円の内訳が分からないので単純計算した。あくまで議論をスタートさせる材料だ」と語る。だが、数字は「反辺野古」を支える材料として独り歩きしており、自民党は県議会で「官製デマだ」と批判を強める。連日のように責め立てられた謝花氏は今月7日の県議会でこう答弁した。

「杉田副長官も黙ってうなずいておられた」

政権幹部が県の試算にお墨付きを与えたかのような説明で、これを聞いた政府高官は「悪質だ。信が置けない男だ」と吐き捨てた。県執行部は池田竹州(たけくに)知事公室長が10月、名護市が基本合意書に署名した現行計画について「地元の合意などは取られたものではない」と発言しており、政府の不信は根強い。

玉城氏は13日、首相官邸で記者団に「とにかく工事を止めて協議をしてくれ」と述べ、今後も政府と対話を継続する意思を表明したが、政府とすれば対話が情報戦に利用される恐れを捨てきれない。13日の菅義偉(すが・よしひで)官房長官と玉城氏の会談が約15分と短時間で終わったのは、対話の基礎となる信頼関係が急速に損なわれつつあることを示した。(杉本康士、永原慎吾)

#### 想像してほしい、自分の街だったら 沖縄で起きたこと 朝日新聞デジタル那覇総局長・伊東聖 2018年12月14日 22時00分



米軍キャ

ンプ・シュワブの埋め立て海域に土砂が投入された＝2018年12月14日午後3時31分、沖縄県名護市、小宮路勝撮影

想像してみてください。自分の街に政府が巨大な施設を造ろうとしている。賛否ある中で知事選があり、反対を訴えた候補が大差で当選する。だが「皆さんに寄り添う」と言

う首相が率いる政府は、1カ月後には工事を始め、後戻りが難しくなる段階に踏み込む。

米軍普天間飛行場の辺野古移設をめぐり、沖縄で現実には起きていることだ。

沖縄県知事選では4年前に翁長雄志（たけし）氏が、9月には玉城デニー氏が大勝。ともに辺野古移設反対を掲げており、「辺野古ノー」の明確な民意が示された。

だが安倍政権は、行政機関から…  
残り：527文字／全文：757文字

## 沖縄県民に憤りと葛藤 土砂投入、辺野古工事本格化

日経新聞 2018/12/14 10:12 (2018/12/14 11:59 更新)

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設を巡り、政府が14日午前、辺野古沖への土砂投入を始めた。普天間基地返還が決まった1996年以降で初の工程で、元の海に戻すのは難しくなる。現場では早朝から抗議する人々の怒号が飛び交った。一方で「普天間の危険除去のためには仕方ない」との声も。憤りと葛藤の中、沖縄は緊迫の一日を迎えた。



キャンプ・シュワブのゲート前に座り込んで抗議する人たち（14日午前、沖縄県名護市）

辺野古の埋め立て現場へと続く米軍キャンプ・シュワブ前では、14日早朝から移設に反対する人々がバスや自家用車で続々と駆けつけ、午前9時すぎには数百人規模にふくれあがった。

雲間から差し込む陽光が海を照らし、時折強めの風が吹く中、集まった人々はプラカードなどを手に口々に抗議。午前9時半ごろにはゲート前で一斉に立ち上がり、土砂が投入される海の方に向かって拳を突き上げ「新基地建設反対」などと声を張り上げた。

午前11時ごろに土砂投入の一報が入ると「埋め立てをやめろ」「我々は許さない」などと怒りの声は最高潮に。座り込みの抗議が続き、ゲート付近の道路は一時、基地内に入れない車両で渋滞が発生した。

午前6時ごろにゲート前に駆けつけた名護市の主婦（66）は「県民が何度も移設反対の民意を示してきたのに、国は一顧だにしない」と憤る。「はらわたが煮えくりかえって昨日は寝れなかった。戦争につながる基地を造らせてはいけない」と訴えた。

激しい抗議活動の一方で、辺野古や宜野湾の住民の間には複雑な思いも交錯する。「心の中では移設に反対だ」。名護市辺野古区に住む自営業男性（59）はぼつりとつぶやいた。ヘリコプターが自宅上空を飛ぶのは日常茶飯事で、今や慣

れっこになったとはいえ「移設されれば騒音がいつそうひどくなるのでは」との心配は消えない。辺野古区は地域振興などの条件付きで移設容認の立場をとるものの「国は十分な補償を示していない。それなら受け入れられない」と語気を強めた。

普天間基地近くに住み、地元自治会で老人会会長を務める山城賢栄さん（80）は「ここまで工事が進んでしまったからには早く終わらせて、普天間を撤去してほしい」と複雑な心中を吐露する。

このまま基地が固定化されれば「いつか市街地に米軍機が墜落して大事故になる」と懸念する。一方で「私たちが背負っている苦しみを辺野古の人たちにさせたくはない」とも。「葛藤で泣きたいくらいだ」と声を落とした。

宜野湾市の大学4年の男子学生（22）は移設に理解を示しつつも「反対意見があるのに強引に進める国のやり方はどうかと思う。反感を買って余計もめるのでは」と首をかしげる。強硬姿勢を崩さない政府に「難しい問題だからこそ、誠意をもって丁寧に説明する必要がある」と求めた。

しんぶん赤旗 2018年12月14日(金)

## 沖縄連帯 土砂投入中止を「総がかり」など 防衛省前で抗議



（写真）防衛省の正門前で辺野古の海への土砂投入は許さないと抗議する人たち。左手前は小池晃書記局長＝13日、東京都新宿区

沖縄・辺野古への米軍新基地建設をめぐって、安倍政権が民意を無視して強引に土砂投入をねらう緊迫した事態のもとで13日夜、防衛省前で緊急抗議が行われました。350人（主催者発表）の参加者が「土砂の投入いますぐ中止」「民意を尊重」と声をあげました。各野党の代表も参加し、「市民と野党が力を合わせ、新基地建設を止めよう」と訴えました。

抗議には、野党から日本共産党の小池晃書記局長、立憲民主党の近藤昭一副代表、社民党の福島瑞穂副党首が参加しました。

小池氏は、民意を無視して辺野古への土砂を投入しようとする政府のやり方は、「無法につぐ違法です。とにかく土砂を投入して既成事実をつくり、諦めさせようとしていません。絶対に許されないと強調。

こうした安倍政権に対抗するためには、「私たちが忘れない、諦めない、共闘することです」と訴え。米軍新基地建設の問題でも、野党は一致してたたかっていることを紹介し、「市民と野党が力を合わせれば、必ず止めることができます。共に頑張りましょう」と呼びかけました。

近藤氏は、民意を無視する安倍政権を厳しく批判。「こうした政府は倒さなければいけません。そのために野党は共闘していきます」とのべました。

福島氏は、政府が強引な姿勢をすればするほど、「反対する声や行動は、かえって広がっていきます」と指摘し、力を合わせて政治を変えようとのべました。

緊急抗議は、「総がかり行動実行委員会」と「止めよう！ 辺野古埋立て」国会包囲実行委員会が呼びかけました。

しんぶん赤旗 2018年12月14日(金)

## 辺野古埋め立て中止求める 強行姿勢の防衛局批判 オール沖縄会議と県選出国會議員



(写真)埋め立て工事の中止を求める要請書の中嶋局長(左)に手渡す稲嶺共同代表=13日、沖縄県嘉手納町

安倍政権が14日にも強行しようとしている沖縄県名護市辺野古米軍新基地建設の埋め立て土砂の投入の問題で、「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」と沖縄選出国會議員でつくる「うりずんの会」は13日、沖縄防衛局を訪れ、埋め立て工事の中止を求める要請を行いました。

要請書では、これまでの県の行政指導などに従って工事・作業を停止することを求めています。県は12日にも防衛局に、民間棧橋から土砂を運ぶなどの一連の作業は「違法無効」だとして、中止を求める行政指導の文書を手交しました。

オール沖縄会議の稲嶺進共同代表(前名護市長)から要請書を受け取った中嶋浩一郎局長らは、県の行政指導については中身を精査中と回答。高里鈴代共同代表は「精査の間は工事をストップすべき」だと主張。糸数慶子参院議員(会派・沖縄の風)も「精査しながら工事続行はおかしい」と追及しました。

防衛局側は、新基地建設の「早期実現のために工事は進める」と繰り返しました。社民党の照屋寛徳衆院議員は「県民は怒っている。とても県民の理解は得られない」と厳しく批判しました。

搬送された土砂(岩ズリ)は定められた規格に反する疑いがあるとの伊波洋一参院議員(沖縄の風)の指摘にも、防衛局側は証拠も示さずに「問題ない」と一蹴しました。

日本共産党の赤嶺政賢衆院議員の沖縄現地秘書も要請に同席しました。

しんぶん赤旗 2018年12月15日(土)

## 辺野古土砂投入は即時中止を 東京 小池書記局長が訴え



(写真)辺野古への土砂投入に抗議の訴えをする小池書記局長(中央)と宮本徹院議員。右は司会の田中新宿区議=14日、東京・新宿駅西口

安倍政権が沖縄県名護市辺野古への米軍新基地建設にともなう土砂投入を強行した14日、日本共産党は東京・JR新宿駅前で抗議の緊急街頭宣伝を実施し、小池晃書記局長が「県民の怒りの火にガソリンを投入することになる。新基地は断念せよという声を東京、日本中から沖縄に集めていこう」と訴え。訴えを聞いた女性らをはじめ多くの通行人が、新基地建設を許さない署名にペンを走らせた。

小池氏は、沖縄県知事選で玉城デニー氏が圧倒的に勝利したにもかかわらず、「辺野古新基地建設を許さない」という民意を一顧だにせず、土砂投入した。県民の思いを土足でふみにじる暴挙を絶対に許すわけにはいかない」と批判。国が行政不服審査法で埋め立て承認撤回を執行停止したことについて、「法律違反の無法行為であり、違法に違法を重ねるものだ」と告発しました。

投入強行の背景に、来年2月24日に予定される新基地建設を問う県民投票があるとして、「土砂を投入すれば、あきらめるだろう」という思惑がある」と指摘。「このやり方には未来も展望もない。大浦湾側にはマヨネーズ並みの超軟弱地盤があるが、必要な設計変更には知事の許可が必要であり、デニー知事はそんな工事を許可しないだろう。新基地建設を許さない声を上げれば止めることはできる」と強調しました。

宮本徹衆院議員は、「工事そのものが無法行為だ。“工事はただちにやめよ”の声を沖縄県民と一っしょに上げていこう」と呼びかけました。とくとめ道信都議が訴えました。

## 辺野古土砂投入「問答無用の暴挙」と野党=与党は適法性強調

時事通信 2018年12月14日 18時18分



土砂が投入された辺野古の埋め立て海域周辺に集まった抗議船(手前)=14日午前、沖縄県名護市(時事通信ヘリより)

政府が米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設先の名護市辺野古の埋め立て海域で土砂投入を始めたことに対し、移設に反対する野党は14日、「問答無用の暴挙に怒り

を禁じ得ない」(立憲民主党の福山哲郎幹事長)などと厳しく批判した。与党側は政府の手続きの適法性を強調した。

福山氏は国会内で記者団に「安倍政権には沖縄への情もなく、法の支配や民意に対する謙虚さのかけらもない」と非難。政府に対し作業を直ちに中止し、沖縄県との対話を再開するよう求めた。

国民民主党の玉木雄一郎代表は「県民投票の結果が出るまでは土砂投入はやめるべきだ。銃剣とブルドーザーの再来で、沖縄県民との埋め難い亀裂が生じることを強く懸念する」と述べた。千葉県八千代市で記者団に語った。

共産党の小池晃書記局長はJR新宿駅前で街頭演説し、「沖縄県民の怒りの火にガソリンを投入することになる。大失敗だったと後で悔やむことになる」と訴えた。

一方、自民党の加藤勝信総務会長は記者会見で「政府は法令にのっとって物事を進めてきた」と強調。住宅に囲まれた普天間飛行場の危険性を取り除くため、「責任を持って進めていくべきだ」と語った。

## 辺野古土砂投入 「政権の強硬姿勢出た」 野党、一斉に反発

毎日新聞 2018年12月14日 21時04分(最終更新 12月15日 00時47分)



辺野古沿岸部の埋め立て海域で、ダンプカーから次々と投入される土砂(右)＝沖縄県名護市で2018年12月14日午後2時28分、野田武撮影

14日に米軍普天間飛行場移設に伴う沖縄県名護市辺野古沿岸部への土砂投入が始まり、野党各党は一斉に反発した。与党は政府を後押ししつつ、沖縄県民の理解を得る努力も求めた。

「安倍政権には沖縄への情も、(県知事選で示された)直近の民意への謙虚さのかけらもない。直ちに中止すべきだ」。土砂投入開始直後の午前11時15分、立憲民主党の福山哲郎幹事長は国会内に集まった記者団を前に語気を強めた。来年2月に予定される、移設への賛否を問う県民投票にも触れ「なぜ結果を見ようもしないのか。政権の強硬的な姿勢が表れた」と不満を示した。

国民民主党の玉木雄一郎代表も千葉県八千代市で記者団の取材に応じ「まさに『銃剣とブルドーザー』の再来だ」と批判。「県民の反米感情が強くなれば日米安保に悪影響を及ぼす可能性もある。政府と県民に埋めがたい亀裂が生じかねない」と懸念を示した。

共産党はJR新宿駅前で抗議の街頭演説を実施。小池晃書記局長が「辺野古移設を認めないのが知事選での県民の総意。(安倍晋三首相は)日本の首相なら県民の声に答えて

仕事すべきだ」と訴えた。

一方、自民党の岸田文雄政調会長は記者団に「学校や住宅に囲まれた普天間は世界一危険との指摘がある」と政府に理解を示し「負担軽減につながると丁寧に説明するのが重要だ」と述べた。公明党の石田祝稔政調会長は「地元の理解を得られるよう最大の努力を政府にお願いしたい」と語った。【遠藤修平、村尾哲】

「力業が過ぎる」自民からも疑問 辺野古工事強行に  
朝日新聞デジタル山下龍一、岡村夏樹、園田耕司＝ワシントン、藤原慎一、伊藤和行 2018年12月15日 05時24分  
米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画が、新たな段階に入った。辺野古沿岸部への土砂投入。安倍政権は沖縄の民意を顧みることなく、強引に突き進む。民主主義、安全保障、環境――。様々な課題をはらんだまま、海が埋め立てられようとしている。

「民意をないがしろにし、県の頭越しに工事を進めることは、法治国家そして民主主義国家において決してあってはならない。地方自治を破壊する行為で、本県のみならず、他の国民にも降りかかる」

辺野古の海に土砂投入が始まった14日、玉城デニー知事は会見で語気を強め、安倍政権への怒りをあらわにした。



記者会見で土砂投入を批判する玉城

デニー知事＝2018年12月14日午前11時59分、沖縄県庁、伊藤和行撮影

安倍政権は4年前の知事選で辺野古移設反対を掲げた翁長雄志氏の当選後も、工事を着々と進めた。9月の知事選で玉城氏が過去最多得票で当選してからは、動きを加速させた。

安倍晋三首相は玉城氏と10月12日に会談し、「知事選で辺野古移設反対の民意が示された」と伝えられた。それからわずか5日後、政権は県の埋め立て承認撤回の効力停止の手続きを開始。知事選から約1カ月後の11月1日に工事を再開した。

県と政府の集中協議が11月28日に終わって5日後の今日3日には、土砂の搬出を民間の棧橋から開始。さらに岩屋毅防衛相が今日14日の土砂投入開始を明言した。防衛省関係者は「最悪なのは、辺野古ができないなら、この先も普天間飛行場を使い続けるとなる展開だ」と話す。



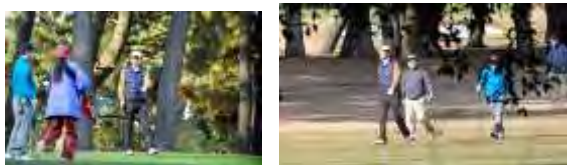
記者会見で質問に答える菅義偉官

房長官＝2018年12月14日午後4時25分、岩下毅撮影

菅義偉官房長官は14日の会見で「辺野古移設が唯一の解決策だ」と、これまでの主張を繰り返した。沖縄の民意を顧みていないのではとの問いには「まったくあたらない」と答えた。翁長氏と玉城氏を知事に当選させた県民の意思は、一顧だにしない姿勢だ。

選挙結果を政策判断に反映する…  
残り：2592文字／全文：3310文字

安倍首相、辺野古質問に苦笑い ゴルフ場で記者団に  
朝日新聞デジタル 2018年12月15日11時40分



秘書官ら

とゴルフをする安倍晋三首相＝神奈川県茅ヶ崎市

安倍晋三首相は15日午前、神奈川県茅ヶ崎市のゴルフ場を訪れ、秘書官らとゴルフをした。

記者団から調子を尋ねられると、「今日は結構冷え込んでいるけど、寒さに耐えて頑張っていますよ」と笑顔を浮かべた。

しかし、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設工事で名護市辺野古沿岸部の埋め立てが始まったことについて質問が飛ぶと、首相は苦笑い。身体を反転させて無言でゴルフ場に戻った。

普天間飛行場、22年度返還「難しい」＝岩屋防衛相  
時事通信 2018年12月14日12時00分



閣議後に記者会見する岩屋毅防衛相＝14日午前、首相官邸

岩屋毅防衛相は14日の閣議後の記者会見で、早ければ2022年度を目指すとした米軍普天間飛行場の返還について、「その目標の達成はなかなか難しいところに来ている」と述べ、困難になったとの認識を明らかにした。

日米両政府は13年、普天間飛行場の返還時期を「22年度またはその後」とすることで合意した。しかし、移設先となる名護市辺野古の工事の遅れから、22年度の返還は難しいとの見方が出ている。

普天間返還：岩屋毅防衛相「2022年度は困難」責任転嫁と県反発

沖縄タイムス 2018年12月15日 05:01

【東京】岩屋毅防衛相は14日、早ければ2022年度とされる米軍普天間飛行場の返還時期に関し、「その目標は難しいところに来ている」との認識を示した。理由として、普天間の移設先とされる名護市辺野古の埋め立て承認を、県が撤回したことを挙げた。政府が22年度の返還を困難視したのは初めて。



岩屋毅防衛相（資料写真）

日米両政府が13年に合意した沖縄における在日米軍施設・区域の統合計画では、普天間の返還時期を「2022年度またはその後」としている。

岩屋氏は辺野古に土砂を投入したことを受け、記者団に改めて普天間の返還時期を問われ、「その（22年の）方針に向かって努力を続けてきたが、この間、一度承認をいただいた埋め立てについて、（県に）撤回されたなどという変遷があった」と説明。「そういうことからすれば、その目標の達成はなかなか難しいところに来ていることは事実だ」と述べた。

謝花喜一郎副知事は「県は完成まであと13年かかると主張している。予定通りに進まないことを政府が認めるのは当然だ。その間、普天間の危険性を放置するのか。危険性の除去が原点なら、即時に閉鎖すべきだ」と強調。岩屋氏が遅れの原因を県の埋め立て承認取り消しや撤回と示唆したことに「責任を県に押し付けているとしたら、とんでもない話だ」と憤った。

「普天間返還を成し遂げる」 防衛相、土砂投入を発表  
沖縄タイムス 2018年12月14日 11:57

【東京】岩屋毅防衛相は14日、沖縄県名護市辺野古の新基地建設で埋め立て海域に初めて土砂を投入したと発表した。「22年越しの問題を今度こそ解決して、普天間飛行場の全面返還を着実に成し遂げたい」と述べた。



名護市辺野古の埋め立て海域に土砂を投入したと発表した岩屋毅防衛相＝14日、東京都大田区の羽田空港

岩屋氏は「抑止力を維持しつつ、沖縄の負担を軽減するために（普天間の）辺野古移設という方法しかない」と強調。「沖縄の皆さんにご理解いただけるよう、これからも粘

り強く丁寧に説明を尽くしたい」と述べた。

来年2月には新基地建設の是非を問う県民投票が予定されているが、「一步一步、前に着実に進めさせていただきたい」と述べ、作業を進める考えを示した。

羽田空港で記者団に答えた。

また、土砂投入前にあった首相官邸での記者会見で岩屋氏は、早ければ2022年とされている普天間の返還時期に関し、「目標の達成はなかなか難しいところに来ていることは事実だ」との認識を示した。

## 防衛相、辺野古移設は国民のため 抑止力強化の観点から推進

2018/12/15 13:02 12/15 14:41 updated 共同通信社

岩屋毅防衛相は15日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設について「日米同盟のためではない。日本国民のためだ」と述べ、抑止力強化の観点から推進していく考えを改めて示した。視察先の北海道千歳市で記者団に述べた。

岩屋氏は、日本の防衛の最前線は南西地域だと指摘した上で「この地域の抑止力を減退させるわけにはいかない」と強調。政府の土砂投入に沖縄で反発の声が広がっていることに対しては「そういう声も受け止めながら、政府は政府としての責任をしっかりと果たしていく」と語った。

地元との対話は今後も「あらゆるレベルで行う」とした。

## 辺野古移設「日米同盟でなく日本国民のため」岩屋防衛相 朝日新聞デジタル 2018年12月15日14時47分



岩屋毅防衛相

岩屋毅防衛相（発言録）

（沖縄県宜野湾市の米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画について）日米同盟のためではない。日本国民のためです。

今、日本の守りの最前線は南西地域。この地域の抑止力を減退させるわけにはいかないという考え方に立って、しかし沖縄の過重な負担は減らしていかなければいけないという決意の下に、（辺野古沿岸部埋め立ての）こういう判断を行っているのご理解をいただきたい。（15日、北海道千歳市で記者団に）

## 辺野古土砂投入「予定通り着手」と防衛相

毎日新聞 2018年12月14日11時52分（最終更新 12月

14日13時18分）



閣議後、米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古への県内移設に向けて埋め立て予定海域に土砂投入を始めたことを記者団に話す岩屋毅防衛相＝首相官邸で2018年12月14日午前10時44分、川田雅浩撮影

菅義偉官房長官は14日午前の記者会見で、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に向けた埋め立て予定海域への土砂投入開始について、「午前8時半ごろ、沖縄県に連絡したと報告を受けている」と述べた。菅氏は、1カ月にわたる沖縄県側との集中協議や安倍晋三首相と玉城デニー知事との会談を挙げ、「辺野古移設に対する考え方の隔たりは大きかった」と改めて強調。「協議終了を踏まえて、国として辺野古への移設を進めている」と予定通り工事を進める考えを示した。

また、岩屋毅防衛相は同日午前、首相官邸で記者団に「必要な準備が整ったことから、予定通り午前8時ごろ、埋め立てに着手した」と説明。「普天間の危険性除去も沖縄の民意と承知しており、政府も県も同じ考え方に立っている。沖縄と対立する思いは全くない」と述べた。【高橋克哉、木下訓明】

## 岩屋防衛相、辺野古移設は「国民のため」

産経新聞 2018.12.15 14:21

岩屋毅防衛相は15日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の名護市辺野古への移設について「日米同盟のためではない。日本国民のためだ」と述べ、抑止力強化の観点から推進していく考えを改めて示した。視察先の北海道千歳市で記者団に述べた。

岩屋氏は、日本の防衛の最前線は南西地域だと指摘した上で「この地域の抑止力を減退させるわけにはいかない」と強調。政府の土砂投入に沖縄で反発の声が広がっていることに対しては「そういう声も受け止めながら、政府は政府としての責任をしっかりと果たしていく」と語った。

地元との対話は今後も「あらゆるレベルで行う」とした。

## 辺野古「日米同盟のためでなく日本国民のため」防衛相 NHK 2018年12月15日15時24分



沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設計画で、名護市辺野古の埋め立て予定地に土砂の投入が始まって2日目の15日、

岩屋防衛大臣は、「移設は、日米同盟のためではなく、日本国民のためだ」などと述べ沖縄県の理解を粘り強く求めていく考えを重ねて示しました。



沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設計画で、政府は、14日、名護市辺野古の埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始し、沖縄県は反発を強めています。

岩屋防衛大臣は、15日、視察先の北海道千歳市で記者団に対し、「移設は日米同盟のためではない。日本国民のためだ。日本の守りの最前線は南西地域であり、抑止力を減退させるわけにはいかない。沖縄の過重な負担も減らさなければならぬ」という決意で行っているとご理解頂きたい」と述べ、沖縄県と対話を続け、粘り強く理解を求めていく考えを重ねて示しました。

また、記者団が、「沖縄県が反対する中で工事を進めることは、民主主義に反するという指摘もあるが」と質問したのに対し、岩屋大臣は、「普天間基地を返還してほしいというのは、一貫した沖縄の皆さんの思いだ。ほかに方法があるか考えて、最終的に辺野古に移設する案に戻り、こんにちを迎えており、一步一步進んでいきたい」と述べました。

### 岩屋防衛相「辺野古移設、今度こそ実現」 辺野古埋め立て作業に着手

産経新聞 2018.12.14 11:50



米軍普天間飛行場の移設先、

沖縄県名護市辺野古の沿岸部で始まった埋め立て用土砂の投入作業＝14日午前11時2分

岩屋毅防衛相は14日午前の記者会見で、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の移設に関し、名護市辺野古沿岸での埋め立て作業に着手したと発表した。「2年前に約束した普天飛行場の返還を今度こそ実現したい」と述べた。

岩屋氏によると、同日8時ごろから埋め立て作業に着手し、8時半ごろに沖縄県側に通知した。

岩屋氏は「辺野古移設が唯一の解決策という考え方に変わりはない」と強調。沖縄県で埋め立て作業への反対の声が強いとの指摘については「普天間飛行場の危険性を除去し、返還を実現するというのも沖縄の民意だ」と反論した。「今後とも丁寧に説明を重ねる」とも語った。

### 辺野古への土砂「民意、意図的に逆なで」 立憲・枝野氏

朝日新聞デジタル 2018年12月15日18時42分



記者会見する立憲民主党の枝野

幸男代表＝15日午後、山形市

枝野幸男・立憲民主党代表（発言録）

（米軍普天間飛行場の移設工事で、政府が沖縄県名護市辺野古の沿岸部に土砂投入したことについて）政府が意図的に逆なでになっているとしか思えない。長い目で見れば、日米安保にも悪い影響を与えかねないという状況だと強く危惧をしている。やはりこれだけ沖縄の直近の民意が示されている中で、意図的に逆なでしているとしか思えない。到底容認されるものではない。（15日、山形市での記者会見で）

### 立民 枝野代表「沖縄の民意 意図的に逆なで」政府を批判

NHK2018年12月15日19時03分



沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設計画で、政府が名護市辺野古の埋め立て予定地に土砂の投入を始めたことについて立憲民主党の枝野代表は、「沖縄の民意を意図的に逆なでするような進め方だ」と述べ、批判しました。

枝野代表は、山形市で記者会見し、沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設計画で、政府が14日、名護市辺野古の埋め立て予定地に土砂の投入を始めたことについて「沖縄の民意を意図的に逆なでするような進め方で、到底、容認できない。政府が、いじじになっているとしか思えない」と批判しました。

また、枝野氏は、自民・公明両党が決定した来年度の税制改正大綱について、「今の経済状況で、無理に消費税率の引き上げを強行し、複数税率を導入することが前提となっている。無理を取り繕おうとして、訳のわからないパッチワークになっていて、全くの失敗作だ」と述べました。

### 立民・福山幹事長「民意踏みにじる」 辺野古土砂投入

産経新聞 2018.12.14 13:06



土砂の投入に向け準備が進む沖

縄県名護市辺野古の沿岸部＝14日午前9時28分



立憲民主党の福山哲郎幹事長は14日午前、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の移設に関し、政府が名護市辺野古沿岸での埋め立て作業に着手したことに抗議した。「沖縄県知事選の民意は明らかに基地建設反対だった。それにもかかわらず、問答無用とばかりに暴挙に出たことに怒りを禁じ得ない」と国会内で記者団に語った。

福山氏は「安倍晋三政権は沖縄への情もなく、法の支配や直近の民意に対する謙虚さのかけらもない。民主国家にはほど遠い状況だ」と批判し、政府に土砂投入の中止などを求めた。

福山氏は、辺野古移設の是非を問う来年2月の県民投票の結果を踏まえるべきだとも主張した。

### 辺野古土砂投入「問答無用の暴挙」 立民・福山幹事長ら批判

東京新聞 2018年12月14日 夕刊



海上での抗議活動が続く中、

埋め立て用の土砂の投入が始まった沖縄県名護市辺野古の沿岸部＝14日午前11時4分

立憲民主党の福山哲郎幹事長は14日午前、沖縄県名護市辺野古（へのこ）での土砂投入を受け、国会内で記者団に「問答無用とばかりに暴挙に出た」と批判した。

福山氏は「怒りを禁じ得ない。政府には直ちに土砂投入をやめ、沖縄県との対話を再開するよう強く求めたい」と強調。「安倍政権は沖縄への情も、民意への謙虚さのかけらもない」とも非難した。

国民民主党の原口一博国対委員長は取材に「土砂投入は沖縄に対する差別であり、最大限の言葉で非難し、抗議する」と話した。共産党の小池晃書記局長も「土砂投入は明らかに違法行為だ。日本の民主主義、法治主義に土砂をかけるようなものだ」と指摘した。

菅義偉（すがよしひで）官房長官は14日午前の記者会見で、「わが国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、日米同盟の抑止力維持と米軍普天間（ふてんま）飛行場の危険除去を併せて考えたとき、辺野古移設が唯一の解決策だ」と理解を求めた。

その上で「沖縄の基地負担軽減を目に見える形で実現する政府の取り組みについて、丁寧に説明し、地元の理解を得たい」と語った。

### 政治的にも「唯一の移設先」＝辺野古土砂投入で米國務省時事通信 2018年12月14日 14時30分

【ワシントン時事】米國務省当局者は13日、埋め立て

海域への土砂投入が始まった米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設工事について、取材に対し「運用面や政治面、財政面、戦略面の懸念に対処する唯一の解決策だ」とする認識を示した。

同当局者は、辺野古について「前方展開する海兵隊の軍事的即応性を保証する」と述べ、戦略面での優位性を強調。危険を伴う普天間飛行場の「継続的な使用を回避できる」利点も訴えた。

### 米、辺野古移転の取り組み支持 沖縄の負担軽減を支援 2018/12/14 11:48 共同通信社

【ワシントン共同】米政府は、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）移設に向けて日本政府が14日に実施した名護市辺野古沿岸部への土砂投入を支持する考えだ。米軍の抑止力を維持すると同時に、普天間の継続使用を回避するための「唯一の解決策」として、沖縄の基地負担軽減への協力を通じ、日本政府の取り組みを支援する。

米側は移設計画に関し「日本政府と密接に協力している」（マニング国防総省報道部長）と強調してきた。日本政府と沖縄県の対立を「日本の内政問題」と位置付け距離を置く一方、移設作業を後押しするため、米軍基地の先行返還など負担軽減に積極的に協力する立場を取っている。

### 「沖縄の民意に反して工事着手」 米主要メディアが一斉に報道

沖縄タイムス 2018年12月15日 15:36

【平安名純代・米国特約記者】米主要紙は13日、名護市辺野古の新基地建設を巡って、「沖縄の民意に反して日本政府が埋め立て工事に着手した」などと一斉に報じた。



埋め立て区域に土砂を投入するダンプカー＝14日午後、名護市辺野古

米有力紙ワシントン・ポストは、護岸で囲われた埋め立て区域に土砂が投入された約20分後、AP通信の東京発の記事を用いて速報。「地元の激しい反発にもかかわらず、日本政府が沖縄の米軍基地移設地で埋め立て工事を開始」と伝えた。

ニューヨーク・タイムズ紙も、玉城デニー知事が記者会見し「県民の反対の民意を無視したやり方に激しい憤りを禁じ得ない」と、政府の強硬姿勢を強く非難したことなどを報じた。

米ABCテレビは、「米軍基地が集中する県民は県内移設に反対し続けてきたが、日本政府は辺野古移設が『唯一の

解決策』との姿勢を崩していない」などと指摘した。

## 「辺野古のどさくさに紛れて…」 高江も工事再開 1年2カ月ぶり

沖縄タイムス 2018年12月15日 09:21

新基地建設に向けて沖縄県名護市辺野古沿岸での土砂投入が始まった14日、沖縄防衛局は、1年2カ月ぶりに米軍北部訓練場内にあるヘリパッド関連の工事を再開した。同訓練場N1地区周辺の道路「Fルート」の拡幅工事のため、砂利などの資材を積んだ工事車両延べ50台が基地内に入った。



砂利を積んだ工事車両が次々と米軍北部訓練場内に入っていく＝14日午前9時すぎ、東村高江

午前7時48分、機材を積み降ろした工事車両5台が、民間警備員が立ち並ぶ通称N1表ゲートから出た。車両の出入りを知った高江に住む伊佐育子さん（58）は午前9時すぎ、ゲート前に駆け付け「辺野古のどさくさに紛れて、高江の工事も同時に始めるなんて、県民をばかにしている」と憤った。（北部報道部・山田優介）

## 玉城知事と石井国交相に文書で説明求める 「国地方係争処理委員会」の第1回会合

琉球新報 2018年12月14日 18:23



辺野古新基地建設問題に関する県からの申し出を話し合う国地方係争処理委員会＝14日、総務省

【東京】米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設計画を巡り、総務省の第三者機関「国地方係争処理委員会」の1回目の会合が14日午後、総務省で行われた。

県による埋め立て承認撤回の効力を停止した石井啓一国土交通相の執行停止決定が国の関与に該当するかを検討するため、近く玉城デニー知事と石井国交相に文書で説明を求めることを決めた。【琉球新報電子版】

辺野古移設 国地方係争処理委が初会合 来年2月までに

## 結論

NHK2018年12月14日 18時03分



アメリカ軍普天間基地の移設計画をめぐり、国と地方の争いを調停する「国地方係争処理委員会」の初会合が開かれました。沖縄県は、県による埋め立て承認撤回の効力を国土交通大臣が一時的に停止した決定は違法だと主張しているため、さらに説明を求めることを決めました。

アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画をめぐり、政府は14日、埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始しましたが、沖縄県は、県による埋め立て承認撤回の効力を、ことし10月に国土交通大臣が一時的に停止した決定は違法だとして、国と地方の争いを調停する国地方係争処理委員会に審査を申し出ています。

これを受けて、委員会は、総務省内で初会合を開き、出席した5人の委員が意見を交わしました。

そして、今回の申し出が審査の対象になるかどうか判断するため、沖縄県知事と国土交通大臣に対し、文書でさらに説明を求めることを決めました。

このあと、富越和厚委員長は記者会見し、「入り口で議論している段階だ」と述べました。

委員会は、法律の規定に基づいて来年2月28日までに結論を出すことにしています。

沖縄県は3年前にも、埋め立てをめぐる国の決定は違法だとして、国地方係争処理委員会に審査を申し出ましたが、委員会は「審査の対象にならない」として却下しています。

## 架空の辺野古を描き「売国奴」 映画監督が直面した分断 朝日新聞デジタル聞き手・木村司 2018年12月14日 22時39分



仲村颯悟さん

映画監督・仲村颯悟さん

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）返還で日米が合意した1996年に生まれました。「一日も早い危険除去を」と言われますが、僕は22歳になりました。

きょう辺野古の海に土砂が投入…

残り：801文字／全文：887文字

## 僕が「ネトウヨ」と決別した理由 翁長前知事の次男

朝日新聞デジタル聞き手・吉田貴文 2018年12月14日 18時55分



父である

故翁長雄志・前沖縄知事と「保守」を語る次男で那覇市議の翁長雄治さん＝2018年11月16日午後、那覇市内の事務所、仙波理撮影

米軍普天間飛行場の移設先、辺野古沿岸への土砂投入が14日、始まった。保守政治家でありながら自民党政権が進める移設に抵抗し、8月に急逝した故翁長雄志（おながたけし）前沖縄県知事。次男で那覇市議の雄治（たけはる）さんは沖縄を守る保守として、基地を強いる本土の保守との対立も辞さないと言う。元ネトウヨの彼が思い描く保守のカタチとは。

——お父さんの翁長雄志・前沖縄県知事が8月8日に亡くなった3日後の11日、那覇市で開かれた辺野古土砂投入阻止の県民集会での雄治さんのスピーチが語りぐさになっています。

「父が死ぬ2日前、病室で30分ぐらい話をしました。沖縄のこと、基地のこと、あれこれ語りましたが、そのときの父の言葉をここで県民に伝えないでいつ言うのかと思います、自分からお願いしてあいさつをさせてもらいました」

——スピーチで、沖縄がいかに米軍基地の負担に苦しめられてきたか。新たな基地には大義名分がないこと。「ウチナンチュ（沖縄の人）が心をつにして闘うときは、おまえが想像するより、はるかに大きな力になる」と父から言われた、などと述べています。

「そんな話をした翌朝、父の容体が急変。午後にもまた来るよという呼びかけに、『ああ』と言ったのが、肉声を聞いた最後でした」

——後継を選ぶ知事選は、雄治さんが指名しオール沖縄が支援した玉城デニー氏と自民・公明両党が推す佐喜真淳前宜野湾市長の一騎打ち。メディアの情勢調査は玉城氏優勢を伝えていましたが。

「知事選は玉城選対の青年局長をやらせていただきました。今年2月の名護市長選ではオール沖縄が推す稲嶺進氏が事前調査で有利だったのに、最後に自民・公明が推す候補に逆転された。その再来を恐れましたが、今回は自公に名護市長選時の勢いがなかった」

——3代続く保守政治家の家系です。選挙はお手のものでは？

「我が家には『政治は家業ではない』という家訓があり、できるだけ政治から遠ざかるように言われていました。父の選挙も母は僕を選挙事務所に行かせたくなかった。勝手に遊びにいっていましたがね。選挙を手伝ったのは大学時代的那覇市長選が最初です」

——その頃から政治に興味を持つようになった？

「正確には大学4年だった09年、民主党が自民党から政権を奪取した年です。当時の僕はネトウヨバリバリ。韓国は悪い、中国はとんでもない、民主党はダメな党といった右派のコメントをSNSで読んでは、共感のコメントを書き込んでいました」

「あの頃、日本は雰囲気がおか…  
残り：2293文字／全文：3328文字

## 辺野古土砂投入 沖縄の苦悩、舞台化 演出家・幸喜さん 「人間回復の闘い」

琉球新報 2018年12月15日 12:22



土砂投入を強行した政府に「沖縄を侮辱している」と憤る幸喜良秀さん＝13日、浦添市のでだこホール

沖縄戦や戦後の沖縄の苦悩を表現する舞台作品を数多く手掛けてきた演出家の幸喜良秀さん（80）＝沖縄市＝は、名護市の辺野古沿岸に土砂を投入し、新基地建設を強行する政府に対し「県民の声を無視し、差別している。沖縄を侮辱している。許せない」と憤る。

生まれ育ったのは美里村（現・沖縄市）。7歳の時に体験した沖縄戦で20歳、18歳だった姉2人が戦場に動員され犠牲となった。10代半ばだった兄も敗戦直後、不慮の事故で命を落とした。幸喜さんは兄の死も「戦争の続きだ」と捉えてきた。

戦後は「銃剣とブルドーザー」で土地を強制接収する米軍に抗議し、コザ高3年の時には伊佐浜の土地闘争の集会で高校生代表として発言したこともある。

県民が基地建設に反対しても圧倒的な力で基地建設を強行し、米統治下も今も変わらない不条理は、多くの演劇で表現してきた。幸喜さんが演出し、うるま市や浦添市で今月、上演した舞台「タンメーたちの春」でも基地を巡る戦後・沖縄の苦悩を描いた。

これ以上の過重な基地負担を拒否する県民の思いについて「立ち向かって拒否していくことは非常に人間的な営みだ。政治的なものではなく、人間的な当たり前の要求だと思う」と強調する。「人間回復の闘いは、世界に支持される。

沖縄だけの問題でない。(人権が)踏みにじられている国々とは、必ず連帯していけるはずだ」と国際世論に訴えていく必要性を語った。

## 県民投票、浦添市議会も認めず＝本部町は再議の方向－沖縄

時事通信 2018年12月14日 21時01分

沖縄県浦添市議会は14日の本会議で、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古移設への賛否を問う県民投票の事務執行に必要な予算を含む補正予算案を反対多数で否決した。松本哲治市長の対応が焦点となる。

本部町議会も同日、県民投票に関する補正予算案を賛成少数で否決した。同町は再議に付す方向で調整している。

## 山城議長の控訴棄却 高裁那覇支部 新基地抗議、猶予刑

琉球新報 2018年12月14日 11:10

沖縄県名護市辺野古の新基地建設などに対する抗議活動などを巡り威力業務妨害や公務執行妨害・傷害など四つの罪に問われた沖縄平和運動センターの山城博治議長(66)ら2人の控訴審判決公判が13日、福岡高裁那覇支部で開かれた。大久保正道裁判長は山城議長の無罪主張を退け懲役2年、執行猶予3年の判決を言い渡した。一審那覇地裁判決を支持し、山城議長側の控訴を棄却した。山城議長は上告を検討している。

裁判では名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ工事前で資材搬入に抗議するために実施したブロック積みが憲法の保障する表現行為に該当するかどうかを主に争われた。

大久保裁判長は1486個のブロック積み上げ行為について、有形力を用いて妨害した「威力」に該当するだけでなく、憲法で保障された表現の自由の趣旨にもそぐわないと判断し、「表現の自由の範囲を逸脱している」と認定した。

表現行為に刑事罰を適用する違憲性を判定するための審査基準の必要性については「表現行為で摘発されてないため前提を欠く」と退けた。場所が公道上で国の施策に反対する行為だったとしても「威力」のため「表現の自由の行使として許されない」と判示した。

共謀者として問われ一審で懲役8月、執行猶予2年の判決を受けた稲葉博さん(68)の控訴も棄却された。

## 沖縄防衛局係長が酒気帯び容疑 「車で寝て抜けたかと」

朝日新聞デジタル 2018年12月15日 12時16分

酒気帯び状態で運転したとして、沖縄県警は15日、同県豊見城市真玉橋、沖縄防衛局係長の小橋川努容疑者(50)を道路交通法違反(酒気帯び運転)容疑で現行犯逮捕し、発表した。「ビールを飲んだが、車で寝て、酒は抜けたと思った」と話しているという。

豊見城署などによると、15日午前4時過ぎ、豊見城市

真玉橋の県道で信号無視した乗用車をパトカーが発見。停止を求め、運転していた小橋川容疑者の呼気を検査したところ、基準値の4倍に当たる1リットルあたり0.6ミリigramのアルコールが検出された。職場の忘年会だったという。

沖縄防衛局は14日、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ沿岸部で土砂投入を始めたが、防衛局によると小橋川容疑者の部署は直接関係していないという。

また沖縄署は15日、キャンプ・シュワブ所属の米海兵隊伍長エドウィン・アリステサバル容疑者(24)を道交法違反(酒気帯び運転)容疑で現行犯逮捕し、発表した。